

平成 22 年度  
地域福祉推進リーダー養成塾  
報告書  
～地域福祉の担い手養成の試み～

平成 23 年 4 月  
大阪市社会福祉研修・情報センター

# 目 次

|   |    |
|---|----|
| 1. 福祉人材養成塾からのステップアップ                        |    |
| (1) 地域福祉時代の人材養成 .....                       | 1  |
| (2) 課題の整理 ～人材養成塾のふりかえり～ .....               | 4  |
| (3) 人材養成塾への展開<br>～プログラム体系および体制の整備・検討～ ..... | 6  |
| 2. 地域福祉推進リーダー養成塾の概要                         |    |
| (1) 実施要領 .....                              | 11 |
| (2) カリキュラム .....                            | 13 |
| (3) 受講者属性等分類表 .....                         | 14 |
| 3. 参加者アンケート(事前・事後)の結果 .....                 | 15 |
| 4. 参加者報告書 .....                             | 31 |
| 5. 今後の方向性について .....                         | 63 |
| 巻末資料 .....                                  | 65 |

## 1. 福祉人材養成塾からのステップアップ

### (1) 地域福祉時代の人材養成

社会福祉は 2000 年の社会福祉基礎構造改革を機に地域福祉時代<sup>1</sup>に突入した。日本における地域福祉の発展は 1970 年代から始まり、今日に至っている。さらには地域福祉が社会福祉法上に位置づけられ、その重要性が日に日に増しているのである。武川はこのような状況を「地域福祉の主流化」と呼んでいる。また、武川(2006:2)によると地域福祉の主流化とは老人福祉、児童福祉、障害者福祉のような縦割りではなく、領域横断的な地域福祉の考え方が社会福祉の世界で重視されるようになってくる状況のことを指している。また武川(2006: ii)は地域福祉の主流化が、社会福祉だけではなく、現代日本の地方行政、地方自治、地域社会などに関係する諸問題が地域福祉のなかに集約的に表現されるようになったことであると述べている。このように地域福祉ではその名の通り「地域（社会）」に焦点が当てられ、そのことが地域住民の存在を強く意識していくことにつながっている。このことに関連して、M.Sandel(2010:339)は「公正な社会には強いコミュニティ意識が求められるとすれば、全体への配慮、共通善への献身を市民のうちに育てる方法を見つけなければならない。公共の生における市民の姿勢と性向、いわゆる「心の習慣」に無頓着ではいけない。善良な生活という純粋に私事化した概念によらずに市民道徳を育てる方法を見つけなければならない」と指摘している。このような背景から地域福祉時代の人材養成と、その取り組みである地域福祉推進リーダー養成塾について考察を深める。

第 1 に地域福祉時代の人材養成の対象を明らかにしたい。つまり、地域福祉を推進する人材についての整理である。これは地域福祉推進リーダー養成塾の対象者にもなる。社会福祉法第 4 条に地域福祉の推進が「地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない」と定められている。これから地域福祉の推進には①地域住民、②社会福祉を目的とする事業を経営する者、③社会福祉に関する活動を行う者の 3 者が位置づけられていることがわかる。この 3 者を整理したのが図 1 である。①地域住民は地域社会を基盤に生活をしている

---

<sup>1</sup> 地域福祉時代とは、2000 年の社会福祉基礎構造改革以降のことを指す。地域福祉が法律で位置づけられた。それ以降、社会福祉分野における一連の制度、政策、実践は地域社会を基盤とする、地域福祉を重視したものが主流となったのである。

限り誰もが当てはまる。そして、その中には③社会福祉に関する活動を行う者がおり、これには専門職として活動を行う者と、専門職ではないが活動を行う者の 2 者が存在する。また、専門職として活動を行う者の中には②社会福祉を目的とする事業を営む者がいる。これら 3 者が協働して地域福祉を推進していかなければならないのである。

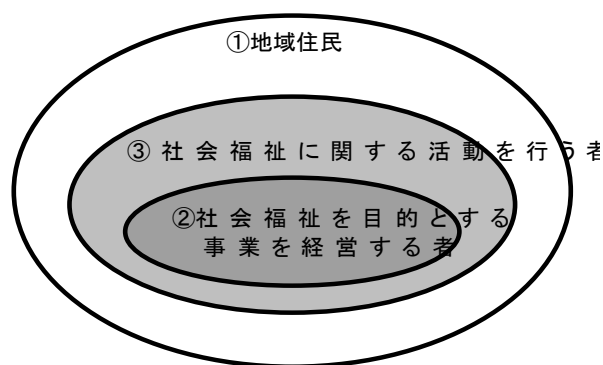


図 1 地域福祉を推進する 3 者（筆者作成）

これらのことから、地域福祉時代の人材養成の対象はこの 3 者すべてとなる。図 1 でも示しているようにこの 3 者は独立したものではなく、それぞれが重なり合っている。しかし、ここで注意しなければならないのは地域住民全員が社会福祉、とりわけ地域福祉に興味、関心をもっているとは限らないということである。このことを踏まえると、地域福祉時代の人材養成の対象は、(1)専門職として②社会福祉を目的とする事業を営む者、③社会福祉に関する活動を行う者と、(2)専門職ではないが③社会福祉に関する活動を行う者の 2 者に絞ることができる。つまり、専門職か ((1))、そうでないか ((2)) である。そして、これら 2 者も大前提は地域住民なのである。この 2 者の人材養成がきっかけとなり、地域住民全体に広がることも可能であると考えられる。繰り返しになるが、これまでのことから地域福祉時代における人材養成の対象が(1)専門職として②社会福祉を目的とする事業を営む者、③社会福祉に関する活動を行う者と、(2)専門職ではないが③社会福祉に関する活動を行う者の 2 者であることが明らかとなった。

次に、第 2 は第 1 で明らかとなった 2 者に対する人材養成のあり方について明らかにしたい。

まず、1 つである専門職に対する人材養成はすでに国家資格取得によるものがある。これは 1987 年に社会福祉士及び介護福祉士法が成立し、1989 年の第 1 回国家試験の実施以降、今日に至っている。この国家資格には社会福祉士と介護福祉士があり、地域福祉に関わる

ものとしては前者が該当する。その後 20 年間、資格に関する法改正は行われなかったが、2007 年に社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正が行われた。その際、今日の地域福祉時代に対応すべく、社会福祉士資格の取得では「地域福祉の理論と方法（地域福祉論）」が必須科目となった。このように専門職としての人材養成では当然のことながら枠組み（カリキュラム）と仕組み（講義、演習、実習）の中で専門的知識や技術の教育が取り込まれてきたのである。しかし、この 20 年間の期間は日本の社会構造、家族機能が変化した。その最たるものが個別化や隣近所の付き合いの希薄化である。その結果、1989 年と 2011 年の受験者では生育環境が異なり、特に近年の受験者は本来、人が成長する過程で自然と身につくとされていた隣近所の住民との関わり方を知らない可能性が出てきたのである。

そこで、もう 1 つの対象となる専門職でない社会福祉に関する活動を行う者に対する人材養成が求められるのである。これは専門職にとっても必要不可欠なものである。先にも述べたように専門職であってもその大前提は地域住民である。24 時間 365 日、専門職であり続ける人はいない。職場を離れば一地域住民なのである。これらのことから、ここで対象となるのは社会福祉や地域福祉の実践に興味、関心をもっている地域住民で、かつ社会福祉に関する活動を行う（行いたい）者となる。これに対する人材養成のあり方は、国家資格取得のように法整備によって枠組みや仕組みを示すのではなく、地域住民や地域の特性に即したものとなるように柔軟な対応が求められる。加えて、これには社会福祉に関するすべての専門的知識、技術を必要とせず、一般地域住民に対して門戸を広げておかなければならない。

これまでのことを受け第 3 は、これら 2 者に対する人材養成において何をキーワードに養成を進めていくべきなのかを明らかにしたい。

そこで、今日、注目が集まっている「あらたな公共」やそれに類似した言葉<sup>2</sup>から考える。あらたな公共は 1993 年、右田紀久恵によって提唱された概念である。この中で右田(2005:15-16)はこれまで、住民の生活は一般的には「私」的なものであって、「公共性」は外的なものとされてきたが、地域福祉の立場は、共同体そのものがもっていた人間生活にとって欠くことのできない原理的要素を再評価し、それを私的領域のみに属するものではなく、内的関係から「公共的領域」を見出し（アイデンティティの抽出）、協働化（福祉コ

---

<sup>2</sup> あらたな公共と類似した言葉として鳩山政権時に発足した「新しい公共」、これからの地域福祉のあり方に関する研究会が提示した「新たな公」などがある。これらの言葉には明確な概念が示されていない。

コミュニティづくりや近隣ネットワーク)しようとする指摘している。ここから地域福祉の推進が何を示すのかを明らかにすることができる。この指摘の中にもあるように福祉コミュニティづくりや近隣ネットワークが地域福祉を推進する方法であると考えられる。

そして、これらのうち地域福祉の推進を実現する方法が近隣ネットワーク、いわゆるネットワークの構築なのである。これは国家資格を有する専門職が仕事として地域住民と関わるだけで構築できるものではない。そこには地域住民自身の参加が必要不可欠となる。しかし、今日の社会福祉に関する人材養成の核は専門職となっているのが現状である。そこで専門職やそうでない地域住民を対象とした人材養成ではこのネットワークの構築を共通項に展開することができると考えられる。

## (2) 課題の整理～人材養成塾のふりかえり～

(1)でこの人材養成は、対象者が地域住民を基礎に据えながら、社会福祉に興味、関心をもつ者、あるいは社会福祉専門職となり、それに対してネットワークの構築に関するプログラムを提供することが求められることが明らかとなった。

そこで、平成 20 年度の福祉人材養成塾の課題を整理し、今年度の地域福祉推進リーダー養成塾への反映と改善について述べる。まず、平成 20 年に実施した福祉人材養成塾は 8 名の参加者であった。この 8 名が社会福祉に従事していたことが福祉人材養成塾の成功要因の 1 つといえる。事前に研修内容・プログラムの検討が重ねられた。そして、4 カ月にも及ぶ研修期間が設定され、事前講義 (9.5 時間 (あいりんフィールドワークを含む))、現場学習 (共通プログラム: 10 日、選択プログラム: 原則 3 日)、まとめ・報告会が実施されたのである。福祉人材養成塾は、①地域のネットワークを知り、その構築と運営のノウハウを習得する、②地域福祉の拠点である福祉施設の現状と課題を把握する、③習得した知識やスキル及び実践者の思いを自分の地域活動に活かすというねらいのもと、地域福祉を推進するリーダー的な人材の養成を目標としたものである。これらを達成するために参加者が自身で目標を設定し、一連の研修プログラムに取り組むことが求められた。ここに、成功要因の 1 つとしている参加者全員が社会福祉の従事者の根拠がある。つまり、この 4 カ月に渡る研修期間と求められる研修目的の達成には一定の社会福祉に対する知識やモチベーションが必要だった。参加者自身で目標を設定するにはある程度の知識が求められたのである。

福祉人材養成塾は一応の成功を収めることができたが、同時に次回以降の実施に向けて検討を要する課題が明らかとなったのである。これらの課題を解決した上で地域福祉推進

リーダー養成塾の開催を考えなければいけなかった。この課題解決の作業は①研修の質の向上、②時代に即した研修の提供の2つの側面がある。地域福祉は普遍的なものではなく、地域社会の特色や特徴、その時代背景によって変化するものである。この地域福祉を推進する人材養成を目的としている人材養成塾（福祉人材養成塾、地域福祉推進リーダー養成塾）には柔軟な対応が求められるのであった。

そこで、解決しなければいけない課題は以下の4点であった（福祉人材養成塾と地域福祉推進リーダー養成塾の比較表は9ページの表1を参照）。

まずは「福祉人材養成塾」という名称である。福祉人材養成塾では地域福祉を推進するリーダー的人材の養成を目標としているにも関わらず、社会福祉専門職養成や、福祉施設職員の人材養成という認識を招く可能性があった。実際に筆者が第24回日本地域福祉学会での口頭発表<sup>3</sup>の質疑応答で専門職養成や福祉施設職員養成の観点からの質問があった。そこで、専門職養成とは一線を画すためにも名称からイメージされるものが専門職養成ではなく、地域住民を対象としたものである必要があった。そこで、名称を「福祉人材養成塾」ではなく「地域福祉推進リーダー養成塾」としたのである。

次に「対象者」である。このことについては、すでに(1)地域福祉時代の人材養成の中でその詳細を述べている。福祉人材養成塾は基本的に「地域住民」を対象者としていた。結果として参加者全員が社会福祉従事者であったが、これは専門職養成ではないことを改めて確認しておかなければならない。国家資格（社会福祉士や介護福祉士、精神保健福祉士など）や社会福祉関連資格の取得が目的であれば、定められている科目の履修が前提となる。しかし、この人材養成塾（福祉人材養成塾、地域福祉推進リーダー養成塾）には前提となる科目がない。広く地域住民の参加を将来的に考えると、そこに社会福祉に関する専門的知識、技術を必要としないようにしなければならないのである。つまり、この人材養成塾（福祉人材養成塾、地域福祉推進リーダー養成塾）は専門職養成ではないが、参加対象者から専門職を排除するのではなく、地域住民として参加することを可能としたのである。

そして「周知方法」である。これは上記2点（「福祉人材養成塾の名称」、「対象者」）の検討の後のこととなる。福祉人材養成塾では周知期間が1カ月、周知方法がホームページとチラシの配布によるものであった。加えて、対象者を地域住民としていたため、専門職

---

<sup>3</sup> 藤原慶二(2010)「地域福祉時代における人材養成のあり方について—人材養成塾の試み—」日本地域福祉学会第24回大会（於：敬愛学園大学）

が所属している機関への周知は必要最低限のものであった。その結果、参加者が 8 名となったのである。これに関して、名称の再検討および対象者の再整理をした後、周知期間、方法を改善し、地域福祉推進リーダー養成塾では周知期間を 1 カ月以上とし、さらにチラシを配布する機関、団体の範囲を広げたのである。対象者の整理をしたことで、地域住民に傾斜することなく、専門職が所属する機関、団体へも周知を行うこととなった。具体的な方法として、地域住民に広く周知することを目標に、大阪市ボランティア情報センターが発行している機関誌の発送時、チラシを同封した。また、大阪市が開催している地域包括支援センター管理者会、ネットワーク推進員<sup>4</sup>新任研修で口頭説明とチラシを配布した。さらに、介護保険事業所連絡会に対して各区社協を経由して周知したのである。

最後は「プログラム体系および体制」の整備・検討である。この点に関しては次にゆずることとする。

### (3) 人材養成塾への展開～プログラム体系および体制の整備・検討～

ここでは、先の最後の課題として挙げられている人材養成塾（福祉人材養成塾、地域福祉推進リーダー養成塾）の核となるプログラムについて述べることにする。これまでで人材養成塾（福祉人材養成塾、地域福祉推進リーダー養成塾）の対象者が整理されたことで、それに対応するプログラムの検討が必要となった。

そこで表 1 のように福祉人材養成塾と地域福祉推進リーダー養成塾をまとめた。ここではこの表の中からプログラムとスーパーバイズ体制、フィールドワーク先の 3 点に焦点を絞る。

まずプログラムで変更となったのは全体の日数（福祉人材養成塾は全 16 日間、地域福祉推進リーダー養成塾は全 6 日間）である。この日数の減少は福祉人材養成塾でのフィールドワークが参加者にとって負担となっていたことが背景にある。福祉人材養成塾の参加者はこのフィールドワークから学び得たものが多かったという意見が大半であったが、その参加が日常業務に加えてのものであったため、日程調整や時間の制約など負担となったのである。そこで、地域福祉推進リーダー養成塾では参加者に専門職（日常業務がある）がいることを前提として、プログラム日数の減少に踏み切ったのである。そして、どの部分を減少の対象とするかを検討した結果、フィールドワークの日数となった。福祉人材養成塾のフィールドワークでは 2 日×5 施設＝10 日間（参加者全員が参加）に加え、3 日間の

---

<sup>4</sup> 大阪市内の小中学校区に 1 名配置されている専門職ではない、保健・医療・福祉ネットワーク推進員のことである。



分野別（参加者の希望分野に参加）の計 13 日間で、このプログラムで最も日数を割いていた。

これらのことを踏まえ、地域福祉推進リーダー養成塾では 2 日間の分野別（参加者の希望分野（2 分野）に参加）と 1 日の中間報告会としたのである。フィールドワークの期間は約 5 か月間（2010 年 9 月～2011 年 1 月）と長期に渡る。まず、これを前期（2010 年 9 月～11 月）、後期（2010 年 11 月～2011 年 1 月）に分け、それぞれ 1 日の計 2 日、希望するフィールドワークへ参加する。これに加えて、中間報告会（1 日）を設け、そこでは、次の 2 点についてグループワークを通してまとめた。それは①前半のフィールドワークの振り返り、②後半に向けた参加者各自の課題の整理である。前半のフィールドワークの振り返りから参加者自身、そして参加者相互にそれぞれのフィールドワークでの学びや思いを共有し、後期の課題の整理へとつなげたのである。そして、後半のフィールドワークが終了した後は、まとめと評価として最終報告会を行うこととした。これは福祉人材養成塾のものを踏襲し、参加者が各自、研修から学び得たものを発表することとした。長期間に渡るプログラムの運営上、参加者のモチベーションの維持と負担の軽減を目的とした対応となったのである。

次にスーパーバイズ体制である。これは福祉人材養成塾の実施時に、参加者に対するフォロー、あるいは参加者からプログラムに対する意見を聞く体制が未整備であったことを背景に整備したものである。福祉人材養成塾の参加者は専門職が 8 名であったものの、地域福祉という言葉自体を初めて聞く参加者もいた。そのような中、全員が当然のように基礎知識をもっていることを前提にプログラムが進行されたのであった。そのような参加者に対するフォロー体制が必要であることが参加者相互の関係から見えてきたのである。また、福祉人材養成塾では参加者がすべての分野にフィールドワークに行くこととなっており、参加者の興味、関心とフィールドワークの分野、内容が必ずしも一致するとは限らなかった。そのような時にフィールドワークへの参加とモチベーションの維持を両立するためにもスーパーバイザーあるいはアドバイザーの存在とその支援が必要であると考えられたのである。実際は、福祉人材養成塾ではこの役割を大阪市福祉人材養成連絡協議会（事務局）が担い、参加者とフィールドワーク先の調整やプログラム進行に関する業務に加えての対応で、かつ専門的な対応が難しい状況であった。

そこで、地域福祉推進リーダー養成塾では、福祉人材養成塾の修了生 1 名をスーパーバイザーとして体制を整えることとした。同様のプログラムを修了（経験）した者がスーパ

ーバイザーとなることで経験者としての立場から助言できるようにしたのである。

最後にフィールドワーク先である。地域福祉推進リーダー養成塾のプログラムの核となるのがフィールドワークである。これは福祉人材養成塾の実施から変わることはなかった。しかし、フィールドワーク先について検討を加える必要があったのである。その背景には主なものとして、①福祉人材養成塾は大阪市西成区で実施したモデル事業であったこと、②福祉人材養成塾の計画段階から大阪市全域での実施を視野に入れていたこと、③地域福祉推進リーダー養成塾でのフィールドワークの参加形態が変更したことの3点がある。

そこで、地域福祉推進リーダー養成塾でのフィールドワーク先はこれら3点を踏まえ、①福祉人材養成塾から継続したフィールドワーク先の確保、②大阪市内全域を対象に地域福祉活動を活発に取り組んでいるフィールドワーク先の開拓を行ったのである（詳細は表1内、「フィールドワーク先」欄を参照）。その際、地域福祉活動について「ネットワークを構築し、かつそれを活用したもの」として考え、福祉人材養成塾でのフィールドワーク先を主に、その組織、団体に協力を依頼したのである。また、福祉人材養成塾で対応していた分野（高齢者、障がい者（児）、子どもなど）についても地域福祉推進リーダー養成塾でも引き継ぐこととなった。そうすることで参加者のニーズにできる限り対応できるようにしたのである。

以上が福祉人材養成塾から地域福祉推進リーダー養成塾へ発展的に改善した内容である。

表 1 福祉人材養成塾と地域福祉推進リーダー養成塾比較表（筆者作成）

| 名称        | 福祉人材養成塾  | 地域福祉推進リーダー養成塾  |
|-----------|--|--|
| 目的        | <p>【目標】<br/>地域福祉を推進するリーダー的な人材の養成</p> <p>【ねらい】<br/>①地域のネットワークを知り、その構築と運営のノウハウを習得する<br/>②地域福祉の拠点である福祉施設の現状と課題を把握する<br/>③習得した知識やスキル及び実践者の思いを自分の地域活動に活かす</p>   | <p>大阪市の地域福祉を推進するための人材養成は、行政や社会福祉法人を始めとする福祉関係者、そして地域住民が協働し長期的な視点で取り組む必要がある。社会福祉従事者や市民・地域住民が主体的に地域福祉活動に参画していけるように、地域福祉活動の意味を理解し、様々な地域福祉活動の実際やネットワーク作りの手法をフィールドワークを通じて学ぶことをねらいとして実施する。</p>  |
| 対象者       | <p>地域福祉について、西成区での実習を通じて自ら考え学ぶ意欲のある大阪市在住、在勤、在学の学生、福祉関係従事者、市民等</p>   | <p>①大阪市在住、在勤であり、地域福祉について関心のある福祉関係従事者<br/>②大阪市在住、在勤、在学であり、NPO法人等で地域福祉活動を実践している方等</p>  |
| 定員        | 10人程度  | 30人  |
| 実施期間      | 平成20年11月～平成21年2月   | 平成22年8月～平成23年2月  |
| プログラム     | <p>16日間(@4日×4ヶ月間)*週1～2回の学習が基本。</p> <p>(1)事前学習(2日間) 講義、施設見学 等<br/>【1日目(AM/PM)】<br/>講義：西成区の概要及び福祉・生活課題について<br/>講義：地域の中で、ネットワークをどのようにつくり、課題解決のための仕組みづくりを目指してきたか<br/>【2日目(AM/PM)】<br/>講義・演習：事例を通じた支援ネットワーク構築の手法について学ぶ<br/>講義・フィールドワーク：あいりん(釜ヶ崎)について学ぶ</p> <p>(2)組織・施設での学習(13日間)<br/>在宅支援を中心に、地域での取組みを学習する。<br/>2日×5法人・施設+課題別・分野別3日間=13日間</p> <p>(3)まとめと評価(1日間)<br/>【16日目(PM)】<br/>本プログラムを基本として、参加者・現場との調整により柔軟に対応する。</p> | <p>6日間(@全日×3回、半日×3回/6ヶ月間)</p> <p>(1)事前学習(2日間)：講義・演習<br/>【1日目(AM/PM)】<br/>講義・演習：事例を通じた支援ネットワーク構築の手法について<br/>講義：問題解決の仕組みづくりとネットワーク<br/>【2日目(PM)】<br/>オリエンテーション：フィールドワークについて</p> <p>(2)フィールドワーク(3日間)<br/>各自、2か所のフィールドワーク先を選択する。<br/>【3日目】<br/>各自1か所目のフィールドワーク<br/>【4日目(PM)】<br/>中間報告会<br/>【5日目】<br/>各自2か所目のフィールドワーク</p> <p>(3)まとめと評価(1日間)<br/>【6日目(PM)】<br/>最終報告会(まとめと評価)</p> |
| スーパーバイズ体制 | 無  | 有  |
| フィールドワーク先 | <p>西成区社会福祉施設連絡会に加盟する法人・施設を拠点に受け入れる。</p> <p>○子育て支援<br/>わが町にしなり子育てネット(大阪市西成区)<br/>○高齢者支援<br/>社会福祉法人白寿会玉出地域包括支援センター(大阪市西成区)<br/>○高齢者から子どもまで包み込む地域ネットワーク<br/>今川社会福祉協議会 今川ボランティア部(大阪市東住吉区)<br/>東粉浜社会福祉協議会(大阪市住吉区)<br/>特定非営利活動法人 ほうぶ(大阪市旭区)<br/>○福祉教育リーフレットにかかわるネットワーク<br/>西淀川区社会福祉協議会(大阪市西淀川区)</p>  | <p>○子育て支援<br/>わが町にしなり子育てネット(大阪市西成区)<br/>○高齢者支援<br/>社会福祉法人白寿会玉出地域包括支援センター(大阪市西成区)<br/>○高齢者から子どもまで包み込む地域ネットワーク<br/>今川社会福祉協議会 今川ボランティア部(大阪市東住吉区)<br/>東粉浜社会福祉協議会(大阪市住吉区)<br/>特定非営利活動法人 ほうぶ(大阪市旭区)<br/>○福祉教育リーフレットにかかわるネットワーク<br/>西淀川区社会福祉協議会(大阪市西淀川区)</p>  |
| 周知方法      | <p>チラシ、ホームページ、大阪市の関係広報を始めあらゆる広報媒体を活用し、以下に周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材養成連絡協議会会員</li> <li>・大阪府下の社会福祉士、介護福祉士養成校</li> </ul>  | <p>チラシ、ホームページ、各種機関紙・情報誌等を活用し周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市福祉人材養成連絡協議会会員、社会福祉士・介護福祉士養成校等</li> <li>・大阪市ボランティア情報センター</li> <li>・各区社会福祉協議会、地域包括支援センター</li> <li>・各区介護保険関係事業所連絡会</li> <li>・ネットワーク推進員新任研修</li> </ul>  |

■文献

「新しい公共」円卓会議(2010)『「新しい公共」宣言』

右田紀久恵(1993)「分権化時代と地域福祉—地域福祉の規定要件をめぐって」右田紀久恵編

『自治型地域福祉の展開』法律文化社、pp.3-28

右田紀久恵(2005)『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房

これからの地域福祉のあり方に関する研究会(2008)『地域における「新たな支え合い」を求めてー住民と行政の協働による新しい福祉ー』

Michael J. Sandel(2009)『Justice What's the Right Thing to Do?』(=2010、鬼澤忍訳『これからの「正義」の話をしてしよう いまを生き延びるための哲学』早川書房)

武川正吾(2006)『地域福祉の主流化』法律文化社

藤原慶二(2009)「求められる人材養成」大阪市福祉人材養成連絡協議会編『「福祉人材養成塾」及び「福祉職員のメンタルヘルス相談事業」にかかるモデル事業報告書』 pp.2-12

担当：藤原慶二（大阪市社会福祉研修・情報センター研究員・関西福祉大学）

## 2. 地域福祉推進リーダー養成塾の概要

### (1)実施要領

#### 平成 22 年度 地域福祉推進リーダー養成塾 実施要領

#### 1. 目 的

大阪市の地域福祉を推進するための人材養成は、行政や社会福祉法人を始めとする福祉関係者、そして地域住民が協働し長期的な視点で取り組む必要がある。

社会福祉従事者や市民・地域住民が主体的に地域福祉活動に参画していけるように、地域福祉活動の意味を理解し、様々な地域福祉活動の実際やネットワーク作りの手法をフィールドワークを通じて学ぶことをねらいとして実施する。

#### 2. 主 催

大阪市社会福祉研修・情報センター

#### 3. 対 象 者

- ①大阪市在住、在勤であり、地域福祉について関心のある福祉関係従事者
- ②大阪市在住、在勤、在学であり、NPO 法人等で地域福祉活動を実践している方等

#### 4. 定員 30 人（先着順）

#### 5. 実施期間

平成 22 年 8 月～平成 23 年 2 月

#### 6. 内容（カリキュラム）

6 日間（@全日×4回、半日×2回/6ヶ月間）

1 日目：平成 22 年 8 月 19 日（木）午前 10 時～午後 4 時

事前学習（講義と演習）

講義 1：事例を通じた支援ネットワーク構築の手法について

社会福祉法人石井記念愛染園理事

わかくさ保育園長 小掠昭

講義 2：問題解決の仕組みづくりとネットワーク

社会福祉法人白寿会 玉出地域包括支援センター 種継敦

2 日目：平成 22 年 8 月 26 日（木）午前 10 時～正午

事前学習（フィールドワークのオリエンテーション）

各自、2 か所のフィールドワーク先を選択する。

3 日目：各自 1 か所目のフィールドワーク

4 日目：平成 22 年 11 月 13 日（土）午前 10 時～正午

中間報告会

5 日目：各自 2 か所目のフィールドワーク

6 日目：平成 23 年 2 月 3 日（木）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

最終報告会（まとめと評価）

7. フィールドワーク受け入れ先

8. 費用

(1)受講料は、無料

(2)その他実費（昼食代、交通費等）は自己負担

9. 周知方法及び周知先

チラシ、ホームページ、各種機関紙・情報誌等を活用し周知する。

- ・大阪市福祉人材養成連絡協議会会員、社会福祉士・介護福祉士養成校等
- ・各区社会福祉協議会、地域包括支援センター
- ・各区介護保険関係事業所連絡会

10. 申し込み方法

所定の「申込書（別紙2）」

申し込み締切 7月31日（土） 午後5時まで

11. 申し込み及び問合せ先

大阪市福祉人材養成連絡協議会（担当：村岡）

（事務局：大阪市社会福祉研修・情報センター 企画研修課）

〒550-0012 大阪市西成区出城2-5-20

電話：06-4392-8229 FAX：06-4392-8206

(2)カリキュラム

平成22年度 地域福祉推進リーダー養成塾 カリキュラム

ねらい：地域福祉活動の意味を理解し、様々な地域福祉活動の実際やネットワーク作りの手法をフィールドワークを通じて学ぶことを目的とします。

| 開催日・場所                                    | 時間                 | 研修科目  | 講師  |
|---|--------------------|---|---|
| 1<br>8月19日<br>(木)<br>講座室2<br>(5階)         | 10:00~12:00        | 開講式/オリエンテーション                                 |   |
|   | 13:00~14:15        | 《講義》<br>事例を通して支援ネットワーク構築の手法について学ぶ             | 社会福祉法人石井記念愛染園理事<br>わかくさ保育園園長 小掠 昭   |
|   | 14:30~15:30        | 《講義》<br>問題解決の仕組みづくりとネットワーク                    | 社会福祉法人白寿会<br>玉出地域包括支援センター<br>管理者 種継 敦   |
|   | 15:30~16:00        | 事務連絡  |   |
| 2<br>8月26日<br>(木)<br>講座室2<br>(5階)         | 10:00~12:00        | フィールドワークのオリエンテーション<br>各自2か所のフィールドワーク先を選択できます。 | フィールドワーク先<br>・子育て支援ネットワーク 社福法人<br>石井記念愛染園 わかくさ保育園   |
| 3   | 各自1回目のフィールドワーク（前期） |   | ・高齢者支援ネットワーク 社福法人<br>白寿会 玉出地域包括支援センター   |
| 4<br>11月13日<br>(土)<br>講座室2<br>(5階)        | 10:00~12:00        | フィールドワークの中間報告会                                | ・生活支援ネットワーク 西成市民館<br>&NPO法人サポータティブハウス連絡<br>協議会<br>・子どもから高齢者まで包み込むネット<br>ワーク 東住吉区今川社会福祉協<br>議会 |
| 5   | 各自2回目のフィールドワーク（後期） |   | ・子どもから高齢者まで包み込むネット<br>ワーク 住吉区東粉浜社会福祉協<br>議会   |
| 6<br>平成23年<br>2月3日<br>(木)<br>講座室2<br>(5階) | 13:30~16:30        | 最終報告会（まとめと評価）<br>閉講式                          | ・子どもから高齢者まで包み込むネット<br>ワーク NPO法人地域生活サポー<br>トネットほうふ<br>・福祉教育ネットワーク 西淀川区社<br>会福祉協議会              |

## (3) 受講者属性等分類表

単位:人

| 所属分類             | 人数 |
|------------------|----|
| 地域包括支援センター       | 7  |
| 障害福祉施設・障害サービス事業所 | 3  |
| 救護施設             | 3  |
| 特別養護老人ホーム        | 2  |
| 居宅介護支援事業所        | 3  |
| 通所介護事業所          | 2  |
| 訪問介護支援事業所        | 1  |
| NW推進員            | 6  |
| NPO/市民団体         | 6  |
| ボランティアグループ       | 2  |
| 合計               | 35 |

## 受講目的分類

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| ネットワークの作り方を学びたい                     | 11 |
| 自分の仕事に役立つと思ったから                     | 5  |
| 自分がしている仕事ではないが、関連がありどのようなものなのかを知りたい | 12 |
| 何か役に立つことをしたい                        | 2  |
| 無回答                                 | 5  |
| 合計                                  | 35 |

単位:人

| 区名   | 人数 |
|------|----|
| 北区   | 1  |
| 都島区  | 0  |
| 福島区  | 2  |
| 此花区  | 1  |
| 中央区  | 1  |
| 西区   | 0  |
| 港区   | 0  |
| 大正区  | 1  |
| 天王寺区 | 0  |
| 浪速区  | 2  |
| 西淀川区 | 1  |
| 淀川区  | 2  |
| 東淀川区 | 3  |
| 東成区  | 1  |
| 生野区  | 4  |
| 旭区   | 1  |
| 城東区  | 2  |
| 鶴見区  | 1  |
| 阿倍野区 | 1  |
| 住之江区 | 1  |
| 住吉区  | 4  |
| 東住吉区 | 2  |
| 平野区  | 1  |
| 西成区  | 2  |
| 大東市  | 1  |
| 合計   | 35 |



### 3. 参加者アンケート(事前・事後)の結果

#### (1) アンケート調査の概要

地域福祉推進リーダー養成塾（以下、「養成塾」とする）の参加者に対してプログラムの開始前（オリエンテーション：事前）と終了後（報告会：事後）にアンケート調査を実施した。調査項目について開始前は「養成塾で何を学びたいのか」、終了後は「養成塾で何が学べたのか」と調査の趣旨を変更した以外、基本的に同一の項目とした。

本調査の目的は参加者の把握として、事前実施したものから①養成塾への参加動機（学びたいこと）、事後実施したものから②養成塾での学びの達成度（学べたこと）、運営側として事前と事後を比較して③次年度以降、養成塾のプログラム内容の充実を図る基礎資料とする3つを目的とした。

そして、これら3つの目的を達成するためにアンケート調査票を作成した。調査項目における従属変数は性別、年齢（事前のみ）、所属とし、説明変数は学びの項目（24項目に対して事前は「何を学びたいのか」、事後は「何が学べたのか」を調査）とした。特に学びの項目（24項目）は運営側として「養成塾でこのような学びができるのではないか」というものを設定した。

アンケート調査は、事前（開始前：2010年8月19日）で33名、事後（終了後：2011年2月3日）で26名が対象となった。これはオリエンテーションおよび報告会の当日に出席した参加者である（欠席者は除く）。なお、2010年度養成塾は全体で35名の参加者であった。

倫理的配慮として本調査では回答したアンケートを統計的に処理し、回答者個人が特定されないように配慮した。

事前および事後のアンケート調査票は資料として巻末に添付している。

#### (2) 事前アンケート結果

##### ①性別

|     | 人数 | %     |
|-----|----|-------|
| 男性  | 10 | 28.6  |
| 女性  | 23 | 65.7  |
| 欠席者 | 2  | 5.7   |
| 合計  | 35 | 100.0 |

- ▶ 参加者の性別に関する回答のあったうち、男性が10名（28.6%）、女性が23名（65.7%）であった。

##### ②年齢

|       | 人数 | %     |
|-------|----|-------|
| 20歳代  | 3  | 8.6   |
| 30歳代  | 9  | 25.7  |
| 40歳代  | 5  | 14.3  |
| 50歳代  | 8  | 22.9  |
| 60歳代  | 7  | 20.0  |
| 70歳以上 | 1  | 2.9   |
| 欠席者   | 2  | 5.7   |
| 合計    | 35 | 100.0 |
| 平均    |    | 48.0歳 |

- ▶ 参加者の年齢に関する回答のあったうち、最も多かったのは30歳代の9名（25.7%）、次いで

50 歳代の 8 名 (22.9%)、60 歳代の 7 名 (20.0%) であった。

- 参加者の平均年齢は 48.0 歳であった。

### ③所属

|            | 人数 | %     |
|------------|----|-------|
| 地域包括支援センター | 7  | 20.0  |
| 障害者福祉施設    | 2  | 5.7   |
| 救護施設       | 1  | 2.9   |
| 特別養護老人ホーム  | 1  | 2.9   |
| 居宅介護支援事業所  | 4  | 11.4  |
| 通所介護事業所    | 1  | 2.9   |
| 訪問介護事業所    | 2  | 5.7   |
| ネットワーク推進員  | 6  | 17.1  |
| NPO/市民団体   | 3  | 8.6   |
| ボランティアグループ | 2  | 5.7   |
| その他        | 4  | 11.4  |
| 欠席者        | 2  | 5.7   |
| 合計         | 35 | 100.0 |

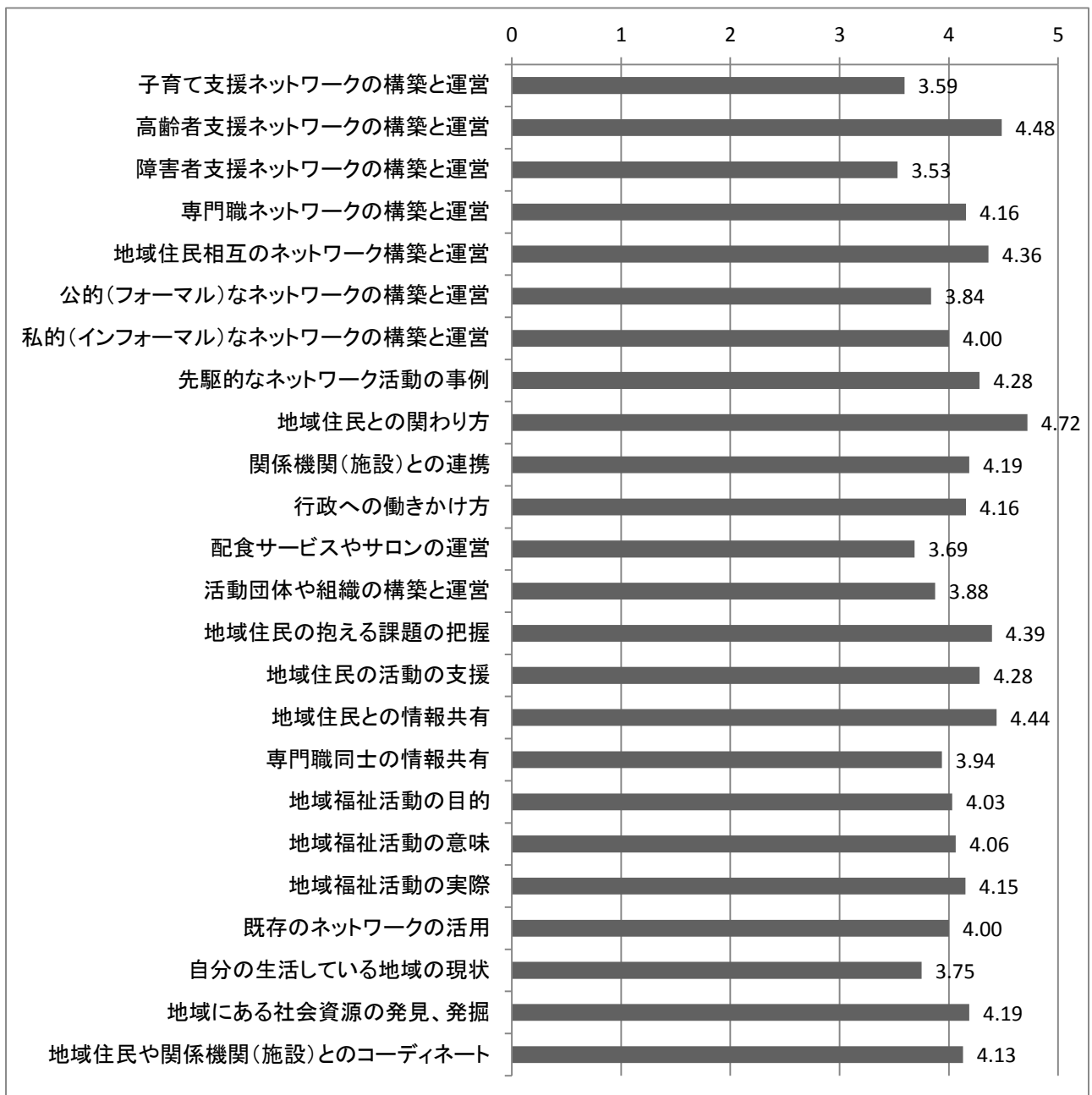
- 参加者の所属に関する回答のあったうち、最も多かったのは地域包括支援センターの 7 名 (20.0%)、次いでネットワーク推進員の 6 名 (17.1%)、居宅介護支援事業所とその他の 4 名 (11.4%) であった。

#### ④学びたい度

|                          |    | 学びたいこと<br>ではない | どちらかとい<br>うと学びたい<br>ことではない | どちらともい<br>えない | できれば学<br>びたい | 必ず学びた<br>い | 合計    | 平均値  | 標準偏差  |
|--------------------------|----|----------------|----------------------------|---------------|--------------|------------|-------|------|-------|
| 子育て支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 3              | 2                          | 6             | 15           | 6          | 32    | 3.59 | 1.160 |
|                          | %  | 9.4            | 6.3                        | 18.8          | 46.9         | 18.8       | 100.0 |      |       |
| 高齢者支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 0              | 2                          | 2             | 7            | 22         | 33    | 4.48 | 0.870 |
|                          | %  | 0.0            | 6.1                        | 6.1           | 21.2         | 66.7       | 100.0 |      |       |
| 障害者支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 2              | 4                          | 10            | 7            | 9          | 32    | 3.53 | 1.218 |
|                          | %  | 6.3            | 12.5                       | 31.3          | 21.9         | 28.1       | 100.0 |      |       |
| 専門職ネットワークの構築と運営          | 人数 | 1              | 0                          | 6             | 11           | 14         | 32    | 4.16 | 0.954 |
|                          | %  | 3.1            | 0.0                        | 18.8          | 34.4         | 43.8       | 100.0 |      |       |
| 地域住民相互のネットワーク構築と運営       | 人数 | 0              | 1                          | 4             | 10           | 18         | 33    | 4.36 | 0.822 |
|                          | %  | 0.0            | 3.0                        | 12.1          | 30.3         | 54.5       | 100.0 |      |       |
| 公的(フォーマル)なネットワークの構築と運営   | 人数 | 0              | 2                          | 9             | 12           | 8          | 31    | 3.84 | 0.898 |
|                          | %  | 0.0            | 6.5                        | 29.0          | 38.7         | 25.8       | 100.0 |      |       |
| 私的(インフォーマル)なネットワークの構築と運営 | 人数 | 0              | 1                          | 7             | 14           | 9          | 31    | 4.00 | 0.816 |
|                          | %  | 0.0            | 3.2                        | 22.6          | 45.2         | 29.0       | 100.0 |      |       |
| 先駆的なネットワーク活動の事例          | 人数 | 0              | 1                          | 4             | 12           | 15         | 32    | 4.28 | 0.813 |
|                          | %  | 0.0            | 3.1                        | 12.5          | 37.5         | 46.9       | 100.0 |      |       |
| 地域住民との関わり方               | 人数 | 0              | 0                          | 0             | 9            | 23         | 32    | 4.72 | 0.457 |
|                          | %  | 0.0            | 0.0                        | 0.0           | 28.1         | 71.9       | 100.0 |      |       |
| 関係機関(施設)との連携             | 人数 | 0              | 1                          | 4             | 15           | 12         | 32    | 4.19 | 0.780 |
|                          | %  | 0.0            | 3.1                        | 12.5          | 46.9         | 37.5       | 100.0 |      |       |
| 行政への働きかけ方                | 人数 | 0              | 1                          | 5             | 14           | 12         | 32    | 4.16 | 0.808 |
|                          | %  | 0.0            | 3.1                        | 15.6          | 43.8         | 37.5       | 100.0 |      |       |
| 配食サービスやサロンの運営            | 人数 | 1              | 3                          | 9             | 11           | 8          | 32    | 3.69 | 1.061 |
|                          | %  | 3.1            | 9.4                        | 28.1          | 34.4         | 25.0       | 100.0 |      |       |
| 活動団体や組織の構築と運営            | 人数 | 0              | 2                          | 6             | 18           | 6          | 32    | 3.88 | 0.793 |
|                          | %  | 0.0            | 6.3                        | 18.8          | 56.3         | 18.8       | 100.0 |      |       |
| 地域住民の抱える課題の把握            | 人数 | 0              | 2                          | 1             | 12           | 18         | 33    | 4.39 | 0.827 |
|                          | %  | 0.0            | 6.1                        | 3.0           | 36.4         | 54.5       | 100.0 |      |       |
| 地域住民の活動の支援               | 人数 | 0              | 2                          | 1             | 15           | 14         | 32    | 4.28 | 0.813 |
|                          | %  | 0.0            | 6.3                        | 3.1           | 46.9         | 43.8       | 100.0 |      |       |
| 地域住民との情報共有               | 人数 | 0              | 0                          | 2             | 14           | 16         | 32    | 4.44 | 0.619 |
|                          | %  | 0.0            | 0.0                        | 6.3           | 43.8         | 50.0       | 100.0 |      |       |
| 専門職同士の情報共有               | 人数 | 0              | 3                          | 4             | 17           | 8          | 32    | 3.94 | 0.878 |
|                          | %  | 0.0            | 9.4                        | 12.5          | 53.1         | 25.0       | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の目的                | 人数 | 0              | 1                          | 4             | 20           | 7          | 32    | 4.03 | 0.695 |
|                          | %  | 0.0            | 3.1                        | 12.5          | 62.5         | 21.9       | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の意味                | 人数 | 0              | 1                          | 4             | 19           | 8          | 32    | 4.06 | 0.716 |
|                          | %  | 0.0            | 3.1                        | 12.5          | 59.4         | 25.0       | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の実際                | 人数 | 0              | 0                          | 6             | 16           | 11         | 33    | 4.15 | 0.712 |
|                          | %  | 0.0            | 0.0                        | 18.2          | 48.5         | 33.3       | 100.0 |      |       |
| 既存のネットワークの活用             | 人数 | 0              | 2                          | 5             | 16           | 9          | 32    | 4.00 | 0.842 |
|                          | %  | 0.0            | 6.3                        | 15.6          | 50.0         | 28.1       | 100.0 |      |       |
| 自分の生活している地域の現状           | 人数 | 0              | 5                          | 6             | 13           | 8          | 32    | 3.75 | 1.016 |
|                          | %  | 0.0            | 15.6                       | 18.8          | 40.6         | 25.0       | 100.0 |      |       |
| 地域にある社会資源の発見、発掘          | 人数 | 0              | 0                          | 6             | 14           | 12         | 32    | 4.19 | 0.738 |
|                          | %  | 0.0            | 0.0                        | 18.8          | 43.8         | 37.5       | 100.0 |      |       |
| 地域住民や関係機関(施設)とのコーディネート   | 人数 | 0              | 0                          | 6             | 15           | 10         | 31    | 4.13 | 0.718 |
|                          | %  | 0.0            | 0.0                        | 19.4          | 48.4         | 32.3       | 100.0 |      |       |

▶ 参加者の学びたい内容で高い平均値を示したのは、「地域住民との関わり方」の 4.72pt.、次いで、「高齢者支援ネットワークの構築と運営」の 4.48pt.、「地域住民との情報共有」の 4.44pt.であった。

※ 標準偏差とは平均値を中心とした回答者のばらつきを表す数値である。数値が 0 (ゼロ) に近いほどばらつきがない。



### (3) 事後アンケート結果

#### ①性別

|     | 人数 | %     |
|-----|----|-------|
| 男性  | 8  | 30.8  |
| 女性  | 17 | 65.4  |
| 無回答 | 1  | 3.8   |
| 合計  | 26 | 100.0 |

- 報告会の参加者のうち、男性が8名（30.8%）、女性が17名（65.4%）であった。

#### ②所属

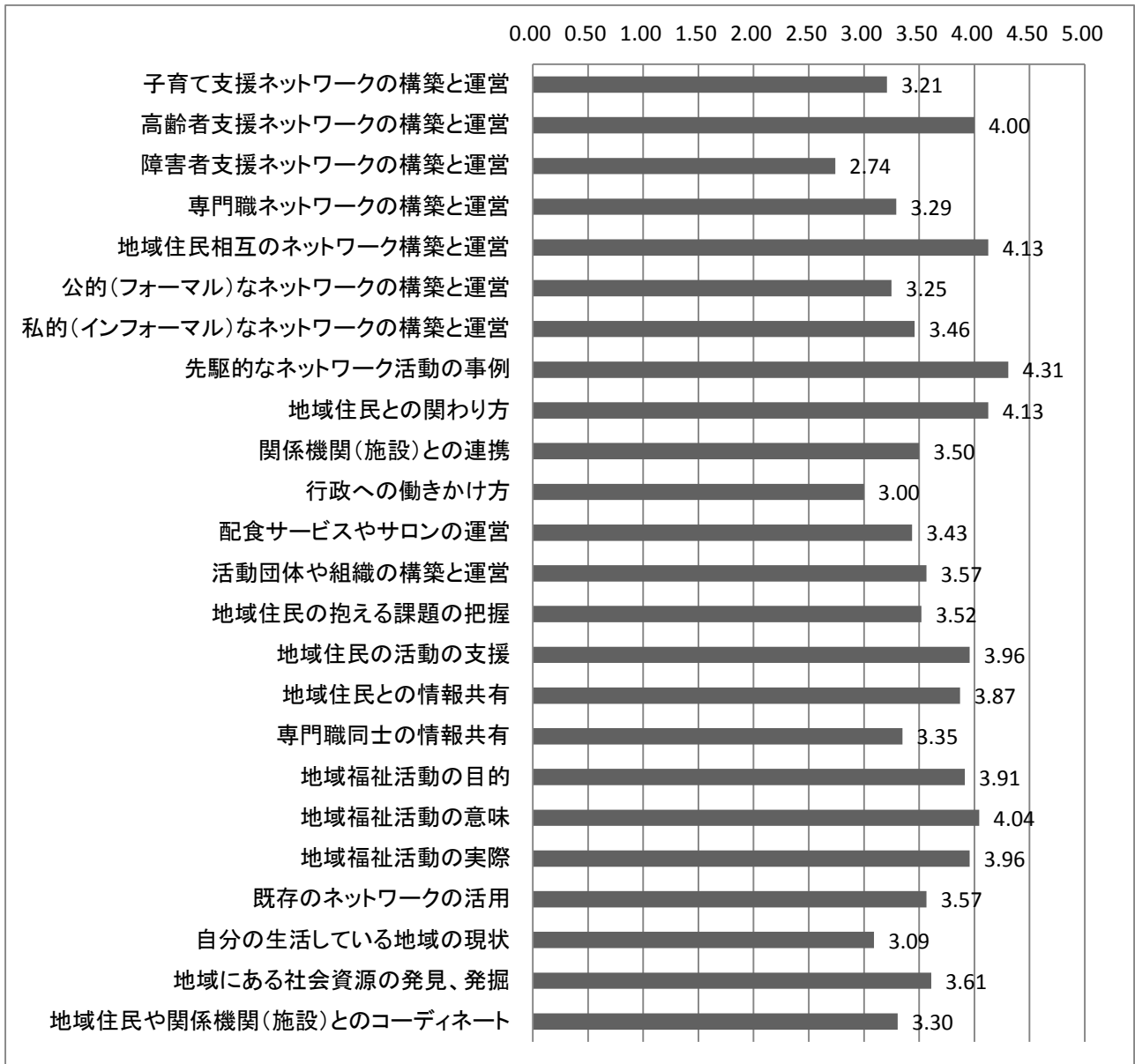
|            | 人数 | %     |
|------------|----|-------|
| 地域包括支援センター | 6  | 23.1  |
| 障害者福祉施設    | 3  | 11.5  |
| 救護施設       | 1  | 3.8   |
| 特別養護老人ホーム  | 1  | 3.8   |
| 居宅介護支援事業所  | 1  | 3.8   |
| 訪問介護事業所    | 2  | 7.7   |
| ネットワーク推進員  | 7  | 26.9  |
| NPO／市民団体   | 2  | 7.7   |
| ボランティアグループ | 1  | 3.8   |
| その他        | 2  | 7.7   |
| 合計         | 26 | 100.0 |

- 報告会の参加者の所属で最も多かったのは、「ネットワーク推進員」の7名（26.9%）で、次いで「地域包括支援センター」の6名（23.1%）、「障害者福祉施設」の3名（11.5%）であった。

### ③学びの達成度

|                          |    | 学べなかった | あまり学べなかった | どちらともいえない | 比較的学べた | よく学べた | 合計    | 平均値  | 標準偏差  |
|--------------------------|----|--------|-----------|-----------|--------|-------|-------|------|-------|
| 子育て支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 4      | 4         | 3         | 9      | 4     | 24    | 3.21 | 1.382 |
|                          | %  | 16.7   | 16.7      | 12.5      | 37.5   | 16.7  | 100.0 |      |       |
| 高齢者支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 1      | 0         | 4         | 13     | 7     | 25    | 4.00 | 0.913 |
|                          | %  | 4.0    | 0.0       | 16.0      | 52.0   | 28.0  | 100.0 |      |       |
| 障害者支援ネットワークの構築と運営        | 人数 | 5      | 1         | 13        | 3      | 1     | 23    | 2.74 | 1.096 |
|                          | %  | 21.7   | 4.3       | 56.5      | 13.0   | 4.3   | 100.0 |      |       |
| 専門職ネットワークの構築と運営          | 人数 | 2      | 3         | 7         | 10     | 2     | 24    | 3.29 | 1.083 |
|                          | %  | 8.3    | 12.5      | 29.2      | 41.7   | 8.3   | 100.0 |      |       |
| 地域住民相互のネットワーク構築と運営       | 人数 | 0      | 0         | 2         | 17     | 5     | 24    | 4.13 | 0.537 |
|                          | %  | 0.0    | 0.0       | 8.3       | 70.8   | 20.8  | 100.0 |      |       |
| 公的(フォーマル)なネットワークの構築と運営   | 人数 | 2      | 1         | 12        | 7      | 2     | 24    | 3.25 | 0.989 |
|                          | %  | 8.3    | 4.2       | 50.0      | 29.2   | 8.3   | 100.0 |      |       |
| 私的(インフォーマル)なネットワークの構築と運営 | 人数 | 1      | 2         | 9         | 9      | 3     | 24    | 3.46 | 0.977 |
|                          | %  | 4.2    | 8.3       | 37.5      | 37.5   | 12.5  | 100.0 |      |       |
| 先駆的なネットワーク活動の事例          | 人数 | 0      | 1         | 1         | 13     | 11    | 26    | 4.31 | 0.736 |
|                          | %  | 0.0    | 3.8       | 3.8       | 50.0   | 42.3  | 100.0 |      |       |
| 地域住民との関わり方               | 人数 | 0      | 0         | 3         | 15     | 6     | 24    | 4.13 | 0.612 |
|                          | %  | 0.0    | 0.0       | 12.5      | 62.5   | 25.0  | 100.0 |      |       |
| 関係機関(施設)との連携             | 人数 | 1      | 3         | 6         | 11     | 3     | 24    | 3.50 | 1.022 |
|                          | %  | 4.2    | 12.5      | 25.0      | 45.8   | 12.5  | 100.0 |      |       |
| 行政への働きかけ方                | 人数 | 3      | 4         | 10        | 6      | 2     | 25    | 3.00 | 1.118 |
|                          | %  | 12.0   | 16.0      | 40.0      | 24.0   | 8.0   | 100.0 |      |       |
| 配食サービスやサロンの運営            | 人数 | 2      | 2         | 6         | 10     | 3     | 23    | 3.43 | 1.121 |
|                          | %  | 8.7    | 8.7       | 26.1      | 43.5   | 13.0  | 100.0 |      |       |
| 活動団体や組織の構築と運営            | 人数 | 0      | 2         | 7         | 13     | 1     | 23    | 3.57 | 0.728 |
|                          | %  | 0.0    | 8.7       | 30.4      | 56.5   | 4.3   | 100.0 |      |       |
| 地域住民の抱える課題の把握            | 人数 | 0      | 4         | 7         | 11     | 3     | 25    | 3.52 | 0.918 |
|                          | %  | 0.0    | 16.0      | 28.0      | 44.0   | 12.0  | 100.0 |      |       |
| 地域住民の活動の支援               | 人数 | 0      | 1         | 3         | 15     | 4     | 23    | 3.96 | 0.706 |
|                          | %  | 0.0    | 4.3       | 13.0      | 65.2   | 17.4  | 100.0 |      |       |
| 地域住民との情報共有               | 人数 | 0      | 1         | 6         | 11     | 5     | 23    | 3.87 | 0.815 |
|                          | %  | 0.0    | 4.3       | 26.1      | 47.8   | 21.7  | 100.0 |      |       |
| 専門職同士の情報共有               | 人数 | 1      | 3         | 7         | 11     | 1     | 23    | 3.35 | 0.935 |
|                          | %  | 4.3    | 13.0      | 30.4      | 47.8   | 4.3   | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の目的                | 人数 | 0      | 1         | 4         | 14     | 4     | 23    | 3.91 | 0.733 |
|                          | %  | 0.0    | 4.3       | 17.4      | 60.9   | 17.4  | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の意味                | 人数 | 0      | 0         | 6         | 10     | 7     | 23    | 4.04 | 0.767 |
|                          | %  | 0.0    | 0.0       | 26.1      | 43.5   | 30.4  | 100.0 |      |       |
| 地域福祉活動の実際                | 人数 | 0      | 0         | 6         | 12     | 5     | 23    | 3.96 | 0.706 |
|                          | %  | 0.0    | 0.0       | 26.1      | 52.2   | 21.7  | 100.0 |      |       |
| 既存のネットワークの活用             | 人数 | 1      | 1         | 7         | 12     | 2     | 23    | 3.57 | 0.896 |
|                          | %  | 4.3    | 4.3       | 30.4      | 52.2   | 8.7   | 100.0 |      |       |
| 自分の生活している地域の現状           | 人数 | 3      | 2         | 7         | 10     | 0     | 22    | 3.09 | 1.065 |
|                          | %  | 13.6   | 9.1       | 31.8      | 45.5   | 0.0   | 100.0 |      |       |
| 地域にある社会資源の発見、発掘          | 人数 | 0      | 1         | 9         | 11     | 2     | 23    | 3.61 | 0.722 |
|                          | %  | 0.0    | 4.3       | 39.1      | 47.8   | 8.7   | 100.0 |      |       |
| 地域住民や関係機関(施設)とのコーディネート   | 人数 | 2      | 2         | 8         | 9      | 2     | 23    | 3.30 | 1.063 |
|                          | %  | 8.7    | 8.7       | 34.8      | 39.1   | 8.7   | 100.0 |      |       |

- 学びの達成度で値が高かったのは、「先駆的なネットワーク活動の事例」で 4.31pt.、次いで「地域住民相互のネットワーク構築と運営」と「地域住民との関わり方」の 4.13pt.、「地域福祉活動の意味」の 4.04pt.であった。



#### (4)分析および考察

養成塾は地域福祉を推進するリーダーを養成することを目的としている。その対象は地域住民を基礎として、専門職まで包括的なものとなっている。そこで、今回の参加者を振り返ると所属が「地域包括支援センター」や「ネットワーク推進員」といった地域社会に対する取り組みが求められる者の参加が多かったのである。

ネットワーク推進員は一般の地域住民から選出されるため、必ずしも社会福祉の専門職であるというわけではない。一方、地域包括支援センターは介護保険法で規定されており、かならず社会福祉の専門職（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）がいる。これらのことを考えると専門職や地域住民など関係なく地域福祉、簡単に表現するならば「地域社会への関わり方、地域住民との関わり方」

これまで示した単純集計に若干のクロス集計を加えて考察を加える。クロス集計では参加者の所属を説明変数にし、「学びたいこと」、「学べたこと」の24項目に対して統計処理を行った。また、クロス集計時にカイ2乗検定を行い、有意差の認められたものみに焦点を当てる。ここで有意差は一般的に用いられる5%未満を基準としている。

まず「学びたいこと」では「地域住民の活動の支援」と「地域住民との情報共有」の2項目で有意差が認められた。

「地域住民の活動の支援」では大半が学びたい意向を示している。特に「特別養護老人ホーム」や「NPO／市民団体」で高い値となっている。これは自らが地域社会を基礎にするだけでなく、地域住民と共に活動を展開する意識があると思われる。あるいは、地域社会で既に活動が展開されている地域住民活動を支援することで関わりを深め、自分たちも地域福祉の推進の一役を担いたいという意識があることが考えられる。

|            |    | 地域住民の活動の支援 |                            |               |              |        | 合計     |
|------------|----|------------|----------------------------|---------------|--------------|--------|--------|
|            |    | 学びたいことではない | どちらかという<br>と学びたいこと<br>ではない | どちらとも<br>いえない | できれば学び<br>たい | 必ず学びたい |        |
| 地域包括支援センター | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 5      | 7      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 28.6%        | 71.4%  | 100.0% |
| 障害者福祉施設    | 人数 | 0          | 1                          | 0             | 1            | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | 50.0%                      | .0%           | 50.0%        | .0%    | 100.0% |
| 救護施設       | 人数 | 0          | 1                          | 0             | 0            | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | 100.0%                     | .0%           | .0%          | .0%    | 100.0% |
| 特別養護老人ホーム  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 0            | 1      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | .0%          | 100.0% | 100.0% |
| 居宅介護支援事業所  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 3            | 1      | 4      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 75.0%        | 25.0%  | 100.0% |
| 通所介護事業所    | 人数 | 0          | 0                          | 1             | 0            | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | 100.0%        | .0%          | .0%    | 100.0% |
| 訪問介護事業所    | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 100.0%       | .0%    | 100.0% |
| ネットワーク推進員  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 3            | 2      | 5      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 60.0%        | 40.0%  | 100.0% |
| NPO／市民団体   | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 0            | 3      | 3      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | .0%          | 100.0% | 100.0% |
| ボランティアグループ | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 100.0%       | .0%    | 100.0% |
| その他        | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 2      | 4      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 50.0%        | 50.0%  | 100.0% |
| 合計         | 人数 | 0          | 2                          | 1             | 15           | 14     | 32     |
|            | %  | .0%        | 6.3%                       | 3.1%          | 46.9%        | 43.8%  | 100.0% |

\*\*\*



「地域住民との情報共有」では全員が「どちらともいえない」、「学べた」、「とても学べた」を選択している。どの所属組織でも地域住民との情報共有に苦慮していることが予測される。その背景には個人情報保護の考え方があり、共有すべき情報に対して過剰反応が起こっている。あるいは、共有すべき情報は持っているが、地域住民との関係がとれないために情報共有できないということが考えられる。

いずれにしてもこのような状況に対して参加者は危機感をもっており、その結果、今回の養成塾でそのヒントを得ようとしていることがわかる。

|            |    | 地域住民との情報共有 |                            |               |              |        | 合計     |
|------------|----|------------|----------------------------|---------------|--------------|--------|--------|
|            |    | 学びたいことではない | どちらかという<br>と学びたいこと<br>ではない | どちらとも<br>いえない | できれば学び<br>たい | 必ず学びたい |        |
| 地域包括支援センター | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 0            | 7      | 7      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | .0%          | 100.0% | 100.0% |
| 障害者福祉施設    | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 100.0%       | .0%    | 100.0% |
| 救護施設       | 人数 | 0          | 0                          | 1             | 0            | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | 100.0%        | .0%          | .0%    | 100.0% |
| 特別養護老人ホーム  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 0            | 1      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | .0%          | 100.0% | 100.0% |
| 居宅介護支援事業所  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 3            | 1      | 4      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 75.0%        | 25.0%  | 100.0% |
| 通所介護事業所    | 人数 | 0          | 0                          | 1             | 0            | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | 100.0%        | .0%          | .0%    | 100.0% |
| 訪問介護事業所    | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 100.0%       | .0%    | 100.0% |
| ネットワーク推進員  | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 4            | 1      | 5      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 80.0%        | 20.0%  | 100.0% |
| NPO／市民団体   | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 0            | 3      | 3      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | .0%          | 100.0% | 100.0% |
| ボランティアグループ | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 1            | 1      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 50.0%        | 50.0%  | 100.0% |
| その他        | 人数 | 0          | 0                          | 0             | 2            | 2      | 4      |
|            | %  | .0%        | .0%                        | .0%           | 50.0%        | 50.0%  | 100.0% |
| 合計         | 人数 | 0          | 0                          | 2             | 14           | 16     | 32     |
|            | %  | .0%        | .0%                        | 6.3%          | 43.8%        | 50.0%  | 100.0% |

\*\*\*

次に「学べたこと」では「地域住民との関わり方」と「地域住民の活動の支援」の2項目で有意差が認められた。

「地域住民との関わり方」では全員が「どちらともいえない」、「学べた」、「とても学べた」を選択している。特に高い値を示しているのが「NPO／市民団体」で「とても学べた(2名(100%))」であった。他にも地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も高い値を示している。これは参加者が地域住民との関わり方を理解し、実践することの難しさ、あるいはこれに取り組む(解決する)糸口を探していたのではないだろうか。これに対してネットワークの構築を通して地域住民との関わり方の一端を知ることができたことを表している。

|            |    | 地域住民との関わり方 |           |           |        |        | 合計     |
|------------|----|------------|-----------|-----------|--------|--------|--------|
|            |    | 学べなかった     | あまり学べなかった | どちらともいえない | 学べた    | とても学べた |        |
| 地域包括支援センター | 人数 | 0          | 0         | 0         | 4      | 1      | 5      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 80.0%  | 20.0%  | 100.0% |
| 障害者福祉施設    | 人数 | 0          | 0         | 0         | 2      | 1      | 3      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 66.7%  | 33.3%  | 100.0% |
| 救護施設       | 人数 | 0          | 0         | 1         | 0      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | 100.0%    | .0%    | .0%    | 100.0% |
| 特別養護老人ホーム  | 人数 | 0          | 0         | 1         | 0      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | 100.0%    | .0%    | .0%    | 100.0% |
| 居宅介護支援事業所  | 人数 | 0          | 0         | 0         | 1      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 訪問介護事業所    | 人数 | 0          | 0         | 0         | 2      | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| ネットワーク推進員  | 人数 | 0          | 0         | 0         | 4      | 2      | 6      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 66.7%  | 33.3%  | 100.0% |
| NPO／市民団体   | 人数 | 0          | 0         | 0         | 0      | 2      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | .0%    | 100.0% | 100.0% |
| ボランティアグループ | 人数 | 0          | 0         | 1         | 0      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | 100.0%    | .0%    | .0%    | 100.0% |
| その他        | 人数 | 0          | 0         | 0         | 2      | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 合計         | 人数 | 0          | 0         | 3         | 15     | 6      | 24     |
|            | %  | .0%        | .0%       | 12.5%     | 62.5%  | 25.0%  | 100.0% |

\*

「地域住民の活動の支援」では大半の参加者が学べたという結果であった。これは座学では知識として理解することはできても、実践につなげることは難しいのが現実である。しかし、養成塾ではフィールドワークを通して既に活動を展開している場に行き、そこで活動している人から直接話を聞くことで実践につなげることのできる理解が進むのである。

|            |    | 地域住民の活動の支援 |           |           |        |        | 合計     |
|------------|----|------------|-----------|-----------|--------|--------|--------|
|            |    | 学べなかった     | あまり学べなかった | どちらともいえない | 学べた    | とても学べた |        |
| 地域包括支援センター | 人数 | 0          | 0         | 0         | 5      | 0      | 5      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 障害者福祉施設    | 人数 | 0          | 1         | 1         | 0      | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | 50.0%     | 50.0%     | .0%    | .0%    | 100.0% |
| 救護施設       | 人数 | 0          | 0         | 0         | 1      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 特別養護老人ホーム  | 人数 | 0          | 0         | 1         | 0      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | 100.0%    | .0%    | .0%    | 100.0% |
| 居宅介護支援事業所  | 人数 | 0          | 0         | 0         | 1      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 訪問介護事業所    | 人数 | 0          | 0         | 0         | 1      | 1      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 50.0%  | 50.0%  | 100.0% |
| ネットワーク推進員  | 人数 | 0          | 0         | 0         | 5      | 1      | 6      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 83.3%  | 16.7%  | 100.0% |
| NPO／市民団体   | 人数 | 0          | 0         | 0         | 0      | 2      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | .0%    | 100.0% | 100.0% |
| ボランティアグループ | 人数 | 0          | 0         | 1         | 0      | 0      | 1      |
|            | %  | .0%        | .0%       | 100.0%    | .0%    | .0%    | 100.0% |
| その他        | 人数 | 0          | 0         | 0         | 2      | 0      | 2      |
|            | %  | .0%        | .0%       | .0%       | 100.0% | .0%    | 100.0% |
| 合計         | 人数 | 0          | 1         | 3         | 15     | 4      | 23     |
|            | %  | .0%        | 4.3%      | 13.0%     | 65.2%  | 17.4%  | 100.0% |

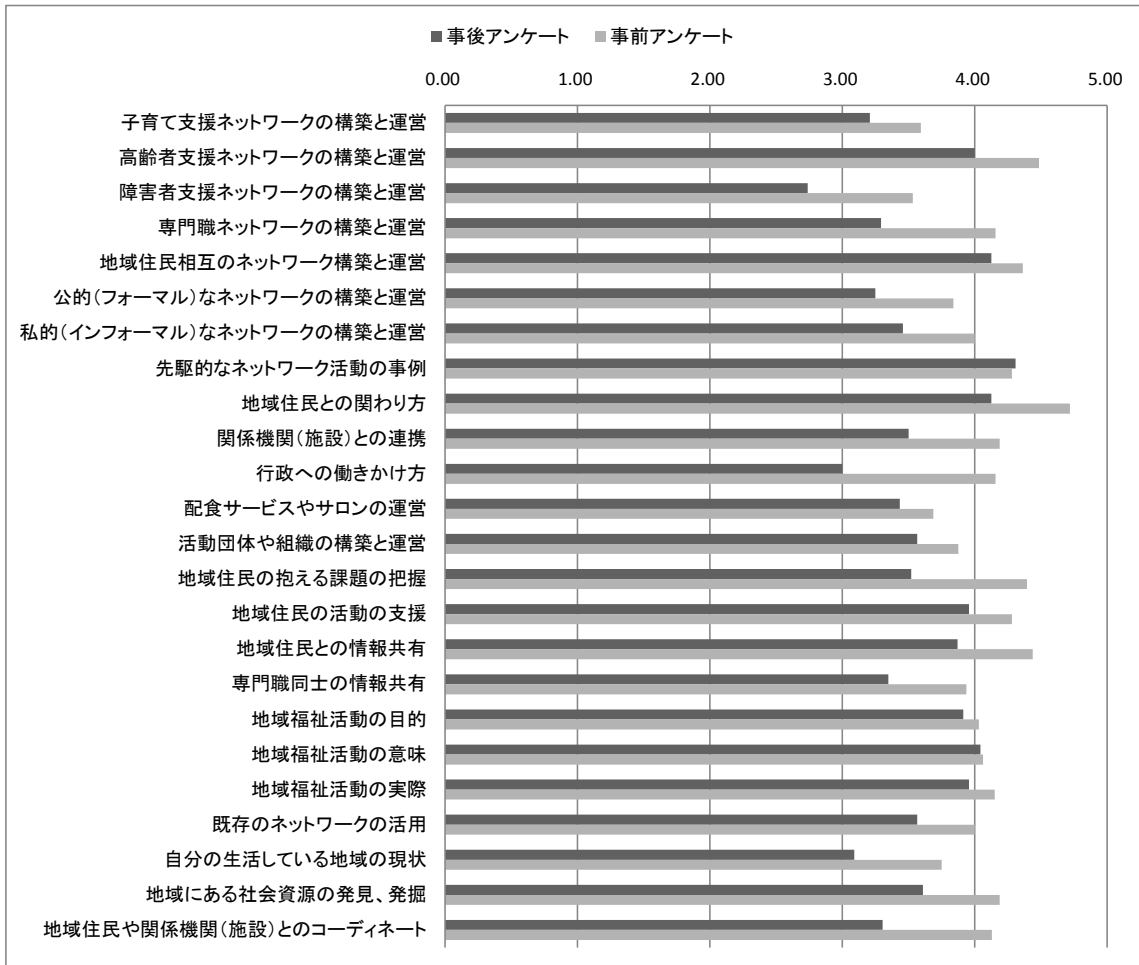
\*

最後に、事前アンケートと事後アンケートの比較検討を行う。「学びたいこと」と「学べたこと」の各項目で出した平均値で比較を行う。平均値を単純に比較することに対して今後、検討の必要性はあるが、一つの目安として比較を行った。

その結果、事前アンケートの値を上回った唯一の項目は「先駆的なネットワーク活動の事例」であっ

た。全体を通して事前アンケートに比べ事後アンケートの平均値が低いことがわかる。しかし、事後アンケートの平均値は全体的に低いものではない。

|                          | 事前アンケート | 事後アンケート | 後-前   |
|--------------------------|---------|---------|-------|
| 子育て支援ネットワークの構築と運営        | 3.59    | 3.21    | -0.38 |
| 高齢者支援ネットワークの構築と運営        | 4.48    | 4.00    | -0.48 |
| 障害者支援ネットワークの構築と運営        | 3.53    | 2.74    | -0.79 |
| 専門職ネットワークの構築と運営          | 4.16    | 3.29    | -0.87 |
| 地域住民相互のネットワーク構築と運営       | 4.36    | 4.13    | -0.23 |
| 公的(フォーマル)なネットワークの構築と運営   | 3.84    | 3.25    | -0.59 |
| 私的(インフォーマル)なネットワークの構築と運営 | 4.00    | 3.46    | -0.54 |
| 先駆的なネットワーク活動の事例          | 4.28    | 4.31    | 0.03  |
| 地域住民との関わり方               | 4.72    | 4.13    | -0.69 |
| 関係機関(施設)との連携             | 4.19    | 3.50    | -0.69 |
| 行政への働きかけ方                | 4.16    | 3.00    | -1.16 |
| 配食サービスやサロンの運営            | 3.69    | 3.43    | -0.26 |
| 活動団体や組織の構築と運営            | 3.88    | 3.57    | -0.31 |
| 地域住民の抱える課題の把握            | 4.39    | 3.52    | -0.87 |
| 地域住民の活動の支援               | 4.28    | 3.96    | -0.32 |
| 地域住民との情報共有               | 4.44    | 3.87    | -0.57 |
| 専門職同士の情報共有               | 3.94    | 3.35    | -0.59 |
| 地域福祉活動の目的                | 4.03    | 3.91    | -0.12 |
| 地域福祉活動の意味                | 4.06    | 4.04    | -0.02 |
| 地域福祉活動の実際                | 4.15    | 3.96    | -0.19 |
| 既存のネットワークの活用             | 4.00    | 3.57    | -0.43 |
| 自分の生活している地域の現状           | 3.75    | 3.09    | -0.66 |
| 地域にある社会資源の発見、発掘          | 4.19    | 3.61    | -0.58 |
| 地域住民や関係機関(施設)とのコーディネート   | 4.13    | 3.30    | -0.83 |



以上のことから、今回の養成塾の学びが参加者にとって実践的で、意味のある学びであったことが証明された。日常の業務や活動で悩み、考えていたことがフィールドワークを通して、その解決のヒントが得られたのではないだろうか。

今後はこれらのアンケート結果に加え、参加者から提出されたレポート等を整理し、各フィールドワーク先へフィードバックをしなければいけない。フィールドワーク先に全面的に依存するのではなく、地域福祉推進に必要なリーダーを共に養成していく姿勢が必要である。そのためには、フィールドワーク先での学びが充実できるように事務局との連携を強化していく必要がある。その際、事務局の考えや思い込みだけで、プログラムの検討、修正を進めるのではなく、参加者が何を求めているのか、どのようなことを学び得たのかを整理しながら取り組むことが必要である。そして、それには柔軟に対応が求められる。

今後、養成塾のプログラムをブラッシュアップしていくためにもこのような参加者アンケートは有効な手法の1つである。

地域福祉推進リーダー養成塾 事前アンケート

受講番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 昼間の連絡先 (TEL \_\_\_\_\_ )

■あなたのことについておたずねします ■

問1 あなたの性別はどちらですか。○をつけてください。 1. 男 2. 女

問2 平成22年8月19日現在、あなたは満何歳ですか。 満 \_\_\_\_\_ 歳

問3 あなたの所属は次のうち、どれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 地域包括支援センター      2. 障害者福祉施設      3. 救護施設
- 4. 特別養護老人ホーム      5. 居宅介護支援事業所      6. 通所介護事業所
- 7. 訪問介護事業所      8. ネットワーク推進員      9. NPO／市民団体
- 10. ボランティアグループ      11. その他 (      )

■本研修で学びたいことについておたずねします ■

以下の問では、各設問中に並べられたそれぞれの取り組みに対して、右の5段階の必要度に応じて、あてはまる番号を1つ選び○をつけてください。

- 1 ⇒ 学びたいことではない
- 2 ⇒ どちらかという学びたいことではない
- 3 ⇒ どちらともいえない
- 4 ⇒ できれば学びたい
- 5 ⇒ 必ず学びたい

問4 あなたがこの研修で学びたいことについて以下の項目からそれぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

| 学びたい内容                      | ( 低 ) ← 学 び た い 度 → ( 高 ) |   |   |   |   |
|-----------------------------|---------------------------|---|---|---|---|
| 1. 子育て支援ネットワークの構築と運営        | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 高齢者支援ネットワークの構築と運営        | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 障害者支援ネットワークの構築と運営        | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 専門職ネットワークの構築と運営          | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 地域住民相互のネットワーク構築と運営       | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 公的（フォーマル）なネットワークの構築と運営   | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 私的（インフォーマル）なネットワークの構築と運営 | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 先駆的なネットワーク活動の事例          | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 地域住民との関わり方               | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 関係機関（施設）との連携            | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 行政への働きかけ方               | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 配食サービスやサロンの運営           | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 活動団体や組織の構築と運営           | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 地域住民の抱える課題の把握           | 1                         | 2 | 3 | 4 | 5 |

| 学びたい内容                     | (低) ← 学びたい度 → (高) |   |   |   |   |
|----------------------------|-------------------|---|---|---|---|
| 15. 地域住民の活動の支援             | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 地域住民との情報共有             | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 専門職同士の情報共有             | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 地域福祉活動の目的              | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 地域福祉活動の意味              | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. 地域福祉活動の実際              | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. 既存のネットワークの活用           | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. 自分の生活している地域の現状         | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. 地域にある社会資源の発見、発掘        | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. 地域住民や関係機関(施設)とのコーディネート | 1                 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25. その他( )                 |                   |   |   |   |   |

**■フィールドワークの希望についておたずねします(事前調査) ■**

問5 次のフィールドワーク一覧からあなたが**希望するものを前半(8/26-11/12)、後半(11/14-2/2)それぞれ2か所を選び、第1希望には○、第2希望には○をつけてください。**

今回の希望を元に調整させていただきます。

| 前 半                          | 後 半                        |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. わが町にしなり子育てネット：9月9日(木)     | 1. わが町にしなり子育てネット：12月9日(木)  |
| 2. 玉出地域包括支援センター：9月14日(火)     | 2. 玉出地域包括支援センター：12月14日(火)  |
| 3. 玉出地域包括支援センター：10月12日(火)    | 3. 玉出地域包括支援センター：1月25日(火)   |
| 4. 玉出地域包括支援センター：11月9日(火)     | 4. 西成市民館：11月17日(水)         |
| 5. 西成市民館：9月22日(水)            | 5. 西成市民館：11月24日(水)         |
| 6. 西成市民館：10月6日(水)            | 6. 今川社会福祉協議会：11月26日(金)     |
| 7. 今川社会福祉協議会：10月13日(水)       | 7. 東粉浜社会福祉協議会：12月9日(木)     |
| 8. 東粉浜社会福祉協議会：9月6日(月)        | 8. 地域生活サポートネットほうぶ：12月3日(金) |
| 9. 地域生活サポートネットほうぶ：9月18日(土)   | 9. 西淀川区社会福祉協議会：1月21日(金)    |
| 10. 地域生活サポートネットほうぶ：9月25日(土)  |                            |
| 11. 地域生活サポートネットほうぶ：10月13日(水) |                            |
| 12. 西淀川区社会福祉協議会：             |                            |

**■ご意見、ご要望があればお書きください ■**

## 地域福祉推進リーダー養成塾 事後アンケート

### ■あなたのことについておたずねします ■■■■■■■■■■■■

問1 あなたの性別はどちらですか。○をつけてください。 1. 男 2. 女

問2 あなたの職業は次のうち、どれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 地域包括支援センター      2. 障害者福祉施設      3. 救護施設
- 4. 特別養護老人ホーム      5. 居宅介護支援事業所      6. 通所介護事業所
- 7. 訪問介護事業所      8. ネットワーク推進員      9. NPO／市民団体
- 10. ボランティアグループ

### ■本研修で学べたことについておたずねします ■■■■■■■■■■■■

以下の問3では、各設問中に並べられたそれぞれの取り組みに対して、右の5段階の学びの達成度に応じて、当てはまる番号を1つ選び○をつけてください。

- 1 ⇒ 学べなかった
- 2 ⇒ あまり学べなかった
- 3 ⇒ どちらともいえない
- 4 ⇒ 比較的学べた
- 5 ⇒ よく学べた

問3 あなたがこの研修で学べたことについて以下の項目からそれぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

| 学びたい内容                      | （低） ← 学びの達成度 → （高） |   |   |   |   |
|-----------------------------|--------------------|---|---|---|---|
| 1. 子育て支援ネットワークの構築と運営        | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 高齢者支援ネットワークの構築と運営        | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 障害者支援ネットワークの構築と運営        | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 専門職ネットワークの構築と運営          | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 地域住民相互のネットワーク構築と運営       | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 公的（フォーマル）なネットワークの構築と運営   | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 私的（インフォーマル）なネットワークの構築と運営 | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 先駆的なネットワーク活動の事例          | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 地域住民との関わり方               | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 関係機関（施設）との連携            | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 行政への働きかけ方               | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 配食サービスやサロンの運営           | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 活動団体や組織の構築と運営           | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 地域住民の抱える課題の把握           | 1                  | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学びたい内容                      | （低） ← 学びの達成度 → （高） |   |   |   |   |

|                            |   |   |   |   |   |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| 15. 地域住民の活動の支援             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 地域住民との情報共有             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 専門職同士の情報共有             | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 地域福祉活動の目的              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 地域福祉活動の意味              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. 地域福祉活動の実際              | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. 既存のネットワークの活用           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. 自分の生活している地域の現状         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. 地域にある社会資源の発見、発掘        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. 地域住民や関係機関（施設）とのコーディネート | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25. その他（                   |   |   |   |   | ） |

■ご意見、ご要望があればお書きください ■■■■■■■■■■■■

ご協力ありがとうございました



## 4. 参加者報告書

受講番号1 金東輝

私の職場の地域包括支援センターの役割は、地域の高齢者が住み慣れた地域でその人が望むその人らしい生活が出来るように支援することです。その為には、地域の住民の為に活動されている方々との連携、ネットワークの構築は必要不可欠です。今回、地域福祉推進リーダー養成塾・フィールドワークに参加して、限られた時間と一部のフィールドワークしか体験できませんでしたが、その限られた中でも今後の活動に大いに参考になりました。一つは、それぞれの地域にはその地域特有の課題があり、その課題解決に向けてそこに住まわれている地域の方々が立ち上がり活動されてこられていることを確認出来たことです。さらに、課題解決にはいろいろと困難な問題が生じ、立ちふさがった問題を克服する為に地域で活動されている他の方々との共同作業が必要でその共同作業を通してより一層、連携が強化されてネットワークが広がっていくということと、やはり、地域ネットワークの構築はその地域における課題について地域に住んでいる方々との共通認識を深め、その課題の取り組みにみんなが納得できるやり方を模索しながら推進していくことが地域ネットワーク構築に大事であるということと、限られた体験の中でとても感じた次第です。私も、地域包括支援センターの職員として私の所属する地域の課題を見つけその解決に向けて今回のフィールドワークの体験を生かしたいと思います。

受講番号2 内田良介

もともと、今回の養成塾を受講するきっかけは、開設してまもない地域包括支援センターで働き始め、地域とのつながりなしでは運営できない仕事にもかかわらず、自分自身がなかなかそういった仕事に携わっていなかった不安感を持ったことでした。包括支援センターの業務内容は多岐にわたりますが、やはり地域の高齢者が安心して暮らしていくことができる相談窓口としての機能を一番に充実させていきたいと常々考えております。そのためにも地域とのネットワークを密にしていく実践方法を体験したいと思っていました。

初日のフィールドワークでは、西成区にある西成市民館に参加させていただき、課題の多い地域で地道な活動に取り組まれている姿を見せて頂くことができました。河崎館長が地域の案内をして頂く際に、通りすぎる高齢者に対して気軽に声を掛け合っておられる様子は、今でも非常に印象に残っております。また館長より西成の歴史を学んだのですが、近くに住んでいても知らないことばかりであり、地域の成り立ちを知ることで親近感も湧いてきました。地域に根ざすためには地域に興味を持つ事、地域を好きになる事も重要だと実感し、そのためにも地域の歴史を知ることは有効だと気づきました。現在は、職場のある住吉区の事をもっと学んでいこうと考えております。また、年末には地域の夜警に参加したり、新年会のお手伝いをしたりしましたが、今回の養成塾を受講したおかげで、そ

ういった地道な活動が地域とのネットワークが深まる要因にもなると自覚しながら取り組むことができました。そして、そんなとき思い出すが、河崎館長がおっしゃった、地域に根ざしていける要因の一つである、「マメさ」という言葉でもありました。

2回目のフィールドワークでは、地域包括支援センターとして先輩に当たる存在の、白寿苑での研修となりました。ここでは管理者の種継さんから、今後の業務に生かせる非常に参考になるお話を聞くことができました。「地域の方々に向けて何か行動したりするときには、10割のことを用意するのではなく、5割6割にとどめておいて、残りは一緒に作っていく、あるいは作ってもらう」といったお話は、地域との共同作業の多い自分たちにとっても見習うべき部分があると感じました。今、法人として取り組んでいる事業で、地域の見守りサークルを育成するような活動があるのですが、やはり、こちらにすべて依存的になってしまう方もおられ、つい何でもかんでも引き受けてしまいがちなのですが、種継さんから頂いたお言葉である、「お世話をするのではなくお手伝いをする」といった姿勢を実践していこうと考えております。

また、地域の食事会にも参加したのですが、そこでは職員の方が配膳などを手伝いながら、高齢者と一緒にお食事も頂くといった内容でした。自分自身もこれまで地域の“ふれあい喫茶”などには参加していたのですが、あくまでお客さん感覚でお邪魔しており、ボランティアの方々とは話す機会も少なく、高齢者の方々と接する時間も短かったりと、なかなか地域とのつながりを実感できないままでした。そこで、このフィールドワークで学んだことを実践しようと、担当圏域を回り、地域の食事会のお手伝いをさせてもらいたいとお願いをしました。各地域のお返事は様々で、食べにくるのは良いけど、準備や片付けは今までのやり方があるから結構です、といった地域もありましたが、ある地域では、食べ終わったあとお年寄りも退屈しているときがあるから、体操や何か健康にいい話をしてもらいたいとの提案がありました。早速職員で話し合い、今月から実践していく予定です。それに一緒にご飯を食べるといのは、親しい関係を持つ事ができると感じていることもあり、徐々に包括支援センターを周知していくきっかけにもなると思っております。また、様々な教室にも参加していただく為の広報活動も今後は可能になると期待しております。

地域包括職員としてまもなく1年を迎えようとしていますが、今回の養成塾をきっかけとして、地域とのつながりをより深く意識するようになり、またフィールドワークでは具体的な取り組みに触れることで、今後の業務や地域活動においての方向性を見出すことができたと感じております。

#### 受講番号5 匿名希望者

包括支援センターの役割には地域の高齢者の方が住みなれた地域で尊厳をもってその人らしく生活できるよう、公的サービスやインフォーマルな社会資源を調整して支援していくことにあります。地域での自立した生活を支えていくためには福祉サービスや専門職が必要なだけでなく、本人を取り巻く地域住民の支えあい也不可欠です。ネットワーク

構築を目指し、模索しながら取組をしていた時、今回の「地域福祉推進リーダー養成塾」を知り参加させていただきました。

前期フィールドワーク先の玉出地域包括支援センターでは、地域とのつながり地域住民主体のネットワーク作りを学ばせていただきました。地域を知る・地域にでていく・住民の方と一緒に汗すること。

日常的な関わりを重ね、キーパーソンとのつながりをしっかり構築され、人と人のつながりを広げていたこと。

専門職としても、常に住民の声に耳を傾け、アンテナを広げ、常にひらめきを意識していること。事業をこなすだけではつながりはできない。一緒に考え、住民主体で進めていくことの意味。どんないい企画もだれが何のためにすることかが共有できなければその場限りになってしまう。専門職としての発想と、住民の声をリンクすること意識しながら、出会いを広げ、たくさんの声の広がりにつなげていくネットワーク作りを学ぶことができました。

後期フィールドワーク先は、わが町にしなり子育てネットでの「子育て支援関係機関会議」に参加させていただきました。

「西成の子供たちの、りえきを守る。地域で子育てをささえる。」

子供の権利条約を西成の子供たちへの先生の強い思いでの声かけ、つくってはつぶれ、7年間繰り返され、現在があるとききました。

共通の理念をもってがんばれる仲間作りをすること。具体的活動を積み重ねた、組織のパワーを目の前にして、高齢者支援の求める事も同じだと思いました。

「高齢者その人にとってどうなのか」「だれのための支援なのか」

この当たり前のことが、ぶれることなく支援ができてきたらどうか。

目の前の忙しさで見失うことはなかったかと、改めて原点に立てたような気持ちがしました。

地域で高齢者支援に取り組んでいるケアマネジャーやサービス提供事業所など、それぞれ重たいケースを抱えています。

地域においても、地域とつながらない孤立した高齢者や、つながりがあっても支援を拒否される方など、見えにくい又見えていない高齢者の問題があります。

個々が問題を抱えてしまうことなく、さまざまの問題を共有し、情報を出しあい、みんなで考える。共通の理念をもってとりくみができる、しくみ作りが必要だという事を学ぶことができました。

研修での気づきや学んだことを持ちかえり、職場で共有し、福祉専門職としての意識を高め、できることから始めていきたいと思いました。今回一つのテーマを通し、たくさんの参加者の方とであえ、ちがった立場での意見をたくさん聞くことができたこともとってもよかったと思いました。

前期のフィールドワーク先の「わが町にしなり子育てネット」では、支援されていた側が、支援する側にもなれる対等な関係で、子供のころ、地域の大人に大切にされた子供は、大人になれば、地域の子供を大切にする。子育てに悩んだお母さんも、子供が大きくなった時には、支援者になる。当事者グループがネットワークの中心と考えておられるところが素晴らしいと思いました。何でも専門職だけがするのではなく、地域の方も一緒になって、自助、共助、互助の関係を築き、緊急性のある目の前のことを解決しながら、時間をかけて大きな課題も解決していけるようなネットワークを作るためには、参加して良かったと思える会議をどう作っていくかが、重要だと言われていたことが、とても印象的でした。

後期のフィールドワーク先の「今川社会福祉協議会ボランティア部」では、地域の高齢者の方を、地域のボランティアの方が、いろんな工夫をされ、支援されている事が、素晴らしいと思いました。制度だけでは、埋められないところを、埋めることによって、地域の独居の高齢者の方が、安心して暮らしていける、支援する側もされる側も、いきいきと暮らしていける街づくりを、積極的にされている様子がよくわかりました。

1年おきにボランティアスクールを開催され、専門知識も勉強され、ボランティアの方もやりがいを持って支援に参加され、支援する中で、問題が起こった時、ひとりの人が、抱え込まずに、関係機関や施設などと連携し解決できるネットワークが出来ていることも素晴らしいと思いました。

今回、「地域福祉推進リーダー養成塾」で学んだことは、地域で安心して、暮らしていくためには、行政、医療、教育、民間、専門家が、協力して、成り立つので、安全に地域生活を継続することは、高齢者にとっても、障害者にとっても、簡単なことではなく、制度だけでは、生活が、成り立たない方も、いらっしやいます。制度だけでは、成り立たないことも、制度外の支援があれば、成り立つので、老人のデイサービスや、障害者支援の施設、保育園など、制度ありきの縦割りで考えるのではなく、気軽に利用できる場所があれば、在宅で家に引きこもりがちのお年寄りや、日中活動場所のない障害者、保育園の入所待ちしている幼児など、病児のあずけ先が無く、困っている働くお母さんなど、すでにある施設が、制度外で受け入れ、対応できれば、助かる方はいっぱいいると思います。たとえば、病児保育を預かってくれる場所があれば、働けるお母さんが増え、障害児の児童デイサービスはどこもいっぱい利用できないので、障害者施設が制度外で利用できるようになれば、障害児のお母さんが楽になります。

各施設には専門家が配置されているので、専門家の指導のもとに、リスク管理し、医療と連携すれば、ボランティアの方にも協力してもらい、安心して過ごせる、場所ができると思いますが、まだまだ制度の壁は、大きく生野区でも、たくさんの連絡協議会はありますが、専門職が集まり、地域住民との連携はできていないように思われます。

すこしのきっかけがあれば、子供、高齢者、障害者などの関係機関と地域の住民がもっと深く連携できると思うので、今回学ばせていただいたことを、参考にさせていただき、

地域ネットワークを深め、誰もが、住みよい、街づくりを目指していきたいと思います。

受講番号7 白谷陽子

この地域福祉推進リーダー養成塾を受講させていただいて、小掠先生のお話と、フィールドワークで行かせていただいた西成子育てネット定例会議や今川社会福祉協議会の皆さんの生き生きとした表情が胸に焼き付いています。西成子育てネットは10年、今川社会福祉協議会は30年という、長い時間をかけて実践を重ねてこられた方々の生の声を拝聴でき、とても貴重な機会となりました。

草の根的に、「手近なところから」、少しずつでも「積み重ね続けていく」先に広がる可能性、じわりじわりとつながっていくことに秘められたパワーを感じました。西成子育てネット、今川社会福祉協議会そのどちらの取り組みにも社会福祉協議会が深く関わったことも印象的でした。私も社協の人間ですので、ボランティアとしてではなく、仕事として確実にその場を保障し、住民の方々がそれぞれできることをいかに楽しく続けられるようサポートしていく役割を担う社協の存在意義や立位置の事例を通して学びました。

一回目のフィールドワークの後に、フィールドワーク先に分かれてKJ法で「良かったこと」と「自分ができること」を話し合う時間もよかったです。分かち合うことで色んな角度から学びを深めることができ、感動も深まりました。

#### ◎養成塾を通して学んだ地域福祉推進のポイント◎

◆みんなで、楽しく、少しずつ 一週間で30分

■共通点を探ることがネットワークをつくる土台となる

◆1つ共通の目標を持てば結集できる、想いを共有する

例) 西成からは児童虐待は出さない、子供を殺さない

■会議のための会議、疲れたで終わらず、参加して良かった、主体的に忙しくても出たい！と思える会議づくり、行きたくなる、行かなきゃ損だというネットワーク作りを行う

◆ネットワークづくりも今風に！「今の社会なりにやっていく」、「時代が変わる度に考えてやってきた」

今の時代：肉親、血縁関係が薄れていく時代、ニーズや課題が多様。「互⇄協働」が必要である。互助というのは、隣近所のつながりというよりは、「子育て中の親」というような同じ立場・同じ悩みを持った人でつながりあうこと。

■ニーズを発見するために、こちらから出向くことも必要。

待っていてもダメ。制度だけではダメ。声をかけやすいように援助する。

◆当事者の声を重視する。自発性が基本。

主役は親、専門職は側面から。支援者が強すぎると主体性がなくなる

■根気のいる自発性。「大変ですね」、「何かあったらお手伝いしますよ、応援しますよ」と声をかけ続ける。

◆自主性をつなげていく為にはスタッフ同士のつながり、ゆるやかなつながりのネットワークが必要

■子供と高齢者は行動範囲が広くないので、小地域でネットワークを整えていく

◆今ある資源の有効活用を！何かしようとする時に、今あるものをどう使うか、蘇らせるか、魂をふきこむのか。有効な資源が地域には寝ている。

資源には人も含まれる。何かやりたいという人は必ずいる。

資源をどう探して、どう活用していくのか。それぞれの得意分野を生かして。

■地域や他世代にお世話になることで、地域に還元していく人材が育つ

地域で育った子が大きくなったら地域をととても大事にする、経験って大事。

◆ネットの一員であるという気持ちをどう継続していくのか⇒「ネットに入っていて良かった！自分だけでは中々できないことをネットワークではできる。力をもらえる。」これに気がつくまで、ゆるやかなネットワークで関係性は保っておきながら、その時を待つ。人によって団体によって時間差はある。何かに遭遇しないと気づかない。

■エンパワメントの視点：対象（人・物・こと）のよいところを探す。

例) 1年に1回だけは出てきてくれる団体への観方：何かしようと思ってくれてはる。それで十分。

例) いつか、後で返してくれたらいいな。やれる人がやろう。休みたかったら休める。

それぞれの事情がある、また何かの時はお願いしますね。

◆24時間365日動いているのが地域

■誰かが気づいてくれる町づくり

⇒新しい仲間を増やし、意識を持ってもらう働きかけ

問題を発見する能力を養う研修。ボランティアスクールを2年に一度開催。正しい知識や技術を学んで、実践とのミルフィーユ。数は力。資金も集まり、講師もメンバーの中から出せるし、行政を巻き込むことで、会場も区の行事並みとして半年前から押さえてくれる。小学3年生に福祉教育をする今川ワンダーランド。

◆人と人、ネットワークが横断的につながり合う、お互いが支え合う場→西成：公園づくり、今川：8月に大掃除。‘町会にある大切なもの’という意識

■支援者と支援される側という一方的な関係ではなく、対等で支援される側が支援する側に回ることもある。

例) アドバイスもらった人数年先輩のママが数年後アドバイザーに回る

◆1つ1つの行事が虐待防止という気持ちで

■担当が替っても、仕組みや仕掛けが消えないように

◆自分の立場を守りながら、各種団体と仲良く活動する

■負担が少なくなるような道具 例) 記号が記入できる報告書

前期に玉出地域包括支援センター、後期に今川社会福祉協議会ボランティア部の2箇所  
のフィールドワーク先から、独自の地域活動の取り組みを学びました。

2箇所とも異なる機関により、取り組みが異なりますが、共通して言えることは、「高  
齢者が安心して暮らせる地域づくり」の為に試行錯誤を繰り返した結果、今のようすば  
らしい地域活動ができたということです。

「魅力を感じるもの・価値があるもの」にこそ、人は自分の持っている力を発揮したい  
と感じます。地域活動の特徴的なことは、明るさと、関わっている人たちの笑顔が満ち溢  
れていることです。どんなにすばらしい活動でも、楽しくなければ長続きはしません。ま  
た、地域づくりは、個々の生活に犠牲を強いる取り組みでは継続できず、定着もしません。  
地域社会から孤立し、孤独になりがちな人が気を許すつながりは、おしつけではないさり  
げなさが重要です。

安否確認を仕事として行うことを否定はできませんが、何かの「ついで」に、自然な形  
でお変わりはないか。と確認するといったさりげない日常性を活かした、人との関わりが  
気楽にできる関係づくりが必要です。しかし伝え合う、手をさしのべる為には、相手に手  
の届く距離にいなければなりません。手が届く距離にいる人にしか、手を差し伸べるこ  
とができません。そして手を差し伸べることは、「地域」でしかできなく、地域の方々の協力  
なしでは成り立たない。という地域福祉の原点を身をもって学ぶことができました。

そこで、今後自分には何ができるのかを考えた時、包括の仕事だけの業務をこなしてい  
るだけでは、私たちを本当に必要としている人は、見えないと思いました。たとえ見えた  
としても、いきなり私たちがその人の生活に入り込むことは、今までの生活や価値観に土  
足で立ち入るようなもので、心を開いてはもらえません。なので、手を挙げられない人、  
私たちが必要とする人たちへの近道はないのです。

ですから、まずはその対象とする人を、そしてその方が住む地域を知ることで、地域の  
人たちにとっての安心につながっていくのではないかと考えました。

高齢者が安心して暮らせる地域とは、健康で、福祉が充実し、地域とのつながりがあり、  
自分なりの生きがいがある。といったことだと思います。

住み慣れた地域で暮らし続けたい。という気持ちは皆が感じている共通の想いでしょう。  
しかし高齢化が進み、高齢者1人暮らし、夫婦のみ世帯が増加する中では、孤立している  
高齢者は多く、問題点が多いのが現状です。

人間は一人では生きていけません。孤立していくほど辛いことはありません。自分に役  
割がある、必要としてくれる人がいる、気にかけてくれる人がそばにいる。こういったこ  
とは、人間の自然な欲求です。しかしそれを満たしてくれるのは、家族とは限りません。  
友人であり、隣人であり、専門職であり、この地域にいる人、そばにいる人でもいいのだ  
と思います。暮らし続けたいと思う地域は、自分を知って、気に掛けている人がいる地域  
ではないでしょうか。

このようなことから、地域包括支援センターに「地域ネットワーク構築」が求められ

ているのだと思います。

その役割の中で、「大変、大変」という中からは新しいものは何も生まれません。ネットワーク構築は、「新たな仕事がまた増える」でなく、本来私たちがやらなければならない大切なことを、今まで積み重ねてきた地域の方々と協力して行える取り組みです。ですから、私たちが対象としている高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らせるよう地域ぐるみで応援していけるのですから、とても心強いのです。

地域の方々が包括に協力してもらうのではなく、包括が地域の方々に協力してこそ、ネットワーク構築が行えます。

そこで今後、取り組めることとして考えた時、積極的に地域に出向くことであると思いました。地域の方々や各専門職に、「ここはこういうところだから、こういう時に気軽に相談していいところ」と包括の存在を知って頂き、地域の一部に溶け込んでいくところが、大切であると感じたからです。

自転車で訪問に出ると、商店街でお店の人々、民生委員やネットワーク委員、ケアマネジャー、高齢者本人、家族などから声を掛けられたり、呼び止められたりしてなかなか目的の地につけないくらい、地域の方に顔を覚えていただけるようになれるのが、目標です。

日々の業務に追われる中で、養成塾で学んだことにより、改めて自分を振り返ることができました。

専門職として、自分が立っている地域を見つめ、今何をすべきか考えた時、人の権利を守っていくとこを本当に貫くとすれば、あらゆる人と共感の中から手をつなぐ必要性を感じて動くことなのだ痛感しました。

その為にも、他職種・地域の方々との協働・連携を通して活動は不可欠です。

地域に受容られる、安心して包み隠さず話しをしてもらえる。そんな相談員になりたいのだと、改めて自分の目標も明確になりました。

今回学んだことを、学んだだけで終えないよう、日々努力していきたいと思っています。

貴重な経験をさせて頂いたことを、心から感謝いたします。

#### 受講番号 11 田中正美

テレビ、新聞で報道される老人・子供の虐待・孤独死の問題等の事件に胸うたれる人は数多くいる。地域の関わりを通し見えてきたもの。人は地域で暮らし地域の人に支え見守られ生きていけたらどれだけ素晴らしい事が……。目に見えないものが交流を深め見えてくる。心が通じ合う社会があれば……。理想ばかりが頭をよぎるのが東粉浜地域はお年寄りにも子供にも温かい目が注がれ一人一人が元気に見えた。朝の登校時、明るい声がそこらじゅうとびかい自然に会話が広がっていた。小さな小学生はおじいちゃん・おばあちゃん・お母さんに見送られ年齢と言う枠をこえて地域が一つになり笑顔がこぼれていたのが印象的でした。

ほうぷでは代表の娘さんに重度の障害があり一時期社会から孤立した生活をおくって



いたと聞きました。その中で立ち上がった事。一人一人に向き合う活動がボランティア活動であり地域の原動力になっている。人と人がつながり合う事で地域社会が豊かになっていく。娘さんの誕生で誰よりも命の尊さ重みを知っている方に出会い同じ想いの人が集まれば想像以上に大きな力・支えと変わる事を学び人とのつながりが深く感じ見えるものでした。

フィールドワークを通し人と人とのつながりを持ち一人一人が輝きに満ちた人生である為に地域で手を取り合い生きていく社会作りに少しでも貢献できる私でありたいと思います。

貴重なお時間を作って下さった事、参加出来ました事に感謝します。

#### 受講番号 12 宮谷美子

第1回目フィールドワークでは共に子育てネットに参加している団体関係機関の多いこと。それは無理をしないで出来る人は参加する、出来ない人は次の機会ですればよいということは心の負担が少なく長続きすると思います。会議に参加している人は参加して良かったという情熱があり、自分の意見をはっきりといえる会議で会って、だれもが参加して良かったと思える場で会った事に感動しました。

第2回目フィールドワークは今川社会福祉協議会ボランティア部を見学させて頂き部長の澤田様より長くボランティアが続けられていけるのは「愛のふれあい募金」という活動資金があること、一年おきにボランティアの発掘をしていること、週3回の喫茶活動高齢者相互の助け合いの場、サロン今川などいろいろな活動の説明がありました。

中でも一番心に残ったのは、個人のニーズに対応して、原則としては無償のお手伝いですが、レモンの会の有志のかたによるリーダーが調整し、1時間600円の活動をしている。

サービスが長期継続の場合と有償を希望される方には、通院の付き添い家事援助、入院時の対応などいろいろな活動をされていました。

私たちの地域も独居高齢者が多くその方たちは、古いワンルームマンションに入居されているので、その方たちもサービスが受けられるように色々な行事やサービスが受けられるように衆知出来るようにすることが課題です。老後を敷津に住んでよかったと思われる様な地域になるように、ボランティアさんと一緒に考えていきたいと思えます。

#### 受講番号 13 仲西由香子

もともと私は地方出身者で大阪にでて来た時は全く地域との関わりはなかった。ある意味、都会は近所付き合いが少なく、人の目を気にせず、自由になった解放感が心地よかった。しかし、知り合いが増えてきたことも関係があると思うが、年齢を重ねていくうちにこの考え方がかわっていく自分もいた。

特に昨年の4月に西成区で福祉関係の事務所を開設してからは、率先してご近所の方と接していこうと考えがかわった。今回の「地域福祉推進リーダー養成塾」の受講のきっかけもお向かいの方が長年、西成区で民生委員をされていた方と出会い、生き生きと活動されている姿を通して私も何かしたいと思い受講させてもらった。

生き生きとした活動とはその方は買い物に出掛ける道中で何人もご近所の方に出会っては「元気やった？かわりない？」と次々に声をかけておられた姿をよく見かけていた。新参者の私達にも「大変な仕事やけど、頑張りや〜。ここに福祉の事務所ができたことで安心や」と優しく声を何回も掛けてくれた。この声を掛けてくれたことで私達は精一杯この土地で頑張っていこうと勇気づけられた。この何気ない一言かもしれないが、積み重なって人と人の繋がりが深くなっていくことだと実感。これがご近所付き合いで一番大切なのではないかと思う。

しかし、このようなご近所付き合いが希薄になってきたこの時代、地域包括支援センターが担う役割の大切さを今回の研修で学んだ。

もともと、福祉関係の仕事はしていたが障害者畑で地域包括支援センターのことはあまり詳しくは知らなかった。地域の方とのかかわりの要になっていく場所なのだと認識した。私達の事務所も連携をはかり勉強会やイベント作りを提案していきたいと思った。

そして、ここで一番強く刺激をうけたことは自分が今後生きていく上での生活スタイルを再度立ち止まって考えることができた。

それは、フィールドワーク先で伺った「玉出憩いの家」で出会った地域推進委員の奥田さんが活動している様子とその後での質疑応答の時間の時にワクワクする気持ちが湧き上がってきた。奥田さんも生き生きとされ、輝いていた。事務所のお向かいの方と一緒に輝きを感じた。

お二人とも、ご家族の理解やしんどいこともたくさんあったとおっしゃっていたが、充実した毎日を過ごされ、人の笑顔がご自分のエネルギーになっているからこそキラキラ輝いていると強く感じとれた。

私も年を重ねた時にお向かいさん・奥田さんのように輝いているのだからかと自問自答した時に輝いていたいと思う自分がいた。まだまだ、経験不足で未熟な私だが、今回の研修を通して目標が定まった。

そして、2回目のフィールドワークでは実際に自分が体験したご利用者様のケースが重なり、とても意味あるものになった。やはり、困ったことや、実際に大変なことが起こらないかぎり、自分はどこか他人ごとであったことも反省した。

小掠先生のコメントで、「隣人とはただ単に隣や近所に住む人をいうものではありません。困ったときには支えあう、嬉しいときは分かち合う、そんな関係ではないでしょうか。」という言葉が常に心において行動していきたい。

そして、小さなつながりが集まると大きな輪になり、何か困った問題が起こったとしても未然に解決や緊急対応がなされていくことが「わが町にしなり子育てネット」の会議に参加させてもらって知り、ネットワーク作りの大切さを学ぶことができた。

最後にこの「地域福祉推進リーダー養成塾」に参加して、自分の立ち位置や今後してい

きたいことや、目標が定まった。そして、生き生きと周りの方々が過ごせていけるようにお手伝いしていきたいと強く思わせてもらいました。

#### 受講番号 14 小寺智子

受講のきっかけは、ネットワーク推進委員の新任研修で紹介いただいたので応募しました。本当のところ、こんなにレポートや発表までするとは思ってもみず、軽い気持ちで応募してしまったので、後半結構厳しかったです。

しかし、レポートや思いをまとめる事で、自分なりに次のステップへつなげていく事ができたかな？とも思います。

前期のフィールドワーク先の今川社協では、地域振興センターという施設の設計にも、実際にボランティアされている方と関わられた事。また、組織化された友愛訪問、ボランティア部運営、財源など、「みんなで楽しく少しずつ」をモットーとされ、積み上げられた30年間の歴史を感じました。

後期のフィールドワークの玉出地域包括支援センターでは、地域とのつながりの中での課題やニーズを発見する事ができるなど、積極的で熱い思いに感銘しました。施設と地域との関係も今後ますます重要だと感じました。また、地域の食事会にも参加させていただき、高齢者の皆さんやボランティアの方々の笑顔が印象的でした。

また、前期・後期と一緒に参加した皆さんの社会福祉に対する熱い思いにも感動しました。

今回、8月の講義から始まり、2回のフィールドワークを通して、自分の地域ではどうだろうか？できる事は何か？と色々考えるきっかけをいただきました。

地域のほうでも、5回にわたってコミュニティスクールを開催し、

「コミュニティの役割とは？」

「小地域福祉活動について」

「高齢者の孤立防止にむけて」

「他地域の福祉活動を学ぶ」

「地域の福祉活動について」を学びました。

今後のまちづくりを地域の人達と、どれだけ熱い思いで活動していけるか。そのために、私ができる事はなにか？

「ハイ、これ」と答えは簡単には出ませんが、安心して暮らしていけるまちづくりのために、これから地域の皆さんと一緒に考えていく材料をたくさん学ぶ事ができました。今後の活動に活かしていきたいと思います。

養成塾で、お世話になりました皆様に感謝しております。ありがとうございました。

今回、地域福祉推進リーダー養成塾に参加して感じたことはケアマネの仕事ばかりしていると視野が狭くなってきているなということです。地域にはよりよい地域になってほしいと願う人たちや活動している人たちがつながり地域力が構成している中心的な部分を実習することができ、とても勉強になりました。

1 回目のフィールドワーク先の西成市民館では日雇い労働者の背景や歴史を理解して半福祉半労働で住まいの提供と他者や職員と関わる場を作り関わることで、孤立させないで関係性を構築して再び社会と関わるきっかけを作っていく過程の説明を聞き、その人の力を引き出していく方法は他の福祉職と共通する部分が多いと感じました。私は以前高齢者のデイサービスで働いていました。介護が必要になり1人で外出できず孤立してしまい再び社会に出てくるきっかけになるのがデイサービスでした。片マヒ等の障害を持っている人は特に以前と違う自分を受け入れることができず、その体で社会に出ることに、とても不安を持っている。そういう人たちがデイサービスという小さい社会に出て来て再び人と関わることになる。職員と関わり他の利用者に関わり少しずつ少しずつまたこの体で生きていく意欲が出てくる。してもらうだけではなく自分でしてみようという意欲が出てくる。このプロセスはホームレスが生活保護を受給しサポーターハウス陽だまりで生活を立て直し半福祉半労働で社会との関わりを持ちながら陽だまりの職員のサポートや他者との関わりを持つ場を作ることで生活意欲が出てくるまでのプロセスと基本的な部分は同じと感じました。あらためて孤立させない大切さを認識しました。

さらに釜ヶ崎地域における日雇い労働者の歴史を知ることで、今までの疑問も解けました。現在、私は居宅支援事業所のケアマネとして働いているが、今まで関わってきた利用者の中で偽名を名乗っていたため年金がもらえない人や極端に人と関わるのを嫌がる人等職歴も似たような利用者に関わることもありました。私としては彼らと関わるのが少し苦手な関係構築の上での距離感が取りにくくデイサービス等に来て少し浮いている存在でした。どうも関わりにくいイメージが強かったが、今回の研修で河崎館長の釜ヶ崎地域における在宅生活をささえるネットワーク活動の報告を読み、炭鉱が閉山になり職場を求めて大阪に来て日雇い労働者の仕事に就き、日雇い労働という人間関係を積極的に構築しなくてもいい環境で地域とのコミュニティとも関わらない生活を長年してきたため、他人との協調性が少なく、対人関係の持ち方、距離のおきかたも体得されていない者が多いとの説明を聞いて、こういう歴史や背景を理解して関わるのと知らないで関わるのでは、その後の関係構築にかなりの影響があると感じました。そういう部分を理解しながら半福祉半労働をしながらサポーターハウス陽だまりで生活する。その中で今まで体得できなかった社会性(対人関係や協調性等)を陽だまりの生活の中で自然に身に付けていく。環境を整え生活スキルを高めていき最終的には地域から孤立することなく就労して生活できるようにサポートしていく過程を見て、地域を巻き込みよりよい地域を構築していく地域福祉を見せていただきとても勉強になりました。

2 回目のフィールドワーク先の今川社会福祉協議会ボランティア部では約 30 年にも亘

るボランティアグループの活動を見せていただきました。駒川中野駅から今川地域振興センターまで歩きながら町の様子を見て「釜ヶ崎とは全然違うし家も一戸建てが多いな」と思いながら歩いていました。今川地域振興センターについてサロンを見学した後にパワーポイントで今までの活動の説明を聞きました。その後ボランティア活動の動機やきっかけをひとりずつ自己紹介しているのを聞いてボランティアの人たちの地域に対する愛着と熱意を感じました。それと同時にボランティア活動を始めるきっかけを聞くと姑の介護が終わり暇が出来た時に依頼されたり、定年退職で時間が出来た時に声をかけられたりしている。ボランティア部長は常にこの人なら適任と思う人にタイミングを逃さず声をかけボランティア活動に巻き込む。巻き込まれた本人もボランティア活動の負担よりやりがいや楽しさを強く感じているように思いました。巻き込むプロセスを見ていると、とても女性的な巻き込み方だと思いました。ボランティア活動の負担を軽減することで長く続けられ地域との関わりも強くなり組織も強くなる。そしてこの活動は住民を孤立させないでいい意味で住民同士関心を持つ大切さを住民に気付いてもらう活動ではないかと思いました。

#### 受講番号 16 前野こころ

私は本研修の参加を上司に打診された際、「地域福祉」という言葉に強く魅かれた。女性専用の救護施設通所事業担当職員として勤務している中で、「地域福祉」について興味を持っていたが、これまできちんと考え学ぶことはなかったからだ。また、研修内にフィールドワークが組み込まれている点も他研修では見たことのない企画であったため、すぐに参加の希望を上司に伝えた。

私の日々の業務は、救護施設を退所し、地域で居宅支援を受けながら暮らしている退所者の「アフターフォロー」である。一部は施設の近くにアパートを借りて住み、施設内での作業に参加するため毎日施設に通っているが、一部は施設とは離れた場所に一人で暮らし、退所後は全く施設に顔をだすことはない。両者共に施設生活を経て、地域での暮らしに帰っていった者たちである。施設に入所した際は、皆様々な理由を抱えて居宅支援を受けられず、施設生活を経て、再び地域での生活を取り戻すのである。

家族や友人など人との関係が断たれた者がほとんどであるし、1人暮らしをするのも、初めてという者も少なくない。そんな彼女達が、知る人もいない土地に一人で暮らすことがどれほど不安なことか想像に容易い。加えて、なにかしらの身体的・精神的な疾患を抱えている者がほとんどであるし、退所しても、すぐに一人で生活を立てていくことは困難である。「一人では不安だけど、誰かが少し手助けしてくれれば、暮らしていける」。そんな人達の‘手助け’を行うのである。

登録している者の数は限られたものであるが、登録期間が終了しても、彼女たちの多くは作業に通ったり、施設の行事に参加したりする。電話での相談も受け付けているため、受診の相談や人間関係の悩み事など様々なことを話す。しかし、登録期間が過ぎてしまうと、定期的で細目な対応をすることは難しくなる。そんな時、地域での福祉がより充実し

たものであれば・・・と思うことがある。

1回目のフィールドワークである「玉出地域包括支援センター」では、このような私の思いに答えるヒントを得ることができた。包括支援センターの存在は知っていたが、実際の業務内容を知る機会はなく、介護認定の際に連絡を取り合うくらいしか経験がなかった。フィールドワークでは、包括支援センターを見学し、日々どのような業務を行い、何を目的としているのかということが明確に把握することができた。独居の高齢者を対象としている点や地域とのつながりを第一としている点において、施設を退所した彼女たちが利用できる社会資源の一つであることが明確にわかったのである。

彼女たちの多くは何をどこに相談したらよいかわからず、問題をそのまま放置してしまうことが少なくないし、彼女たちに問題が起こっていることに気づく他者はいない。特に登録が終了し定期的に私たち職員に会うことなくなった者は、問題の把握事態が非常に困難である。登録終了後も少しでも彼女たちを気にかけて、定期的に話せる相手がいれば良いと常々思っていたが、包括支援センターこそ、その存在になりうるものであると感じた。また、フィールドワーク中に話を聞くことができたネットワーク推進委員の方の存在も非常に興味深いものであった。恥ずかしいながら、私はこの存在をほとんど知らなかったが、様々な人と人との懸け橋を経て支援につなげていっていることを初めて知ることができたのである。

2回目のフィールドワーク先である「今川社会福祉協議会」においては、ネットワーク推進委員や地域の側からの話を聞いた。地域住民の方々は、もちろん私たち施設職員や包括支援センター職員のように、「職業」として活動をしているわけではない。したがって、往々にして地域住民の方は活動の大変さから活動自体を敬遠し関わりをもつことが少ないようであるが、今川地域においては、関わる地域住民の一人一人の負担を軽減し、皆が楽しんで活動を続けている。それにはよく構成された組織と皆が共通の意識を持つことが必要であると思われるが、その点において今川地域は非常によく運営されていることに感心した。はっきりとした組織図と役割分担は、個人への責任や活動内容を明確にし、1人1人が動きやすく、そして楽しく活動できるものとなっていた。一部少数の住民のみが行うといったような偏った活動になれば、もちろん把握できる高齢者数も少ないであろうし、支援につなげていくことは困難となる。また、自身の居住する地域でこのような活動を続けることは、結果として自身の将来を作っていくことを意味し、ボランティア部の方がおっしゃっていた「娘に自分がこの活動を通じて得た知識を使ってほしい」という旨の発言が非常に印象的であった。

今回の研修を通じて、地域包括支援センターと地域住民の活動という二点から、「地域福祉」を考える機会を得ることができた。このような社会資源を有効に活用することで、より安定した毎日を送れると思えた。通所登録が終了した彼女たちを、見守ってくれる誰かがいるのだと思えた。

もちろんそれは地域によって内容の差異があるが、今回見学に行ったセンターと地域は、少なくとも最大限にその役割の中で努力し、そして私たちが学ぶべきことの多くを持っている。今後の業務において、紹介・活用できる社会資源の選択肢が増え、退所者たちの不

安を少しでも解消できる手段の手がかりを得ることができ、非常に有意義な研修であったと思う。

#### 受講番号 19 真鍋良子

今川社会福祉協議会で、各方面の活動を、スライドを使って見せていただき良く理解が出来ました。なんといいましてもボランティア活動が始まって 30 年という歴史も有り又ボランティアさん達がほとんど専業主婦の人が多いの活動には非常にプラスだと思います。

その上に「みんなで楽しく少しずつ」をモットーにしている事も長くつづく要素と思います。

- ボランティアの組織作り
- 財源の確保（愛のふれあい募金）
- 良い場所が得られた事
- 一年おきにボランティアスクール開催

このような事を決めて実行して来た事が現在の立派な活動になって来たと思います。私達の町のネットワークはまだまだの状態ですが、今川地域の見学をさせていただき「みんなで楽しく少しずつ」をモットーに進んで行きたいと思いました。

#### 受講番号 20 匿名希望者

今回、この企画を設けてくださった、大阪市社会福祉協議会の方々、研修内容やフィールドワーク先の依頼など、綿密な用意をしてくださって、私たちが研修できたことをお礼申し上げます。

誰でも、地域の問題を

「こうしたらもっとみんなに知ってもらえるんじゃないか」

「誰かが一緒だったらできるんじゃないか」

日常の中でこんな思いが交差します。でも、思いを形にしないから、何ら解決していきません。こんな自分に飽き飽きして、情けなく思っていたところにリーダー養成塾の研修が開催されることを知りました。私にとってグットタイミングでした。

というのは、自宅の近隣の公園や道路に、犬のふんや、ごみが散乱しているのがとても気になっていました。加えて、近くのハイツの住人が指定曜日に生ごみを出さないためにカラスがそのゴミをあさって、そこらじゅう生ごみが散乱していたのです。環境事業所に指導をしていただいても状態は変わらず、やはり地域のことは地域住民が動かなくてはらちが明かないことを痛感しました。そこで私は、週 3 回程度、近隣の清掃をすることにしました。

「いつもきれいな状態を保っていたら、ごみを捨てる人も気が付いてくれるだろう」と思ったのです。目標は、近隣の人と集まって、ハイツの住民に、現状に対する苦情を訴えて改善策を伝えることです。

地域の人たちの中には、「何か役に立てることはないか？」と考えていらっしゃると信じています。町会ごと、または、各小学校区単位で、ボランティアスクールを開くことで横のつながりが生まれ、形に（実践）なっていないかなあと青写真を描いています。（今川社会福祉協議会ボランティア部のフィールドワークをさせていただいたことで、学びました。）

この研修で得たことで自分が変わったことは、「先ずは自分が変わらないといけない」ということです。自分が清掃活動をすることで、同じ気持ちで活動している人がいたら、「ご苦労さまです。ありがとうございます。」と、声を掛けられるようになりました。何か、同志みたいに思うのです。これが横のつながりなんでしょうね。これって、自分が変わらないと出来ないんですよね。現在は、個人的な活動にとどまっていますが、もし、町内で問題が生じたときには、傍観ではなく、自ら立ち上がって問題解決しようとする自信があります。

長期にわたって、学ばせていただいて本当にありがとうございました。この研修で得たことは、必ず地域のお役に立たせていただく機会に反映されることと思います。

#### 受講番号 21 澤田耕作

今日、少子高齢化の時代といわれて久しいが、私が日頃暮らしの中で感じる色々な想いのもっとも大きいものとして、近隣住民どうしの交流の少なさや疎外感、孤立無縁感がある。人口密集地域での都市生活者に欠かせない集合住宅・マンション・団地等、住環境の過密化・高層化・個室化の流れは益々大きくなってきている。また核家族化や単身高齢者世帯の増加により、住民どうしのふれ合いや絆を育む「場」や「機会」が失われてきている。昔ならどこの町内でも行われていた盆踊りや地蔵盆、秋祭りや餅つき大会なども、広場そのものがなくなり、マンションやコインパーキングとなっていて、住民の交流の場は著しく減少している。

また近年、人権意識の高まりや個人情報保護法の制定などにより、他人の暮らしぶりに対して干渉しない、かかわらないといった、悪い意味での個人主義が定着している。社会的に援助を必要としている人々が多くいるにもかかわらず、見て見ぬふりをする人の存在には怒りさえ覚える。仲間うちや友人どうしなら、メールやインターネットで盛んに交流し合うのに、知らない隣りの人の様子がおかしくなっている、知らぬ顔の若者もいる。いつ犯罪に巻き込まれるか解らない、都市生活者は、自分の身を守る事に精一杯で、他人の事など考えられなくなってしまったとでも言うのだろうか？私はリーダー養成塾の今川の地域ふれあい支え合い活動・そのより所としての地域振興センターの存在は大きなものがあると感じた。ボランティア活動として市民が相互に助けあっている姿に感動した。こ



の様な地域社会の「砂漠化」をくい止め、緑あふれるオアシスのような住民交流広場としての「地域アゴラ」(広場)の開設を考えている。

#### 【「地域アゴラ」計画概要】

地域内商店街の空き店舗を活用した「地域アゴラ」(広場)

- ・開館時間・・・午前10時～午後7時くらい迄
- ・スタッフ・・・地域内に住むアクティブシニアの皆様、ボランティア、大学生・高校生・主婦層。(一部有償)
- ・運営費・・・商店街連合会から寄付を募る。行政からの助成金支援を要請する。手造りの衣料や雑貨グッズの販売による収益金。100円コーヒーの販売やコピー機の利用料収入。館内をギャラリーとして希望者(アーティスト、カメラマン等)に壁画レンタルして低額の利用料を得る等。
- ・利用形態・・・出入り自由であるが、全面禁煙とする。お茶やコーヒーを格安な価格で提供する。コピー機やインターネット接続したパソコンやデジタル放送を視聴できる液晶TVの設置。市民持ち寄りで作るミニ図書館。医師会や保健所と連携して、健康増進セミナーや介護予防・認知症対策講座。大阪府内の大学の講師による出張形式の「生涯学習講座」の開講。子育てママへの育児教室等。また各分野に集積する啓発DVDや映像の上映会。医療機関による出張医療相談階や疾病関連ビデオ上映会。弁護士等の法律相談会。バラ・ラン・盆栽等の展示会やガーデニングの開催等、地域福祉に貢献し得るあらゆるジャンルのイメントを行うものとする。

以上が現在計画中の「地域アゴラ」計画のアブストラクトである。実現に向けてのハードルは高いと思うが、行政機関や地域に存在する多くの社会資源と協働しながら、しかも上から目線ではない。住民や当事者の目線で、生活ニーズをとらえ、皆んなで、少しずつ前進できる、解決できる「アゴラ」(広場)を目指したいと思う。最後に、フィールドワーク先の施設で指導して頂いたスタッフの皆様並びに、社会福祉研修・情報センターのスタッフの皆様に貴重な研修の機会を提供して頂いたことを心より感謝申し上げたい。

#### 受講番号22 東美智代

働きながら子育てをするようになり約8年になります。

子供を持つまでは仕事として「地域福祉」にはかかわっていましたが(かかわっていたつもりでした)。自分が自分の地域へ参加することの必要性などはあまり考えていませんでした。

子育てをしてみて、自分が自分の地域と疎遠であることに気が付きました。地域で子供を育てるためには、年老いても地域で安心して暮らし続けるためには、より深く地域とつながる必要があることに気づかされました。

子供の頃は何も考えず、当たり前地域活動に参加していたのに、大人になるにつれ、

いつのまにか地域と疎遠になっていたなあとも思いました。就職し、結婚し、子供ができるまでの自分は、その場所にただ住んでいただけだったのだとも思いました。

このままでは安心して暮らせないと妙に焦りました。またこのことがきっかけとなり、今までのライフスタイルを見直しました。自分が安心して子育てできて、安心して仕事ができる、安心して年老いることができるようにと地域を考えるようになり、転居・転職いたしました

前期のフィールドワークでは、支援者（専門家）が共通の課題を解決しようとする支援者やその課題を抱える住民(地域)へ働きかけ、個別課題の克服のため、各人に寄り添った支援を円滑に行うためのネットワーク作りを学びました。あいりんのおっちゃんをふつうのおっちゃんに、その人の人生を丸ごと受け止める支援は、支援者が今まで乗り越えてこられたものの大きさとそのパワーに感動しました。仕事として地域福祉に取り組む姿勢を学びました。

後期のフィールドワークでは、住民の住民による住民のための、自分たちが暮らす地域をより良い所へするためのネットワーク作りを学ぶことができました。地域福祉を活発に行うためには「お互い様」という共助の意識の高い方々が気持ちよく活動できる雰囲気づくりが重要なのだと再認識いたしました。住民として地域に参加するための姿勢を学びました。

今回、たまたま選んだ二か所のフィールドワーク先が両極端で、職業人としての姿勢、私人としての姿勢の双方を学べたことは本当に幸運でした。

双方に共通するのは、それぞれ長い歴史の上に来り上ったネットワークで一朝一夕にできあがったものではないということ。関係者の日々の小さなほんとうに根気強く丁寧な種まきが芽吹き花を咲かせているのだと思いました。

また、この地域で成功したからと言って、そのままほかの地域に輸入できるものではありません。いずれ花を咲かせる日を夢見て、いろんな種をまきながら、自分の地域で育てるべき苗を見つけだし育てていければと思います。

この研修に参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

## 受講番号 23 木下亜紀

なぜ、今、地域福祉なのか。終戦から 1990 年代頃まで続いた社会福祉の時代が終わりを告げました。施設がたくさんできたものの、施設入所者には生まれ育った町から遠く離れた場所での生活を強いる結果となりました。そのような生活を送ってきた人たちを地域に移行し、地域の人間として住民と共に暮らしていける社会にしようという時代になりました。それを実現するために、まずは地域を変える必要があるのだということ。それに加え、今、地域で起こっている問題を解決していくためには、その問題を自分たちのこととしてとらえ考え解決していく必要があるということ。そして、豊かな生活を送るためには地域の中で人々が新たなつながりの形を持つことが大切なのだということ。それらを考え

れば、地域福祉の時代がやってきたのは当然の流れなのかもしれません。

前期フィールドワーク先の「わが町にしなり子育てネット」も、最初は目の前で起こっている問題を解決しようと何人かの人たちが集まったことがきっかけの活動なのかもしれません。しかし、地道な活動を続けていくうちにその活動に参加する人が集まりつながっていく、その積み重ねで大きな地域福祉ネットとなり活動が継続されてきたのだと思います。

一番知りたかったのは、「わが町にしなり子育てネット」のような大きな地域福祉ネットがどのように運営されているのだろうということでした。

会議への参加と小掠先生の話で、ネットには「みんなで支えあって地域を守っていきましょう」という思いと、ネットの活動に参加する人たちへの寛容さが根底にあるのだと知りました。普段の私たちなら、「こう決めたのだからこうあるべき」とか、「なぜ会に参加しないの」などと思いがちですが、「年1回でも活動に参加してくれたらいい」「何かあった時にネットに入っていてよかったと思ってもらえたらいい」など、ゆるやかな関係性の中でつながり続けていくことも大切なのだとあらためて考えさせられました。積極的に活動に参加することが望ましいけれど、様々な理由でなかなか参加できない人を強制や排除の対象にするのではなく、その人にはその人にあった活動の仕方に参加してもらえればよいと思えることの素晴らしさを感じました。

運営については、会議の持ち方を工夫したり勉強会や研修を行い活動の質の向上を図ったり、地域や社会にアンテナをはり何か起こればすぐに考えていくという姿勢を常に持ち続けているということ、また、官（区）と一緒に活動をしているということによりたくさんの活動ができ、会費も設定することなしにネットワークの運営ができているとのことでした。

活動内容では、地域住民が「やらされるのではなく自分たちがやるんだ」という気持ちになるように心がけており、地域住民の主体性を尊重しているということはとても大切なことだと思いました。

後期フィールドワーク先の「地域生活サポートネットほうぶ」は、当初「背景は色々あるけれど地域の中でつながるという気持ちはひとつ」という思いのもとに地域の色々な活動先を回ったのがきっかけということでした。個人の活動よりもみんなでつながればよりたくさんのことができるという思いで色々な人たちとつながり、そして、地域で活動している人たちと共に行う取り組みを目指してきたということでした。2004年にNPO法人地域生活サポートネットほうぶを立ち上げ、よりよい地域社会を目指した活動が続けられています。

一番驚いたことは、ネットワークや当事者会を立ち上げても自分以外のリーダーを作るようにしているということでした。人の力を信じて任せていく、そうやってより多くの人に関わり、地域に関わっていくということも大切なのだと感じました。

当事者本位とは、ニーズとは、当たり前な生活とは、人権とはどのようなものなのか考えていくことが大切など、障害者福祉に関してもたくさんのお話を聞かせていただく機会となりました。

2カ所のフィールドワークを終え、それぞれのネットワークから‘地域を大切にしたい’という思いがたくさん伝わってきました。自分の中にもあるその気持ちを大切に、誰もが地域住民として豊かに暮らせる社会を目指し地域福祉の活動に取り組んでいきたいと思えます。

#### 受講番号 24 中島峰子

この講座のネットワーク推進員は4名他31名は包括支援センターや特養、子供支援、ケアプランセンター、訪問介護のプロの方々やNPO等本当に仕事に役立つ本音が知りたいとの思いで集まられていると身の引き締まる思いがしました。

前期のフィールドワーク先は今川社会福祉協議会でした。

昭和54年に今川地区が福祉モデル地区に指定を受けたのをきっかけにボランティアスクールなど学習、婦人部長を中心として活動が始まりました。現在はボランティアそれぞれの暖かい思いが「自分達の町は自分達で見守っていこう」という姿勢に成長し、「みんな楽しく少しずつ」をモットーに多様化する高齢者問題に立ち向かっていっています。初めに厨房を見学しましたが設備と広さ備品の数の多さに驚愕しました。大きな台が幾つも置かれていてうらやましいかぎりです。

それから私達の所にはないボランティア部員が151名いらっしゃいます。一番初めは町会ごと数名ずつ友愛訪問配食で見守りや安否確認もでき日報が町会に報告されます。ボランティア部はいろいろの活動の団体も仲良く重複する事なく助け合っているといわれました。

それからふれあい基金を全町会で集めて運営のたしにしているそうです。本当に素晴らしいと思いました。私の所もこういうボランティア部が出来る様努力したいと思いました。

後期のフィールドワーク先は玉出地域包括支援センターでした。最初にうかがった特養白寿苑は、はじめは病院形式で建てられていて、6人、4人部屋でプライバシーが守れなかったが新しく出来た方は真ん中にみんなが集える場所があり、周りに個室があつて好きに出来るようになっていて気の進まない時や体調の悪い時は部屋に居ることができる。入所者はなるべく地域の方を優先している。入所者の家族はよく来てもらって食事を一緒にしたり楽しく過ごしているそうです。本当に家族的にしてらっしゃると驚きました。この施設では利用者さんが死ぬまで安心して暮らして頂ける様に遺体も手厚く安置して頂けるとのことでした。特養へは愛着のある品等は持って来てもいい施設の中に置き場が設けられているそうです。こんな特養があるなんて今まで聞いたことがありません。本当に素晴らしいです。この包括支援センターで地域の事業所さんは協力しあえる所を選ぶ65ヶ所ある中余り人が変わる所は対応がすぐ変わるのでよくない男性の独居の方で栄養を考えないといけない人は配食をしている¥620、所得低い方は¥420。まとまりませんでしたが地域とのつながりは口コミで広がると思いました。

## 受講番号 25 豊嶋富美子

玉出地域包括支援センターでのフィールドワークに参加したことによって地域包括センターの理解を深めることが出来ました。今までは名前は存じていても地域とどのように関わっているのかほとんど知りませんでしたから・・・地域ネットワーク推進員として高齢者の見守り、訪問、相談他、又子育て支援など活動範囲は定めることはできません。それ故にすべてに目配りしなければ・・・との思いばかりで何から始めてよいのか思いばかりつらっていましたが、まずはできることから始める！！その大切さを学びました。

高齢者との関わりではいろんな相談やグチを聞きその中から問題点があれば地域包括センターや役所等につないで地域の縁の下の存在として役割が果たせればと思います。

わが町にしなり子育てネットでは官民関係機関の方々の会議に出席させてもらい地域のつながりの深さを認識しました。にしなり子育てネットのフィールドワーク参加時には子育て支援活動が進んでいなかった当地域でも今月(2月)から試みの子育て応援の移動を始めることになり、研修で学んだことを実行できればと今から活動が始まるのを楽しみにしております。

リーダー養成塾は座学ではなく現場で直接お話しを聞くなど実地体験で多くの知らないことを学べてとても有意義な研修だったと思います。

今回の養成塾に参加したことによって地域の福祉推進リーダーになれるかどうか、それは分かりませんが、何かの形で今後の活動に生かされることは間違いないと思っています。

(いろいろとレポート提出は大変ですが、このような実地体験型の研修に今後も期待しております)

## 受講番号 26 高落敬子

社会医療法人に異動になり、今までの社会福祉法人・在宅介護支援センターでの関わりとはまったく違う状況となった。新たに地域にどのように関わっていけばよいのか、自分自身のこれからの取り組みを少しでも明らかにするために参加した。

### ☆学び

地域福祉推進リーダー養成塾で様々な視点が培えた。地域と関わる時、「実は皆つながっているし、つながりたいのだ」ということを思わされた。小掠先生の「人は本来つながりを求めるものだと思います」ということに共感し、「本当はつながりたい」というその深いニーズに応えられるように様々な場面で出会う私たち自身がどのようにいるのかを思わされた。「つながりを大切に意識的に関わる」ことを思わされ、強制や義務ではなく「ゆるやかなつながり」の重要性を感じさせられた。

また玉出包括の種継さんからは「法人としての地域への思いの大切さ」が現れていくこと、そして、「どんな声も大事にしていく」、「ひとりの声を大事にして継続的に関わっていくこと」を聞かせていただいた。地域福祉を推進しようという前に、「関わる私たちがどの

ようにいるのか」を考えさせられた。

☆ これからの自分が取り組むこと：まず今ある取り組みを見直す

病院として施設として在宅事業所として、どんなふうに地域と関わっているのかを見直す。例えば、病院は医療保険の領域なので介護保険についての理解ができていないことがある。窓口介護保険を使うにはどうしたらいいかと尋ねる方が来られても「区役所に行ってください」としか伝えられていない状況がある。でも、その声の背景には様々な思いがあつての声の場合もある。もし、窓口の職員がもう少しお伺いできて介護保険の知識があれば、区役所にまで足を運ばれなくても対処できることがあるかもしれない。そのような様々な場面でニーズに耳を傾けることができれば、そこからどのような支援をしていくかを考えることができる。例えば、介護保険の利用の仕方がわからないニーズに対して、介護保険のパンフレットを設置するのか、健康教室で学べる機会をつくるのかなど、そのニーズへの柔軟な対応ができるのではないかな。

あるいは、介護保険のことがわかりにくいニーズが一般的にあるのなら、他機関と共にそのことを考えることもできるかもしれない。

子育てのことも、疾患により障がいを持たれた方も、もしかすると、窓口で一言語られるかもしれない。その声を大事に拾い、どこにつながればその声に応じることになるのか、その声が活きることになるのかを考えていくことが大切なのではないかなと思う。その声を大切にするためには、その折々の接点で出会わせていただく私たち一人ひとりが意識的にいること、資源や地域の状況など学ぶ姿勢を持つこと等が問われていると感じた。このような一つ一つの出来事が法人の思いを具体化しているのか、このような姿勢を支援する法人の理念やあり方なのかなど、いつも「誰のために・何のために」を問い直していくことが必要だと思う。

他にも、施設や在宅支援においても、1回相談に来て終わってしまっている声もその後その方がどうなったかまで見て、きちんとその相談に対処されているのかを確認していくことや、一度関わった患者さんが安心して療養できる連携が法人内にできているのか・地域と共に支援していく連携が構築できているのかも見直していくこと等から始めていければと考えている。

地域の中で、また様々な支援者とつながるときに、届けられる声は大切にしつつ、何かの支援やネットワークに携わってくださった方々の声も活かしつつ、しかし、そこには義務や強制ではなく、ゆるやかにつながっていくあり方を、私たち自身がその姿勢を少しでも持てるようにと思う。

私自身も地域は違えども一住民であり、住民という当事者視点を持って地域に関わっていきたい。そこでは「よく見て、よく聴いて、よく感じて」、その方の思いを「自分だったら」と共感的に受け止めながら、同時に、様々な方々とつながりながら、「それはあの場所・あのグループにつながってあげばいいのでは」というように、地域の中でつながりがよりつながっていき、つながりが感じられていくように居ることができればと思う。

最後に、多くの学びをいただいたフィールドワーク先の皆様、事務局の方々、本当にありがとうございました。また、今後ともご指導よろしく願いいたします。

前期のフィールドワーク先は玉出地域包括支援センターだった。

地域包括支援センターでの学びであるが、地域包括支援センターの相談員が地域の人の中に溶け込んでいるのがとても印象的であった。ここに至るまでは、かなりの年月が必要であると思う。ただその年月だけあっても特養などに併設されている相談窓口は、地域の人気が軽には入りにくいとよく聞く。窓口に来てもらえるような、雰囲気作りは大切ではあるが、その前に、まず私自身が外に出ていき、地域住民と顔の見える関係を作ることが大切であると感じた。地域で問題となっていることを話をすることで見えてくるのではないか。もちろん専門職として、地域特性や統計などで客観的把握は必要である。それと同時に、その地域の中で玉出地域包括支援センターでは、地域にでていくことについて施設をあげて取り組んでいるように見受けられた。

最近、地域福祉がよく取り上げられ、地域住民にどのように主体的に動いてもらうかという点が、課題になっていると言われたりする。町会の加入率も低下してきている今、住民にも個別性があり、その個別の住民が少しでも自分の地域に愛着をもって主体的に動こうという気になれるようなシステムを作ることが、私たち専門職の役割ではないかと思った。

後期のフィールドワーク先は今川社会福祉協議会ボランティア部だった。

ボランティア部の皆さんの熱い思いに圧倒された。生き生きと自信をもって自分達の活動を説明してくださっていた。町会の中にはたくさんの委員や会があるので、その調整がとても難しいと聞く。しかしその中で、いろいろな委員や会とうまく調整をしながら活動しておられ、驚いた。そして、活動内容は多岐にわたり、町会などで手の届きにくいところ着実に取り組んでおられるのがわかった。なかなか、それができそうでできないことである。チェックシートなども作成しており、何かできたらと思った。

この2か所のフィールドワークは、地域において専門職側・地域住民側というふたつの視点から見ることができた。地域活動福祉を推進していく時に大変必要な視点であり、自分がいてるところとは違う地域で見させていただくことができたのは、私にとって大変意義のあるものであった。

今、地域の相談窓口の担当者として、まずは地域の人と顔の見える関係を作るために、地域に出ていくようにしている。何となくなじみの顔にはなっているようである。今後、どのように活動していくのか…。これから、計画を立てて次の段階へ歩んでいきたいと思う。すぐには何かするとかできるとは思っていないが、少しずつでも地道に進んでいきたい。

様々な職種や地域住民の方が、この研修に惹かれ参加され、いろいろとお話できたのもよかった。ありがとうございました。

(1) 玉出地域包括支援センター

地域包括支援センターがどのような相談を受けているのか、あまりイメージが持てていなかったが、実に多様な相談を受けているとのことだった（虐待、生活能力の低い人のトラブル、独居の人、アルコール問題等。時には本来は関係のない母子問題の相談が舞い込むことも）。

相談業務のみでなく、地域とのつながりを大事にしており、見守りチェックシート、健康サークル、子育てサークル、地域交流学習会等の様々な取り組みを行っているとのことである。

直面する困難な課題にはどのようなものがあるがたずねてみた。「一人の人“点”が周囲につながるきっかけ作りがとても難しい、周りは“点”にすら気づかない」、接点作りを日々模索しているとのことであった。それは本当に現場の声であり、私自身も答えがあったら教えて欲しいものであるが、答えは決して簡単ではなく、福祉に携わる限り、これは永遠のテーマではないかと思われた。それは福祉の本質的なところ、核心である。

地域ネットワーク推進委員奥田氏はかれこれ8年推進委員をしているとのこと。始めた当初は“暇だった”とのことだが、今では相談やら何やら、何でもくるようになり忙しい様子。月曜～金曜の9時～16時に事務所に詰めるのが本来の仕事だが、奥田氏はそれのみならず、食事サービスや子育て支援の交流の場作り（毎月2回）などいろいろな行事に幅広く取り組んでいるようで、輪をかけて忙しい。

高齢者の見守りは、ネットワーク委員が53名おり、見守り連絡表に基づいて見守り訪問などを行っているとのこと。「玉出の委員はよく動いている」そうである。奥田氏は種継氏の“おすすめの人”だけあって、「人と人をつなぐのがうまい」。短い時間の話であったが、その短時間であっても、奥田氏の人柄が伝わってきた。その人柄あってこそその適役ではないかと感じた。

地域包括支援センターとはどんなところか、何をやっているのか、その概観をつかむことが出来た。会食サービスに参加させてもらい、少し具体的なイメージを持つことができた。そして、いろいろ困難な問題も多くあるが、悩みながらやっているところはどこも同じ、つながっていくことの重要性和困難さを垣間見た。有意義な研修であった。

(2) わが町にしなり子育てネット

1994年に、国連の「子どもの権利条約」を日本は批准し、1995年に大阪市児童虐待防止連絡会議が立ち上がった。わが町にしなり子育てネットは2000年に設立、出入り自由で会費なしの民間の団体だが、公的機関も構成メンバーとして入っている。

多様な取り組みをしている。例えば、区民ホールでの子育ての集い（相談コーナー、子どもの遊びのコーナー、フリーマーケットなど）や、講座の開催（手作りおもちゃ、お菓子作りなど）をやっている。

1987年からネットワーク作りには取り組んでいた。呼びかけては消え、呼びかけては消え、を繰り返してなかなか持続できなかったという。行事の開催を機に集い、現在は構成



団体は70団体になった。月1回の定例会には30団体くらい毎回集まる。

わが町にしなり子育てネット 12月定例子育て支援関係機関会議に参加させていただいた。参加はわが町にしなり子育てネットに関わる16団体。「広報部会」「講習講座部会」などいくつかの部会から報告、予定などの話の後、「子育ての集いについて」や「あそぼパーク委員会について」など、いくつかの報告があった。また、具体的なケースについて、そのケースの何が問題か、またどのようにして介入できるかといったことについて、小グループに分かれてのグループ討議を20分程度行った。

「虐待防止は子育て支援から」 現代社会では、子育てに関わって親族間や近隣のネットワーク（ささえ合い）が機能しなくなっており、そのこともありわが町にしなり子育てネットを作った。例えば、生活保護を受けている家庭の親が計画的に金銭のやりくりができず、「お金を貸して欲しい」とやって来る。その親は、お金の計画的な使い方を教えられずにきており、親自身の生育歴に問題がある。信頼関係を作り親の成育歴を聞き出すには時間がかかる。個人の問題ではなく地域の問題、社会の問題としてとらえ、地域で支えあうことが重要である。

「子どもの権利、利益を守る」というみんなの気持ちが一つになれば強い、と小掠氏は話す。

ネットワーク作りを諦めなかったモチベーションとして、「抱えている問題が大きすぎるから、ネットワークが必要」。核になる人にはなかなか出会いにくい、自分たちはシステムを作る仕掛け人と思っていると言う。

西成区は生活保護世帯が多く、貧困問題を抱えていたり、住宅環境が狭かったり、十分な教育が受けられない、またこれらの問題が親の育て方にも影響したりしている。しかし、虐待のケースが西成区で新聞に載ったことがないという。それは支援のネットワークがしっかりしているからだ、と小掠氏は言い切る。必ずしも施設に入れることが最善ではない。地域で暮らすのが一番いいのだと。

小掠氏は、子どもを、親を、「地域でささえる」ということを率先し、実践している現場の人であった。とてもよい話を聴かせていただいた。「地域でささえる」べきは、子どもに限らない。高齢者も、障害者も、あらゆる人を地域でささえるべきなのであり、それは私自身の現場の問題にも繋がると感じた。

### (3) 学んだこと

地域福祉の推進とは、どんな現場であっても、人と繋がること、接着剤になることだと知った。自分の現場で、今後活かしていきたい。

受講番号 30 玉本寿一

今回の養成塾のフィールドワークでは、30年間活発な活動を続けてきた今川社会福祉協議会（以下、今川社協）と最近地域ネットワークを構築して「福祉教育」活動を行っている西淀川社会福祉協議会（以下、西淀社協）を選んだ。

両社協とも日頃の地域活動を通じて、地域住民と企業・諸機関と連携をして「ともに学び、気づき、課題解決を目指す」地域ネットワークを、実践として行ってきた。

1. 今川社協は30年間も活動を継続組織であり、何故このように長期間活動を継続できたのであろうか。その歴史を紐とぎながら考えてみたいと思う。

町会の婦人部を母体として、婦人部長が中心となり、ボランティアスクールを開いたり学習会等を開催したりして、ボランティア部員を養成していった。養成部員をボランティアの実行部隊とした。第一回目の募集にはその中から50数名が参加をした。この参加者で各町会ごとに友愛訪問、配食サービス、車椅子の貸し出し、図書の貸し出し、友愛訪問受け持ちのお年寄りに年賀状を出す等のきめの細かい福祉活動を行った。それと同時に、ボランティアに対しては、研修と連絡調整を行い、また、受給者に対しては、希望や、相談を受けるボランティアコーナーを開設した。

行政との関係では、東住吉区にたすけあい社会福祉委員制度ができれば、ボランティア部全員が兼任となり、またネットワーク委員会ができればボランティアの拠点にネットワーク推進委員は常駐し、ボランティアとの連携を計った。東住吉区社会福祉協議会の生活支援型サービスの実施には、今川地区の配色にかかわり、月から金曜毎日がた配食を行った。

以上のように今川社協は、ボランティアを集めるために自らボランティアを養成し育成をしてきた。そのいっぽうで、行政機関と連携をすることにより、資金、情報等をえてボランティアの人員の拡大や質の向上を行ってきた。

活動資金は、町会の協力と了解のうえで、募金活動を行い、募金のすべてをボランティア部の活動資金とすることができた。その他事業としては、今川社会福祉会館で貸倉庫をして資金を集めている。

活動場所は、今川福祉会館、今川地域振興センターを常時、自由に使用している。以上述べてきたように、今川地域では、30年間の活動の積み上げで、地域住民、行政、地域の企業とネットワークが組み立てられている。

2. 西淀社協では、社協の現状を打破するために、社協本来の活動である社会福祉を具体的にを行うことにより、地域セーフティネットを構築する事を考えた。

本来の社会福祉は、幅広くすべての人々のために存在する。「自助+公助+共助」の総体が地域福祉なので幅広い福祉観を啓発して行うことが大切になる。その啓発の一つに福祉教育がある。

「障害」を人間と環境の中でとらえ、個人を取り巻く生活環境にその個人生活を援助するサービスが十分に整備されているならば。機能的な障害が残っていても個人活動や社会参加が可能となる。また社会福祉はすべての人々が毎日の生活の中で幸福を感じられる社会であり、障害のある方や高齢者の方々だけでなく、すべての人々が、かけがいのない命を持った大切な人間として尊重される社会を目指す、ノーマライゼーション理念が、社会福祉の最も大切な基本理念である。この様な理念を現実の社会で実現するための手段が「人間教育」としての福祉教育なのである。

今の社会は、家庭の養育機能が低下し、地域コミュニティ機能が低下している。だから

こそ、学校と家庭と地域が連携し子供の教育にかかわってゆくことが、必要不可欠となっ  
てきている。子供たちにとっても障害を持った人や高齢者の実態を知ることは、自分とま  
ったく変わらない人間であり、一緒に生きていくことを感じられることが大切になってく  
る。この様な理念を実現するために、西淀社協は地域の人々・企業や行政専門家・長中学  
校の先生がた・福祉施設やそこで働く人々・行政等に参加を求め、「福祉マニュアル作成検  
討委員会」を立ち上げ、各学校での副教育の実習を実施した。

#### 結語

両社協とも地域住民を中心に据え、地域の企業・行政機関・その他諸機関と連携して地  
域ネットワークを形成して、地域福祉を実行してきた。

#### 受講番号 32 菊山俊治

西成区内で2か所の施設見学を行いました。同じ地区ではあるが全く違う雰囲気だった。  
社会福祉法人 石井記念愛染園 西成市民館はあいりん地区の狭い中に密集した世界  
を築いている特殊な世界感を持っている住民を地域ぐるみでサポートしている。

大阪生まれ、大阪育ちの私がいりん地区について聞かされていることは「危険な地域  
で近寄るな。盗品は西成で探せ。車で西成へ行くな、当たり屋に気を付けろ。」と、よく聞  
かされた。

西成市民館のスタッフ、館長川崎さんに釜ヶ崎地区の中心街、銀座通り、西成労働福祉  
センター、あいりん職業安定所、医療センター、特別清掃事業所、図書館、三徳寮、三角  
公園、シェルター、ふるさとの家、こどもの家、等の見学、案内を体験し、西成市民館で  
釜ヶ崎の歴史、文化、西成市民館のあゆみ、地域内の連携とバックアップ方法の説明を受  
けた。戦後の復興と日本の高度経済の発展と共に豊かな生活を夢見て日本全国から仕事  
を求め集まって来た。その中に犯罪者、破産宣告者、家族を捨てた・捨てられた者を含む色々  
な人生を歩んで来られた方々が生活しておられ、出身地を明かさず、名前の偽名を幾つも  
名乗り、過去を語らず、人付き合いを避けている。束縛、拘束を嫌い、日雇い労働者で宵  
越しの金は持たない自由人、飲む・打つ・買うを実践できる地域。嘘も当たり前。自分の  
身を守るための手段である。その様な事を含んで付き合いと自然に心を開いて貰える。

NPO 法人サポーターハウス陽たまりの歴史をお聞きし、驚きと感動。宿泊場所を「や  
ど」と呼びますが、あいりん地区の「やど」はひっくり返して「どや」と、呼ぶ。高度成  
長と共に繁栄をしていたが景気後退すると仕事も減るなどの密接な関係で緒に影響される。  
バブル崩壊後、若い者は仕事を求めて釜ヶ崎から去って行き、年老いた者、病弱な者は住  
み慣れた土地から離れることが出来ずお金も無く、止む負えず生活保護者となり住み着い  
ている。生活保護者の増加に伴い生活援助等を目的に NPO 法人サポーターハウス陽たま  
りを設立させて「どや」から「陽たまり」に変化させ、住宅扶助申請適用される様に行政  
に運動を起こした苦労話を聞いた。生活保護者の支援内容は、申請手続きのお手伝い（字  
が書けない人が多い）、服用の管理、金銭の管理（お金を持つと酒や博打で直ぐに無くなる）、

安否の確認、介護保険制度の利用、就労の援護、配食弁当の手配、病気・福祉相談をケースワーカーと共に行う。

社会福祉法人白寿会玉出地域包括支援センターを見学して規模、内容にビックリした。特別養護老人ホーム 144 人収容、ケアハウス 40 人収容、デイサービス 40 人収容、小規模認知症デイサービス 10 人収容、共同生活施設 40 人収容、地域包括支援センターを併設した大規模複合老人施設である。

1 階和室を安置所としても使用できるように工夫され、施設が納棺、お通夜、葬儀を安心して行えるように配慮されており、遠い家族のために仮眠できるよう控室まで用意されている。特別養護老人ホームへ家族が気楽にお見舞いに来れるよう、出来るだけ家族にもふれあえるような企画を立案し、家族参加の一つに料理を持ち込んで一緒に食べられるテーブルを用意されている。

月 2 回第 2・第 4 火曜日玉出憩いの家で昼食会が行われる行事に参加させてもらった。近くの幼稚園児が弁当を持参しお爺ちゃん・お婆さんと一緒に食事をする。食事前に園児が 1 曲披露した後、婦人会のボランティアが心を込め作った豪勢な手料理をわいわいと和やかに会話しながら食し、全員で会場を片付けた後、改めてふれあい喫茶が開店される。地域交流の大事な企画に玉出地域包括支援センターの毎回参加されて必要な情報を提供されていた。地域との信頼関係が築かれている様子が伝わって来た。

平成 22 年 9 月 22 日社会福祉法人石井記念愛染園 西成市民館の取り組みは、地域の支援グループと連携して住民の方々と身近に接し生活全体に対してきめ細かい相談・支援体制を教わり、参考にしたいと思った。

NPO 法人サポータィブハウス陽たまりでは賃貸借契約を交わして利害関係が発生しているが、住民に対して行うサービスとボランティアで行う支援サービスを区別し、プライバシーにも配慮する気づかいを学んだ。

平成 22 年 1 月 25 日社会福祉法人白寿会玉出地域包括支援センターは地域に必要と思われる施設を時代に乗って変化させ、空間を活用して増設されている。施設の利用者とその家族、職員から寄せられる声に耳を傾け、前向きに取り組み、実践し、改善する努力を惜しまない素晴らしい複合施設。

玉出憩いの家でボランティアされている方も昼食会に参加されている方も同じ地域のおじいちゃん、おばあちゃん。そして幼稚園児が交流している場面は、昔の長屋で立ち話をしている光景を思い浮かべました。平和な和やかな雰囲気。

政府は福祉政策で施設を作るだけ、事業主は施設運営を優先、施設職員は職業として割り切って働く。利用者側に立った福祉サービスを提供する環境が整備しない限り、問題を引き起こす。このような現在、人との絆を築き、信頼が生まれれば問題解決する。

お金や器を活用する意見、アイデアを聞き入れる余裕。

地域内でボランティア、人材等の発掘。地域内にある行政、病院、福祉施設、福祉団体、支援グループ、ボランティア住民との連携の輪を作る。

地域に受け入れられ易い活動から挑戦する。権利を主張すると共に義務も負う社会であることを認識し、人同士の係わりから助け合い精神を尊重し、きっかけ作り、声かけを積

極的に取り込む努力を惜しまない。

勇気を出して行動に移す。等この度の講演、実習から学びました。これからの活動に生かして行きたい。

#### 受講番号 33 水野幹子

介護の職に就いて、まだ日が浅いので、とにかく何でも学びたいと思って申し込みをしました。参加してみると、皆さん地域で何かの役割を持っておられたり、目的意識を持っておられたりで私のようにただ漠然とした考えを持っておられる方がいないのに感心させられました。

何も分からずに参加しましたが、皆さんのお話を聞いているだけでも勉強になることがありました。言葉の意味が分からなくて首を傾げることもありましたが質問すると教えて頂き助かりました。

フィールドワーク先の‘今川社会福祉協議会’に行きました。自分たちが住んでいる町を自分たちの手で住みやすくされている方達がおられることを知りました。

ボランティアの方がたくさんおられることも知り、赤ちゃんから高齢者の方の状況を把握され、困った時には手助けをされる。なかなか出来ないことを地域ぐるみでされているのに驚きました。自分が知らないだけだったのだと分かりました。地域をそんな目で見てみると近くでもされていることを発見しました。地域住民との関わり方の勉強が出来ました。自分も何らかの関わりが出来たら良いと思っています。

玉出地域包括センターでは、包括センターの役割について学びたかったのと高齢者の方たちにどのような支援をされているのか、ひきこもりがちな高齢者のニーズをどのように引き出されているのか、興味を持ちました。

お話を聞いて、いろんなことに努力されていることが分かりました。担当地域のことを把握しないといけないし、どんな方がどのようなニーズを持っておられるのか、そのニーズを引き出すにはどのような方法を取っていかないといけないかなど、恒に考え、行動していかないのだなーと思いました。高齢者の方を引き出すのは難しいけれど出て来られた時の喜びなどもお話しをして頂き、やりがいのある仕事なんだと思いました。

今、福祉のことを学んでいるのですが言葉の意味などで分からないことが出て来ますが皆さんの言葉から教えて頂いて勉強になっています。‘地域福祉’についてもまだまだ分からない事ばかりですがこの塾に参加して、少しだけ地域のことが見えて来たように思います。

#### 受講番号 34 西田隆義

‘地域福祉推進リーダー養成塾’を受講したいと思ったのは、私自身が地域とほとんど関わりをもっておらず、地域との‘とっかかり’がほしかったからです。昨年6月よりネッ

トワーク推進委員を引き受けました。活動範囲としては、JR 新大阪駅より東へ阪急電車淡路駅までの広い地域です。推進員新任研修を受けるにつけ‘何をするべきか、何が出来るのか?’と思い悩んでいる時期でした。第1回フィールドワーク先の今川地域振興センターでは会館の設備の立派なこと、それにもまして地域住民の団結力の強さに感銘を受けました。今川地域も現在の姿になるまで、31年もの長い月日がかかっていると聞き、息の長い活動に頭が下がる思いでした。地域の方を見守る体制作りがすばらしく、‘みんなで楽しく少しずつ分け合って’の言葉が深く印象に残っています。たとえ30分でもボランティアに参加して頂く、体制作りがすばらしいと感じました。ボランティアの方は154名もおられ、福祉委員、ボランティアの方々がしっかり地域を見守っておられます。財政面においてボランティアは、募金で成り立っていると聞きしましたが、地域の方のニーズに一つずつ、しっかりと応えておられるからこそ、募金も集まるのだと思いました。私の地域との違いに考えさせられるとともに、地域のどこに力点をおくかによって、これほどまでに差ができるのだと思い考えさせられました。

第2回フィールド先の西淀川社会福祉協議会では、大阪市立淀商業高等学校福祉科1年生の皆さんと災害時の‘炊き出しや豚汁作り’を行い、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。各自の家庭をどのように手伝っているのかが、垣間見えて興味深かったです。授業の中で災害への心構えや備え方等についてのお話があり、生徒の方が地域で大きな役割を担ってほしいと熱く語られていました。どこにいても災害に遭う危険性があるので、小・中・高・大学でも災害に備える授業や訓練をしてほしいと思います。彼らのような若い人たちが災害時は中心的役割を担うと思います。このような取り組みが日本全国に広がってほしいものです。場所を移し社会福祉協議会ではリーフレット発行にいたるまでの地域を巻き込んだ取り組みを語っていただきました。何をするにも‘人と人の絆’を大切にし、お互いの‘信頼関係’を積み上げながら、少しずつ関係を築いていけないと思いました。

受講番号 35 坂口邦明

「地域」と言う言葉が、巷で広がって久しい。

私の仕事（ホームレス自立支援施設職員）に於いても入居者の方が、仕事に就き、住居への入居資金（自立資金）が貯まれば、地域のマンションに移り住んでもらう。

入居中には、宿所・食事を提供し、「自立」への支援を行っているが、退所後はその地域の住民として生活を始めることになる。二度と仕事や住居を失わないためにもアフターとして支援が必要となってくる。しかし、少ない職員配置で、日常的な支援は到底十分にはできない。やはり、その地域での見守りが必要となってくる。

今回、前期のフィールドワークでのあいりん地区（釜ヶ崎）に於ける西成市民館の役割、高齢者（特に単身男性）への寄り添った支援を行うサポーターズハウスの活動は、地域で支え合う姿として、大変勉強になった。その使命の下、様々な難題を克服しての今がある

ような印象を受けた。また、後期のフィールドワークでは、西淀川区における高校生を対象にした福祉教育は、災害時での「若い力」に期待を込めた炊き出しのシュミレーションがあった。また、地域での「ふくし」を広げるために「ふくしのはなし」を作成し、大阪市において先駆的な役割を果たしている。

この間、「家族」という絆が希薄になり、生死が不明な高齢者が日本全国に多数出てきていると報じられた。また、豊中市においては高齢の姉妹2人の衰弱死があった。

今ほど、「地域」の絆が必要とされている時はない。

地域において、1人の孤独死も出さないネットワーク作りが急がれている。

今回の養成塾は、今後、仕事においても私が住む地域においてもそのネットワーク作り  
に際して、大変得るものが多かった。

ありがとうございました。





## 5. 今後の方向性について

平成 22 年度の「地域福祉推進リーダー養成塾」の目的は「大阪市の地域福祉を推進するための人材養成は、行政や社会福祉法人を始めとする福祉関係者、そして地域住民が協働し長期的な視点で取り組む必要がある。社会福祉従事者や市民・地域住民が主体的に地域福祉活動に参画していけるように、地域福祉活動の意味を理解し、様々な地域福祉活動の実際やネットワーク作りの手法をフィールドワークを通じて学ぶことをねらいとして実施する」であった。

申込み数は定員 30 人に対して 35 人あり、そのうち、福祉専門職 21 人、ネットワーク推進員等市民 14 人であった。その受講動機は 1 位が「自分がしている仕事ではないが、関連がありどのようなものか知りたかった」、2 位が「ネットワークのつくり方を学びたい」、であった。前者は主に福祉専門職の動機、後者は市民の受講動機であると考えられる。両者とも地域福祉に関心を持ち、具体的に地域福祉活動がどのようにすればよいのかを知りたいというニーズであった。これは、地域福祉の重要性を感じつつも具体的な活動へと踏み込む際に躊躇があることを示している。この背景には次のような現状があると考えられる。

地域には様々な人たちが生活しており、地域でのつながりを必要と感じている人と感じていない人（自分で解決できる能力のある人等）がいる。子どもや、子育て中の親、障害者、高齢者、その介護をしている人等の中には助けを必要としている人が存在している。また、地域でネットワークの作り方がわからない、地域活動への参加の仕方がわからない（地域デビューがうまくできない）という人たちがいる。その人たちが動くきっかけとなる場、あるいはネットワークを学べる場が必要である。地域で活動する人（地域福祉の担い手）の養成は、ボランティア情報センター、ボランティア協会、NPO センター等がそれぞれの立場で行っている。しかし、自分の暮らす地域でのネットワークをどうやって作っていいのかを具体的に学ぶことは容易ではない。そこで、当センターが実施してきた実践の場に学ぶプログラムが有効であると考え、フィールドワークに重きを置き、実際にネットワークを作っている場でネットワークを体感することで自らの実践や生活実態と照らし合わせて考え、次の行動に進むことができる。

今後の実施にあたっては、基本的には平成 22 年度を踏襲して、講義とフィールドワークのプログラム構成とし、その内容について検証・検討を重ね、フィールドワーク先は、従来どおり区社会福祉協議会、行政・地域の団体の活動、NPO 法人等としたい。また、課題となる地域福祉推進リーダー養成塾の修了者の活動のフォローについては、修了者自身の主体性と自主性を尊重し、情報交換の場を提供することを心がけたい。多様な活動スタイルを認める緩やかなつながりと相互作用を促進し、地域福祉の担い手を支援していきたい。



平成 22 年度  
地域福祉推進リーダー養成塾  
プログラム

■8月19日（木）午前の部

|                     |  |
|---------------------|--|
| ①10時00分～10時10分（10分） |  |
| 開 講 式               | 地域福祉推進リーダー養成塾の開講にあたって<br>大阪市社会福祉研修・情報センター 副所長 白江 清 |

|                     |   |
|---------------------|---|
| 10時10分～12時00分（110分） |   |
| 内 容                 | ○オリエンテーション<br>「養成塾」の目的及び進め方<br>○参加者交流   |
| 進 行 役               | 大阪市社会福祉研修・情報センター<br>企画研修課 村岡  |
| 詳 細                 | ①プログラム及び提出物の説明<br>●事前アンケート（様式1）<br>・受講開始時の各自の目的を確認すること。<br>・終了時の振り返りの指標とすること。<br>・フィールドワークの事前希望調査<br><br>●フィールドワーク記録（様式2）<br>フィールドワーク終了後、当日、あるいは1週間以内に事務局に提出してください。フィールドワーク先の方にコメントをいただき、各自に返送します。<br>この記録は、中間報告会にご持参ください。<br>※パソコンでの作成可。<br><br>●最終報告書（様式3）<br>フィールドワーク終了後、平成23年1月31日（月）までに事務局に提出してください。<br>※パソコンでの作成可。<br><br>●事後アンケート（様式4）<br><br>◎参加者交流<br>自己紹介など |

■8月19日（木）午後の部

|                     |   |
|---------------------|---|
| ①13時00分～14時15分（75分） |   |
| テーマ                 | 事例を通して支援ネットワーク構築の手法について学ぶ   |
| 講師                  | 社会福祉法人 石井記念愛染園 わかくさ保育園<br>園長 小椋 昭   |
| 内容                  | なぜ今、地域福祉が大切なのか？<br>現代の地域のありようを踏まえ、住民のネットワークの必要性やその活用のおさえたうえで、ネットワークをどのように構築するのかを学ぶ。 |
| キーワード               | 住民参加、官民協働、“ほっとけない気持ち”を大切にする<br>“きっかけ”づくり  |
| ②14時30分～15時30分（60分） |   |
| テーマ                 | 問題解決の仕組みづくりとネットワーク  |
| 講師                  | 社会福祉法人白寿会 玉出地域包括支援センター<br>管理者 種継敦   |
| 内容                  | 地域の高齢者のニーズのキャッチ、掘り起こしを地域住民とともにどのように展開しているのか。<br>地域での<br>問題解決の仕組みづくりを具体的に学ぶ。         |
| キーワード               | 専門職ネットワーク、高齢者支援、何気ない声かけ   |

■8月26日（木）

|                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 10時00分～12時00分（120分） |                              |
| 内容                  | フィールドワークについて                 |
| 進行役                 | 大阪市社会福祉研修・情報センター<br>企画研修課 村岡 |
|                     | フィールドワーク先の説明と日程調整を行ないます。     |

## 中間報告会

■11月13日(土)

|     |  |
|-----|--|
| 日 時 | 10時00分～12時00分 於：大阪市社会福祉研修・情報センター 5階  |
| 内 容 | 参加したフィールドワーク先ごとのグループワークと全体会<br>フィールドワークで学んだことについてグループで話し合い、その話し合いの結果を全体会で発表。 |

## 最終報告会

■2011年2月3日(木)

|      |  |
|------|--|
| 日 時  | 13時30分～16時30分 於：大阪市社会福祉研修・情報センター 5階  |
| 参加講師 | 社会福祉法人 石井記念愛染園 わかくさ保育園 小掠昭園長   |
| 内 容  | ① グループワーク 13時35分～14時50分<br>参加したフィールドワーク先ごとのグループワーク<br>各自が提出した報告書を資料として用意し、フィールドワークで学んだことについてグループで話し合う。<br><br>②全体会(振り返りの時間) 15時～16時20分<br>グループでの話し合いの結果を全体会で発表する。<br>フィールドワークなどで協力を得た各種団体や講師と参加者との意見交換を行う。 |
| 発表方法 | 一人(あるいは1グループ)15分程度の発表とする   |
| 閉校式  | まとめ・今後に向けて<br>16時20分～16時30分  |

# フィールドワーク先の紹介

|                   |  |   |  |
|-------------------|--|---|--|
| フィールドワーク先         | わが町にしなり子育てネット  |   |  |
| フィールドワーク先<br>詳細情報 | (事務局) 社会福祉法人 石井記念愛染園 わかくさ保育園<br>〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 2-9-2<br>TEL : 06-6633-2965<br>HP : <a href="http://2.pro.tok2.com/~haginet/index.html">http://2.pro.tok2.com/~haginet/index.html</a>   |   |  |
| 概要                | <p>地域社会で子どもを守り育てていこう。2000年「わが町にしなり子育てネット」が発足し、現在は子育て中の親、自主的な子育てサークル、子育てを終えたボランティア、保育園、幼稚園、子育て支援関係団体等約70団体が所属し、活動しています。</p> <p>支援を必要とする人たちに必要なことをしたい。それには、専門職だけのネットワークには限界があります。子どもや親が中心となったネットワークがあってこそセーフティネットが機能するのではないのでしょうか。官民協働のネットワーク作りの実際を学びます。</p> |   |  |
| 対象者               | 子育て支援に興味のある方<br>官民協働のネットワークづくりに興味のある方  |   |  |
| 日<br>内<br>時<br>容  |  |   |  |
|                   | 日 程  | 時 間   | 内 容  |
|                   | 9月9日<br>(木)  | 13:30~<br>15:00   | にしなり市民交流センターに集合<br>子育て支援関係機関会議に参加。(傍聴)<br>9月の議題: 1.各部会からの報告・予定<br>2.あそぼパーク委員会について<br>3.西成大好きふれあい運動会について<br>4.フリーマーケットについて<br>5.その他 |
| 12月9日<br>(木)      | 15:00~<br>16:30  | 12月の議題: 1.各部会からの報告・予定<br>2.第2回子育ての集いについて<br>3.あそぼパーク委員会について<br>4.児童虐待防止・子育て支援に関する話し合い<br>5.情報交換その他<br>会議終了後、講義&質疑応答 |  |
| キーワード             | 子育て支援、官民協働 (専門職と住民の車の両輪ネットワーク)   |   |  |



|                   |  |   |             |                                       |
|-------------------|--|---|-------------|---------------------------------------|
| フィールドワーク先         | 社会福祉法人 白寿会 玉出地域包括支援センター  |   |             |                                       |
| フィールドワーク先<br>詳細情報 | 〒557-0063<br>大阪市西成区南津守7丁目12-32<br>TEL : 06-6651-6888<br>HP : <a href="http://www.hakujuen.or.jp/zaitaku.html">http://www.hakujuen.or.jp/zaitaku.html</a> |   |             |                                       |
| 概要                | ひきこもりがちな高齢者のニーズをどのようにとらえていくのか。また問題解決に向けてどのような仕組みづくりをするのか等について学びます。   |   |             |                                       |
| 対象者               | 高齢者支援に関心のある方   |   |             |                                       |
| 日<br>内<br>時<br>容  | 日  | 程 | 時間          | 内容                                    |
|                   | 9月14日<br>(火)   |   | 9:00<br>～   | 玉出地域包括支援センターに集合                       |
|                   | 10月12日<br>(火)  |   | 11:00       | 講義&質疑応答:玉出地域包括支援センターの活動について<br>白寿苑内見学 |
|                   | 11月9日<br>(火)   |   | 11:00<br>頃～ | 食事会参加                                 |
|                   | 12月14日<br>(火)  |   | 13:00       | 玉出憩いの家 食事代300円必要                      |
|                   | 1月25日<br>(火)   |   |             | ネットワーク推進員との交流                         |
| キーワード             | 高齢者ニーズキャッチ、専門職の支援ネットワーク  |   |             |                                       |

| フィールドワーク先              | 社会福祉法人 石井記念愛染園 西成市民館<br>NPO 法人サポータイブハウス連絡協議会   |  |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
|------------------------|--|--|--|----|----|----|--------------|---------------|--|--------------|----------------|----------------------------|---------------|--|--------------|---------------|-----------------|--------------------------------|
| フィールドワーク先<br>詳細情報      | ○社会福祉法人 石井記念愛染園 西成市民館<br>〒557-0004<br>大阪市西成区萩之茶屋 2-9-1<br>TEL : 06-6633-7200<br>○NPO 法人サポータイブハウス連絡協議会<br>〒557-0004<br>大阪市西成区萩之茶屋 2-8-12<br>TEL : 06-6641-9567  |  |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 概要                     | <p>西成市民館は、釜が崎の地域住民の「居場所づくり」「仲間づくり」「生きがいつくり」をめざして、住民とともに地域の福祉の向上や自己実現に寄与する活動を展開しています。地域の歴史とネットワークの強みを学びます。</p> <p>サポータイブハウス「陽だまり」は住民の生活の場。住民のこれまでの人生を包み込み、尊重し、理解していく支援の実際を学ぶとともに医療、介護、行政等のネットワークの実際を学びます。</p>   |  |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 対象者                    | 生活支援ネットワークに関心のある方  |  |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 日時<br>内容<br>受入可能人数 10人 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月22日<br/>(水)</td> <td>9:00～<br/>9:15</td> <td>JR「新今宮」駅に集合<br/>地域の社会資源を見学しながらサポータイブハウス陽だまりに行く。</td> </tr> <tr> <td>10月6日<br/>(水)</td> <td>9:15～<br/>10:45</td> <td>講義&amp;質疑応答:サポータイブハウス陽だまりの活動紹介</td> </tr> <tr> <td>11月10日<br/>(水)</td> <td></td> <td>その後、西成市民館に移動</td> </tr> <tr> <td>11月17日<br/>(水)</td> <td>10:45～<br/>13:00</td> <td>講義&amp;質疑応答:釜が崎の歴史&amp;西成市民館の活動紹介、地域見学</td> </tr> </tbody> </table> |  |  | 日程 | 時間 | 内容 | 9月22日<br>(水) | 9:00～<br>9:15 | JR「新今宮」駅に集合<br>地域の社会資源を見学しながらサポータイブハウス陽だまりに行く。 | 10月6日<br>(水) | 9:15～<br>10:45 | 講義&質疑応答:サポータイブハウス陽だまりの活動紹介 | 11月10日<br>(水) |  | その後、西成市民館に移動 | 11月17日<br>(水) | 10:45～<br>13:00 | 講義&質疑応答:釜が崎の歴史&西成市民館の活動紹介、地域見学 |
| 日程                     | 時間   | 内容   |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 9月22日<br>(水)           | 9:00～<br>9:15  | JR「新今宮」駅に集合<br>地域の社会資源を見学しながらサポータイブハウス陽だまりに行く。 |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 10月6日<br>(水)           | 9:15～<br>10:45   | 講義&質疑応答:サポータイブハウス陽だまりの活動紹介                     |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 11月10日<br>(水)          |  | その後、西成市民館に移動                                   |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| 11月17日<br>(水)          | 10:45～<br>13:00  | 講義&質疑応答:釜が崎の歴史&西成市民館の活動紹介、地域見学                 |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |
| キーワード                  | 釜が崎住民の自発性の尊重、居場所づくり、仲間づくり、文化活動   |  |  |    |    |    |              |               |  |              |                |                            |               |  |              |               |                 |                                |

| フィールドワーク先              | 今川社会福祉協議会 ボランティア部 (今川地域振興センター)   |   |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
|------------------------|--|---|--|-----|-----|-----|---------------|-----------------|---|---------------|-----------------|---|
| フィールドワーク先<br>詳細情報      | 〒546-0042<br>大阪市東住吉区西今川 3-6-7<br>TEL : 06-6703-0098<br>HP: <a href="http://www.higashisumiyoshikusyakyou.or.jp/activities/imagawa.html">http://www.higashisumiyoshikusyakyou.or.jp/activities/imagawa.html</a> (東住吉区社会福祉協議会のアドレス)  |   |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| 概要                     | 昭和 54 年、今川地区が福祉モデル地区に指定を受けたのをきっかけにボランティアスクールなど学習、婦人部長を中心として活動が始まりました。現在は、ボランティアそれぞれの暖かい思いが“私たちの町は自分たちで見守っていこう”という姿勢に成長し、“みんなで楽しく少しずつ”をモットーに多様化する高齢者問題に対応する新しいボランティア活動を推進していくことを目的の一つとしています。  |   |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| 対象者                    | 身近にできる活動に興味のある方<br>地域住民の草の根活動に興味のある方   |   |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| 日時<br>内容<br>受入可能人数 10人 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 程</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月13日<br/>(水)</td> <td>10:00<br/>10:05~</td> <td>今川地域振興センターに集合<br/>地域の高齢者のふれあいの場:ふれあいサロンに参加</td> </tr> <tr> <td>11月26日<br/>(金)</td> <td>10:30~<br/>12:00</td> <td>講義&amp;質疑応答:今川ボランティア部の活動の歴史と現状について<br/>(懇談会形式)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○参考図書<br/>おおさか発 地域福祉実践論 「今川ボランティア部」<br/>上野谷加代子・竹村安子著 万葉舎 2004</p> |   |  | 日 程 | 時 間 | 内 容 | 10月13日<br>(水) | 10:00<br>10:05~ | 今川地域振興センターに集合<br>地域の高齢者のふれあいの場:ふれあいサロンに参加 | 11月26日<br>(金) | 10:30~<br>12:00 | 講義&質疑応答:今川ボランティア部の活動の歴史と現状について<br>(懇談会形式) |
| 日 程                    | 時 間  | 内 容                                       |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| 10月13日<br>(水)          | 10:00<br>10:05~  | 今川地域振興センターに集合<br>地域の高齢者のふれあいの場:ふれあいサロンに参加 |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| 11月26日<br>(金)          | 10:30~<br>12:00  | 講義&質疑応答:今川ボランティア部の活動の歴史と現状について<br>(懇談会形式) |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |
| キーワード                  | 町会、ボランティア、高齢者、小地域福祉活動、ふれあいサロン<br>地域振興センターの建設   |   |  |     |     |     |               |                 |   |               |                 |   |

| フィールドワーク先                | 東粉浜社会福祉協議会 青少年部会・援護部会  |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
|--------------------------|--|--|--|-----|-----|-----|-------------|--|---|--------------|--|---|
| フィールドワーク先<br>詳細情報        | 〒558-0051<br>大阪市住吉区東粉浜 2-24-16<br>TEL : 06-6674-0608<br>HP : <a href="http://www.sumiyoshi-wel.net/area/10.html">http://www.sumiyoshi-wel.net/area/10.html</a><br>(住吉区社会福祉協議会のアドレス)          |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 概要                       | 東粉浜社協では、子どもへの声かけ見守り隊 (240 名登録)、高齢者への食事サービス、子育てサロン等様々な活動が活発に展開されていますが、これらの活動に住民が参加しやすい雰囲気が地域の中で形成されています。そのような雰囲気がどのように作られ、現在も続いているのかを学びます。また、子どもたちへの声かけ「見守り隊活動」の発祥経緯から地域住民の自発的な活動への波及効果を学びます。 |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 対象者                      | 地域での日頃のつながりがどのように生まれ、地域全体を繋げるのかを知りたい方  |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 日<br>内<br>受入可能人数<br>制限なし | 時<br>容<br>内容   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 程</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月6日<br/>(月)</td> <td>7:45<br/>8:00<br/>~8:20<br/>8:30<br/>~9:00<br/>9:00<br/>~10:00</td> <td>南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br/>小学生の登校時の「見守り隊」活動に参加<br/>サポーター連絡会<br/>東粉浜小学校にて東粉浜地域の方々との座談会</td> </tr> <tr> <td>12月9日<br/>(木)</td> <td>9:50<br/>10:00<br/>~11:30<br/>11:30<br/>~12:30</td> <td>南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br/>東粉浜社会福祉会館(老人いこいの家)<br/>地域のお母さんと子どもが集う「子育てサロン」(クリスマス会)に参加<br/>東粉浜地域の方々との座談会</td> </tr> </tbody> </table> |  | 日 程 | 時 間 | 内 容 | 9月6日<br>(月) | 7:45<br>8:00<br>~8:20<br>8:30<br>~9:00<br>9:00<br>~10:00 | 南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br>小学生の登校時の「見守り隊」活動に参加<br>サポーター連絡会<br>東粉浜小学校にて東粉浜地域の方々との座談会 | 12月9日<br>(木) | 9:50<br>10:00<br>~11:30<br>11:30<br>~12:30 | 南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br>東粉浜社会福祉会館(老人いこいの家)<br>地域のお母さんと子どもが集う「子育てサロン」(クリスマス会)に参加<br>東粉浜地域の方々との座談会 |
| 日 程                      | 時 間  | 内 容  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 9月6日<br>(月)              | 7:45<br>8:00<br>~8:20<br>8:30<br>~9:00<br>9:00<br>~10:00   | 南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br>小学生の登校時の「見守り隊」活動に参加<br>サポーター連絡会<br>東粉浜小学校にて東粉浜地域の方々との座談会  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 12月9日<br>(木)             | 9:50<br>10:00<br>~11:30<br>11:30<br>~12:30   | 南海本線「粉浜」駅改札口に集合<br>東粉浜社会福祉会館(老人いこいの家)<br>地域のお母さんと子どもが集う「子育てサロン」(クリスマス会)に参加<br>東粉浜地域の方々との座談会  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| 受入可能人数 5人                |  |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |
| キーワード                    | 地域での日頃からのつながり、声かけ見守り隊、青壮年団の活動  |  |  |     |     |     |             |  |   |              |  |   |

| フィールドワーク先           | NPO 法人 地域生活サポートネットほうふ  |  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
|---------------------|--|--|--|-----|-----|-----|---------------|------------------------------------|--|--------------|------------------------------------|---|
| フィールドワーク先<br>詳細情報   | 〒535-0022<br>大阪市旭区新森 6-4-15-1104<br>TEL : 06-6853-2655<br>HP : <a href="http://www.page.sannet.ne.jp/hmukai/houpu/">http://www.page.sannet.ne.jp/hmukai/houpu/</a> |  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| 概要                  | 2004年4月、設立。一人の母親の体験から出発した活動。さまざまな団体や個人とつながり、孤立させない地域、自分らしくより豊かな生活を営むことができる地域づくりをめざして活動しています。   |  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| 対象者                 | 子育て支援に興味のある方<br>障害児に対する支援に興味のある方   |  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| 日<br>内<br>受入可能人数 5人 | 時<br>容   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 程</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月13日<br/>(水)</td> <td>10:30~<br/>12:30<br/>13:30~<br/>14:30</td> <td>旭区社会福祉協議会に集合<br/>ほうふ 社会生活体験事業運営会議に参加(傍聴)<br/>テーマ:「おしゃれをしよう」<br/>講義&amp;質疑応答:ほうふの取組み</td> </tr> <tr> <td>12月3日<br/>(金)</td> <td>10:00~<br/>12:00<br/>13:00~<br/>14:00</td> <td>旭区社会福祉協議会に集合<br/>あさひの輪の会議[旭区の子育てVG、ほうふ、区、区社協、子育てサロン代表者等]に参加(傍聴)<br/>講義&amp;質疑応答:ほうふの取組み</td> </tr> </tbody> </table> |  | 日 程 | 時 間 | 内 容 | 10月13日<br>(水) | 10:30~<br>12:30<br>13:30~<br>14:30 | 旭区社会福祉協議会に集合<br>ほうふ 社会生活体験事業運営会議に参加(傍聴)<br>テーマ:「おしゃれをしよう」<br>講義&質疑応答:ほうふの取組み | 12月3日<br>(金) | 10:00~<br>12:00<br>13:00~<br>14:00 | 旭区社会福祉協議会に集合<br>あさひの輪の会議[旭区の子育てVG、ほうふ、区、区社協、子育てサロン代表者等]に参加(傍聴)<br>講義&質疑応答:ほうふの取組み |
| 日 程                 | 時 間  | 内 容  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| 10月13日<br>(水)       | 10:30~<br>12:30<br>13:30~<br>14:30   | 旭区社会福祉協議会に集合<br>ほうふ 社会生活体験事業運営会議に参加(傍聴)<br>テーマ:「おしゃれをしよう」<br>講義&質疑応答:ほうふの取組み   |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| 12月3日<br>(金)        | 10:00~<br>12:00<br>13:00~<br>14:00   | 旭区社会福祉協議会に集合<br>あさひの輪の会議[旭区の子育てVG、ほうふ、区、区社協、子育てサロン代表者等]に参加(傍聴)<br>講義&質疑応答:ほうふの取組み  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |
| キーワード               | 障害児の地域生活支援、つながり、アクションプランあさひあったか基地(今市商店街)   |  |  |     |     |     |               |                                    |  |              |                                    |   |

| フィールドワーク先             | 社会福祉法人 西淀川区社会福祉協議会   |   |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
|-----------------------|--|---|--|----|----|----|--------------|-------|--|-----------------|--|--|-----------------|----------------------------|--------------|-------|------------------|-----------------|---|--|-----------------|----------------------------|
| フィールドワーク先<br>詳細情報     | 〒555-0013<br>大阪市西淀川区千舟 2-7-7<br>TEL : 06-6478-2941<br>HP : <a href="http://www.fukufuku.or.jp">http://www.fukufuku.or.jp</a>   |   |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| 概要                    | 福祉教育マニュアルを利用した福祉教育を体験実習し、それを作成検討した委員のつながり、思いが、次世代を担う子どもたちへと伝わることの大切さを学びます。それを通じて、受講者が福祉教育推進のリーダーとなっていただくことをねらいとします。  |   |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| 対象者                   | 福祉教育に関心のある方  |   |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| 日時<br>内容<br>受入可能人数 6人 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">12月4日<br/>(土)</td> <td>10:40</td> <td>大阪市立淀商業高等学校正門前集合<br/>(JR 東西線御幣島駅下車徒歩 10分)</td> </tr> <tr> <td>10:50<br/>~12:40</td> <td>福祉教育マニュアルを活用した授業<br/>災害炊き出しシュミレーション<br/>(ごはんと豚汁)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13:00<br/>~14:00</td> <td>講義&amp;質疑応答<br/>(西淀川区社会福祉協議会にて)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1月21日<br/>(金)</td> <td>10:15</td> <td>西淀川区在宅サービスセンター集合</td> </tr> <tr> <td>10:40<br/>~11:25</td> <td>大阪市立柏里小学校 (3年生)<br/>福祉教育マニュアルを活用した授業<br/>アイマスク体験、クワックボジション、点字のしくみ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13:00<br/>~14:00</td> <td>講義&amp;質疑応答<br/>(西淀川区社会福祉協議会にて)</td> </tr> </tbody> </table> |   |  | 日程 | 時間 | 内容 | 12月4日<br>(土) | 10:40 | 大阪市立淀商業高等学校正門前集合<br>(JR 東西線御幣島駅下車徒歩 10分) | 10:50<br>~12:40 | 福祉教育マニュアルを活用した授業<br>災害炊き出しシュミレーション<br>(ごはんと豚汁) |  | 13:00<br>~14:00 | 講義&質疑応答<br>(西淀川区社会福祉協議会にて) | 1月21日<br>(金) | 10:15 | 西淀川区在宅サービスセンター集合 | 10:40<br>~11:25 | 大阪市立柏里小学校 (3年生)<br>福祉教育マニュアルを活用した授業<br>アイマスク体験、クワックボジション、点字のしくみ |  | 13:00<br>~14:00 | 講義&質疑応答<br>(西淀川区社会福祉協議会にて) |
| 日程                    | 時間   | 内容  |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| 12月4日<br>(土)          | 10:40  | 大阪市立淀商業高等学校正門前集合<br>(JR 東西線御幣島駅下車徒歩 10分)                        |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
|                       | 10:50<br>~12:40  | 福祉教育マニュアルを活用した授業<br>災害炊き出しシュミレーション<br>(ごはんと豚汁)                  |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
|                       | 13:00<br>~14:00  | 講義&質疑応答<br>(西淀川区社会福祉協議会にて)                                      |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| 1月21日<br>(金)          | 10:15  | 西淀川区在宅サービスセンター集合  |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
|                       | 10:40<br>~11:25  | 大阪市立柏里小学校 (3年生)<br>福祉教育マニュアルを活用した授業<br>アイマスク体験、クワックボジション、点字のしくみ |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
|                       | 13:00<br>~14:00  | 講義&質疑応答<br>(西淀川区社会福祉協議会にて)                                      |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |
| キーワード                 | 福祉教育、高等学校、小学校、福祉教育マニュアル作成を通じたネットワークづくり   |   |  |    |    |    |              |       |  |                 |  |  |                 |                            |              |       |                  |                 |   |  |                 |                            |

# 中間報告会

平成 22 年度地域福祉推進リーダー養成講座

中間報告会 タイムスケジュール

| 時間   | 場所   | 内容  |
|--|--|---|
| 10:00～10:10  | 講座室2   | オリエンテーション<br>◆本日のタイムスケジュール、各自の記録等配布資料の確認、グループ分けと会場案内<br>◆中間報告会の目的<br>①発表することで各自の目的とFWで学んだことをまとめる。<br>②前期フィールドワーク先で学んだことを整理する。<br>●ポイント FW先の良かったところ。自分ができるところ。 |
| 10:10～11:10(60分)<br>グループワーク①<br>前期のフィールドワーク先のグループごとに、部屋に分かれてグループワークを行います。<br>各グループで進行役、発表役、記録役を決めて進めてください。<br>模造紙、ポストイット、マジックを用意していますので、発表内容を模造紙にまとめてください。 | 演習室1<br>(第1グループ)<br>演習室2<br>(第2グループ)<br>演習室3・4<br>(第3グループ)<br>講座室2<br>(第4グループ) | 今川社会福祉協議会(6人)<br>NPO法人地域生活サポートネットほうぶ(3人)<br>東粉浜社会福祉協議会(2人)<br>玉出地域包括支援センター(7人)<br>西成市民館・NPOサポーターハウス連絡協議会(7人)<br>わがまちにしなり子育てネット(6人)                            |
| 11:10～11:40(30分)<br>グループワーク発表<br>講座室2に戻ってください。   |  | 4つのグループから発表していただきます。  |
| 11:40～11:50(10分)<br>グループワーク②<br>後期フィールドワーク先ごとのグループに分かれて交流タイム。  | 講座室2   | わがまちにしなり子育てネット(5人)<br>玉出地域包括支援センター(6人)<br>今川社会福祉協議会(11人)<br>西淀川区社会福祉協議会(7人)<br>西成市民館・NPOサポーターハウス連絡協議会(2人)<br>東粉浜社会福祉協議会(1人)<br>NPO法人地域生活サポートネットほうぶ(1人)        |
| 11:50～12:00  | 講座室2   | まとめ<br>後期FWと最終報告会について   |

最終回は2月3日(木)午後1時30分～4時30分

小掠先生他、コメンテーターが来られます。

場所: 大阪市社会福祉研修・情報センター 5階



**地域福祉推進リーダー養成塾 中間報告会      グループ発表まとめ**  
実施日 平成 22 年 11 月 13 日 (土) 午前 10 時～正午 於：当センター講座室 2、演習室  
1～4

前期のフィールドワーク先ごとのグループに分かれ、前期の振り返りを行うとともに、後期フィールドワークに向けて学びたいことを整理するためにグループワークを行った。

☆グループワークのテーマ

「フィールドワーク先の良かったところ」と「自分たちができること」について

**第 1 グループ【フィールドワーク先：今川地域社協、NPO 法人ほうぷ、東粉浜社会福祉協議会】**

発表者 玉本さん

○良かったこと

今川地域社協の活動について

活動費 70～80 万円／年 ボランティア部のみで使える。

高齢者の地図がある。誕生日もわかっている。

肩をはらず無理をせずにする。

ボランティア活動は 1 時間でもよい。

活動費がある。

集まれる場がある。

どこにどんな人が住んでいるか知っている。

○自分たちができること

地域を知る。どこでどんなことが行われているか。参加できることがあるか。

週 1 回でもやろう。

継続しよう。

ボランティアも無償ではなく、ポイント制を導入する。付加価値をつけた活動をする。

ボランティアをする。

今川のようなノウハウは今は崩れ去っている。今の時代でできることは何だろうか？

どいう風にこれからやっていかないといけないかを考えていきたい。

**第 2 グループ【フィールドワーク先：玉出地域包括支援センター】**

発表者 山下さん

○良かったこと

地域包括の役割を学ぶことができた。

食事会に参加させてもらって推進員さんの生の声を聴けた。

理念がある。

白寿会は、地域に開かれた施設であること。見守りに工夫されたパンフレットを作成している。

地域のニーズ把握方法を教えてもらった。

○自分たちができること

地域の人たちに地域包括を紹介する。

何気ない会話から地域の声を聴く。

自分たちから出ていく。

地域の人と共に汗をかく。

専門職として地域診断し、データを残していく。

事業は住民主体。一緒に考えて企画を立てて実施し、評価する。

住民と施設と事業所を巻き込む。この3者は地域で生活しているという共通基盤を持っている。

### 第3グループ 【フィールドワーク先：西成市民館・サポーターハウス陽だまり】

発表者 吉田さん

○良かったこと

特別な地域ではない（確かに特色はあるが）

住まわせるだけではない支援をサポーターハウスはしている。

河崎館長の西成に来ている人の歴史を学んで、僕も以前のケースでその人の歴史を知らないとちゃんとした関わりができなかったと思った。

社会的スキルを学ぶことができなかった人たちへの支援をしている。

社会福祉（個人のしあわせ）と地域福祉（共通のしあわせ）の境界の難しさを感じる。

支援を必要とする人をどんなふう地域になじんでもらうか、住んでいけるだろうか。

（→地域が受け入れられるか）

貧困ビジネスで入り込んでくる者もお見極めが難しい。

半福祉・半労働

保護費を渡した後も支援も大切。

生保にかからないボーダーの人への支援も。

### 第4グループ 【フィールドワーク先：わが町にしなり子育てネット】

発表者 木下さん

○良かったこと

ワクワクする会議

自分のこととして一緒に考える

自分の地域を大切にし、盛り上げようという共通の目標を持っている。

会議に出られない人を大切にしている。これる時にすればよい。忘れていないよと。

ゆるやかな人間関係を大切にしている。  
公に声を出している。  
自主的。

○自分たちでできること

他者に子育てネットの取組みを伝える。  
他者に声をかける。  
ひとりにせずに、みんなでする。  
公を巻き込む。  
自分のこととして考える。  
地域の声を聞く。  
寛容であること。

(会議に参加してもらい) 良かったなと思ってもらう体験を大切にする。重ねる。

◎藤原スーパーバイザーのコメント

フィールドワーク先、地域にはそれぞれに特徴がある。

これを皆さんの地域にすぐに持って帰ることはできない。肩張らず取組み、緩やかなつながりを。

個人からの取組みもあれば、すでにある組織を広げていくやり方等々あった。どちらにせよ展開するには理念が大切。そして当り前のことを、当り前にやっていくことが必要。我々の思いをしっかりと伝える。挨拶をする。日常的な関わりを大事にする。

個人情報取り扱いについては、昨今過剰な反応があるが、日常的な関わりを積み重ねることからそこを突破する手だてが見つかるのではないか？

皆さんそれぞれの考え方を共有しましょう。

情報の共有だけでなく、考え方を共有しましょう。

| 良かったこと  | 自分たちができること  |
|---|---|
| <p><b>学んだこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが気負わず、肩肘はらず</li> <li>・ちよつとの時間に少しずつ、が活動しやすさに。</li> <li>・町会で募金活動を行い、ボランティア活動に使っている。</li> <li>・町会の中でボランティア部が独立している。</li> <li>・どこにどんな人が住んでいるのかを把握できている。</li> <li>・人と人とのつながりがりの大切さを学んだ。</li> <li>・<u>人の心をうち、人は動く、人には伝わる。</u></li> </ul> | <p><b>地域を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を知るところからはじめたい。</li> <li>・5分、10分でも関わられるよう、自分の地域を知ってみたい。</li> </ul> <p>↓</p> <p>自分の地域はどんなことをしているんだろう。まずは知ることから、できることからはじめよう。</p> <p><b>長く続けるには</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有効的で需要のあるものだけを無理せず柔軟な意識で活動</li> <li>・無理強いせずやさやかなことから参加できるシステム</li> <li>・ボランティアが増加→町会の文化クラブを入口に声かけを</li> <li>・無理をしない</li> <li>・助けてもらう</li> <li>・付加価値</li> <li>・「みんながやっているのなら私もやろうかな」という地域柄を感じる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を有効に使う(ちよつとの時間をつくる)</li> <li>・自分がかうごかないことには何もはじまらない。</li> <li>・仕事と子育てで現状いっぱい、V活動とまではいかないが、その気持ちは持ち続けていたい。</li> <li>・公的サービス提供できない「ちよつと」したことが地域のつながりでできれば・・・。</li> <li>・いきなり今川のようにはムリ。まずは高齢者のことから取り組んでいきたい。</li> </ul> |

新しい地域、これからの地域を考えないといけない？

今から30年、今川のようになれるか？これまでの30年だからできてきたのか？

| 良かったこと   | 自分たちができること   |
|--|--|
| <p><b>包括として</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ職種間での問題が共有できた。課題分析、実態把握。</li> <li>・もともと包括支援センターを利用してもらった。</li> <li>・包括の地域活動を聞くことができた。</li> <li>・施設は地域の資源の1つ。</li> </ul>  | <p>☆何気ない会話から地域の声をきく。<br/>                 ☆地域と共に汗をかき、地域と共に地域に立つ(＋専門職としての視点をもつて)</p>  |
| <p><b>地域の声</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方から包括に対して感じていることを聞くことができた。</li> <li>・食事に参加し、地域の方の声をきけた。ネットワーク委員会の。</li> </ul>  | <p>☆地域を知る(ex)情報のデータ化<br/>                 ☆通所事業利用者への包括をもつと利用してもらった<br/>                 ☆住民の集まる場に積極的に出ていく<br/>                 ☆ネットワーク推進委員との関係作り<br/>                 ☆事業をふり返り評価していく<br/>                 ☆事業所をまきこんだネットワーク作り</p> |
| <p><b>理念</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設と地域のつながり方を見られた。</li> <li>・顔の見える関係。</li> <li>・事業を考える時の視点を学べた。(住民主体、いっしょに汗をながすこと)</li> <li>・ネットワーク推進員との関係。</li> <li>・地域の方と関わる際の施設としてのやり方。</li> <li>・より地域にひらかれた施設となるための工夫。</li> </ul>                |  |
| <p><b>手段</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見えないニーズの把握。</li> <li>・相談窓口のパンフレット、写真がある。</li> <li>・見守りレポート。</li> <li>・地域の方々のコミュニケーションの様子を見ることができた。</li> <li>・具体的取組を知ることができた。</li> <li>・楽しみながら地域活動をする大切さを知った。</li> <li>・ニーズ把握法を教えてもらった。</li> </ul> |  |

### 西成だけで自己完結

- ・自分の地域にいかに応用するか
- ・西成(あいりん)は自己完結している
- ・「サンヤ」でつちかったノウハウを・・・もっと広い活動へひろがっている。
- ・西成に学ぶのではなく、西成と共に学ぶ。
- ・西成のあいりん地域というせまい地域内で解決しようとしていないか。

### お金を出したらいいと思ってる役所

- ・保護費を渡したあとの支援
- ・生保からもれた人の支援
- ・市場原理に関係なく、支援を行っていた。
- ・住ませるだけでない支援が行われていた。
- ・行政はお金さえええだせばいいと思ってる。

### 社会的ニーズ

- ・地域福祉共通の幸せ。
- ・あいりん地域と周辺地域における就労機会の創出(コミュニティビジネスの立ち上げ)
- ・行政がすべきことを民間施設のボランティア精神に依存しているのは問題。
- ・社会福祉個人の幸せ。

### 良かった感想

- ・元日雇いで関わりのむずかしい利用者さんへのかかわりのヒントが得られた。(背景を知って)
- ・市民館の生活レベルでの活動、位置づけがわかった。
- ・知識、うわさではなく体感することができた。
- ・社会福祉、地域福祉の境界のむずかしさ。

### 現場の問題

- ・西成式のサポーターハウスが他地域へひろがりをみせているが、「陽だまり」の様に理念を持っているか
- ・貧困ビジネスが見極め難しい。
- ・西成式をそのまま輸入するのは無理。アレンジが必要
- ・サポーターハウスにもなじまず路上に居るおっちゃんたちの問題。
- ・サポーターハウスという路線にのれたおっちゃんたち。
- ・地域発の情報発信の手段がほとんどない。

### 他の地域にはない

| 良かったこと  | 自分たちができること   |
|---|--|
| <p>地域をすごく大切に思っているか<br/>みんなで共通の目標「地域大切！」</p> <p>皆思いやる気持ちはある<br/>強みに着目した支援をしている<br/>誰かの力を引き出す支援</p> <p>↓</p> <p>人と人とのつながり<br/>ゆるやかなつながりを大切にしていること<br/>自発性を大切にすること<br/>自主性を大切にしながら活動を目指している(実践)</p>  | <p>私達も成長しよう<br/>確かな知識をつけ、実践をつみ信頼される人になる<br/>勉強に前向きに取り組む<br/>目に見えないものを大切に(思いやつながり)<br/>皆にとつて小さな「よかった体験」を意識したい<br/>少しでも寛容でいたい<br/>休み期間があっても続ける<br/>人の意見に耳をかたむける<br/>人を否定しない<br/>ネットワーク委員さんに他の地域(西成)のことを発表して<br/>知ってもらいたい<br/>思いついたことを1つから実行に移していくこと<br/>困っている人をみつけたら、手を差し伸べてあげる<br/>何かすることを一人ですらないで他人を巻き込む<br/>公の団体にお金のお面も支援していただくことをしていきたい<br/>「公」を巻き込む<br/>気軽に声をかける<br/>となり同志のお付き合<br/>地域の声を聞く<br/>何が起きているのかアンテナをはる<br/>自分だけがやるのではなくみんなで行っていく<br/>これなかった人に声をかける、会議の内容を伝える<br/>いつ来ても誰もほっとできる場をつくる<br/>笑顔とあいさつやさしさでお互い声かけやすく<br/>色んなケースを自分のケースとして考える<br/>良いところを探して伝える<br/>来れない人、できないことを大切に<br/>声を上げていく<br/>皆の困りごとを少しでもキャッチできるように</p> |
| <p>何が地域で困っているか<br/>ニーズ(潜在化)を拾う<br/>しい</p> <p>公をまきこむ<br/>今ある資源を有効に<br/>今あるものを活かす<br/>つながれる場づくり(公園、会議など)</p> <p>↓</p> <p>会議に出ることによって何か得ることがある<br/>活気があり雰囲気がいい<br/>みんなやる気のある会議<br/>各自の意見が自由に発表できること<br/>1人で考えることよりみんなで行って考える<br/>「忙しくても参加したい」と参加者がワクワクする<br/>ような会議をされている</p> | <p>関係とは寛容さから生ずる(相手に求めない)<br/>いつ休んでもいい、いつ来てもいい<br/>病児保育所がある</p>   |
| <p>支援される人とする人が対等であるとの認識<br/>自分たちにあてはめると・・・と皆で考える姿勢<br/>どのようなことでも自分の立場に振り替えて考えてくださる<br/>当事者の声を重視している<br/>支援者であり当事者である</p> <p>↓</p> <p>当事者が声をかけやすいような支援をしている<br/>無理をしないで会議に出席できる<br/>気づきを待つ底力がある<br/>来れない人を大事にしよう</p> <p>☆小涼先生の人柄</p>                                       | <p>関係とは寛容さから生ずる(相手に求めない)<br/>いつ休んでもいい、いつ来てもいい<br/>病児保育所がある</p>   |

# 最終報告会



## 平成22年度 地域福祉推進リーダー養成塾 最終報告会

日時：平成23年2月3日（木） 13時30分～16時30分

場所：大阪市社会福祉研修・情報センター 4階 会議室1

### 本日のスケジュール

| 時間          | 内容  |
|-------------|---|
| 13:30～13:35 | オリエンテーション<br>本日のタイムスケジュール、配布資料の確認   |
| 13:35～16:20 | 受講者個人発表<br>(途中休憩あり)<br>講師からのコメント<br>・わかくさ保育園 園長 小掠 昭<br>・玉出地域包括支援センター 管理者 種継 敦<br>・大阪市社会福祉研修・情報センター 藤原 慶二 |
| 16:20～16:30 | まとめ<br>閉講のあいさつ  |

## 【資料】研修レジュメ・資料

《平成 22 年度地域福祉推進リーダー養成塾》  
大阪市社会福祉研修・情報センター

平成 22 年 8 月 19 日（木）  
午後 1 時～2 時 15 分

# 「事例を通して支援ネットワークの構築手法について学ぶ」

《講師》 社会福祉法人 石井記念愛染園  
わかくさ保育園 園長 小掠 昭

### 【講師プロフィール】

セツルメント 100 年の歴史を持つ石井記念愛染園の隣保事業（浪速、西成、住之江の各区に 8 施設）の責任者として、地域福祉や人権擁護の活動を続ける。日本全国及び大阪のセツルメント系の施設で組織する日本地域福祉施設協議会の常任理事兼事務局長、大阪市地域福祉施設協議会の常務理事兼事務局長を長年務める一方、大阪市西成区で子ども・親・高齢者たちの自己実現と権利擁護を目的とした様々なネットワークを立ち上げ、特に児童虐待防止の事業や活動を進める。

中でも 1995 年から続いている児童虐待防止ネットワーク「あいりん子ども連絡会」（現在は西成区要保護児童対策地域協議会・今宮中学校区実務者会議）と、2000 年に発足した親と官と民でつくる地域子育て支援ネットワーク「わか町にしなり子育てネット」は全国的にも、あまり例を見ないユニークなネットワークで、その実効的な活動が注目されている。

### （主な役職）

社会福祉法人石井記念愛染園理事・隣保館長

法務省人権擁護委員、西成区要保護児童対策地域協議会副会長、西成区地域福祉計画アクションプラン推進委員会子ども部部長、わか町にしなり子育てネット代表、社会福祉法人大阪ボランティア協会理事等

## 事例を通じた支援ネットワーク構築の手法について

社会福祉法人石井記念愛染園 理事  
わが町にしなり子育てネット 代表  
わかくさ保育園 園長 小掠 昭

### (1) 社会福祉の歴史と地域福祉

- 1、慈善・救済事業の時代(明治から米騒動 1918 年頃まで)
- 2、社会事業の時代(1918 年頃から太平洋戦争終戦まで)
- 3、社会福祉の時代(終戦から 1990 年代頃まで)
- 4、地域福祉の時代(2000 年頃以降～)

### (2) 2つの社会福祉と3番目の社会福祉

- 1、法律としての社会福祉
- 2、自発的な社会福祉
- 3、3番目の社会福祉とは(いろいろな事例から)

### (3) 地域の課題と地域福祉ネットワークの形成

- 1、地域の課題(地域の問題を自分たちの問題としてとらえる)
- 2、地域福祉ネットワークの形成
  - I. あいりん子ども連絡会から要保護児童対策地域協議会へ
  - II. 母親たちの子育てサークル、子育てボランティア、役所、児童施設  
NPO、団体等 計70団体の「わが町にしなり子育てネット」

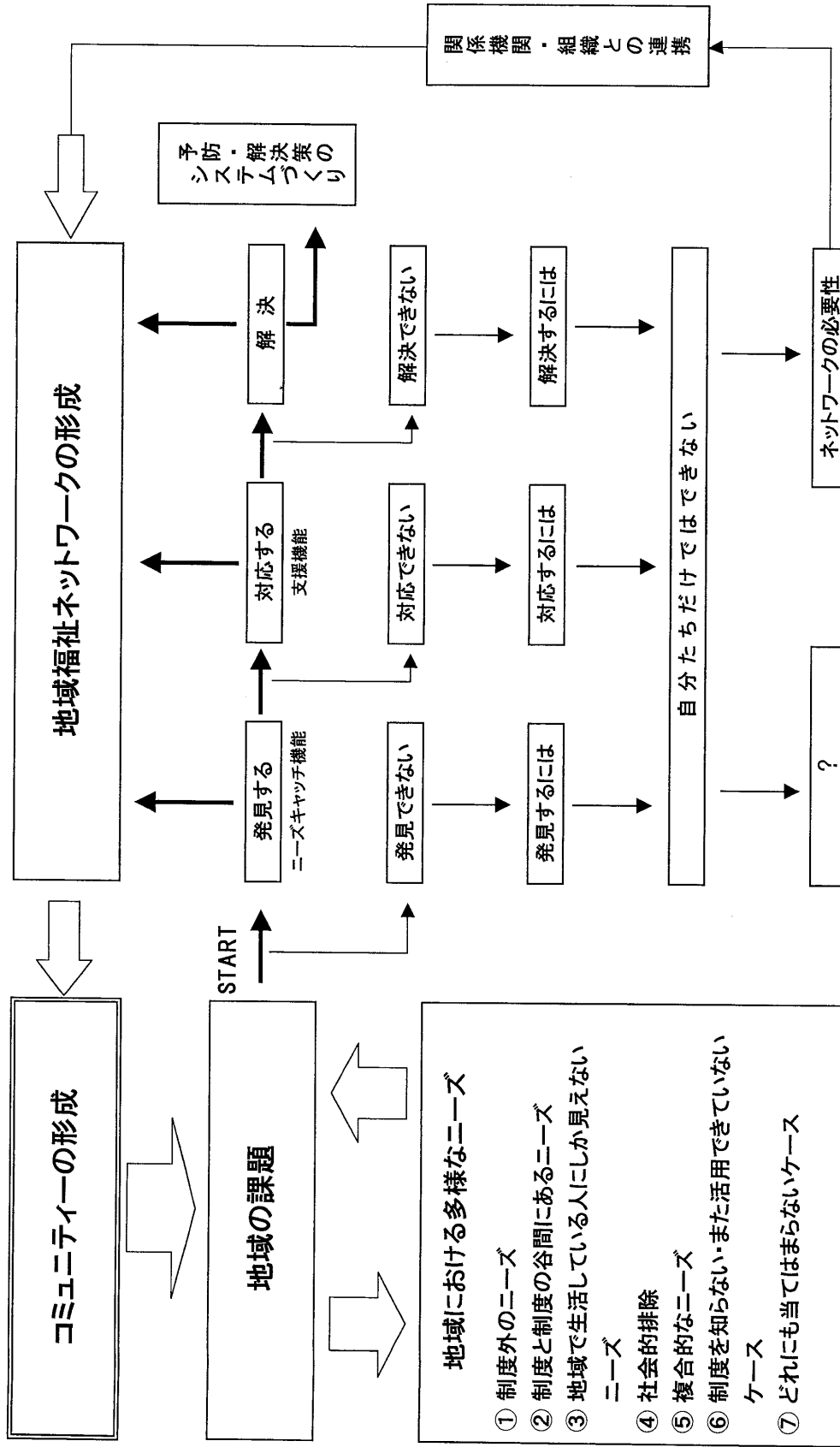
### (4) 私たちがネットワークづくりで大切にしていること



## 西成の子どもの権利を守る2つのネットワーク

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 名 称    | あいらん子ども連絡会<br>《虐待防止ネットワーク》<br>(西成区要保護児童等対策地域協議会・<br>今宮中学校下・山王飛田地区ケア会議)   | わが町にしなり子育てネット<br>《子育て支援ネットワーク》   |
| 概 要    | 児童福祉法で定められた行政の認めた、<br>公式な虐待防止ネットワーク<br>(1995～2002年までの、あいらん子ども<br>連絡協議会は非公式)  | 非公式な子育て支援ネットワーク  |
| 構成メンバー | 福祉・医療・教育の分野で児童虐待防<br>止に関わる官・民・主任児童委員など。  | 子育てサークル・ボランティアグループ、保育園<br>や支援センターなど地域子育てに関わる施設、官<br>公署など約70団体が所属。当事者主体で、連<br>絡会構成メンバーは専門性のある支援を行う  |
| 共通理念   | ①「子どもたちの最善の利益を守る為に」<br>②「当事者が主体」自己決定を尊重<br>③「虐待防止は子育て支援から」   |  |
| 設立の目的  | 子どもの権利条約にある「子どもの最<br>善の利益」を守るという理念に近づく為<br>に関係機関の情報交換や相互支援の為の<br>ネットワークでそれぞれが持つ知識・技<br>能・資源を活用する。                                | 子育て・子育ての主体は親や子どもである<br>ということを常に意識しながら、運動の広が<br>りと専門性のある支援の輪を広げる。   |
| 歴 史    | 「子どもの最善の利益を守る為に」<br>1995 あいらん子ども連絡会発足<br>(民間保育園の呼びかけ)<br>2002 大阪市児童虐待防止連絡会議<br>「児童虐待防止・子育て支援連絡会議」<br>2006 要保護児童対策地域協議会           | 「主体者としてエンパワメント発揮の場を」<br>1999 準備会発足<br>2000 「わが町にしなり子育てネット」設立<br>2001 親が作る情報誌「ハギッズ」創刊<br>2002 ホームページ開設<br>2003 虐待をやめたい親への回復プログラム 開始                   |
| 特 徴    | ①虐待防止は子育て支援から<br>②小地域のネットワークを<br>(通常は区に一区所だが、中学校区に一<br>か所で顔の見える関係を作る)<br>③実務者同士のネットワークを<br>(利用者・支援者の自己決定重視)                      | ①当事者主体 (エンパワメント発揮できる場)<br>②官民協同<br>(官民専門家は表に出ずにサポート役に)   |
| 具体的な活動 | ○月1回の定例会議<br>・中学校区にある約60ケースを、毎回約<br>15ケースを検討する、直接支援者の小<br>規模なケース会議<br>・各施設が単独では抱えきれないケース<br>を共有し、児童虐待の早期発見と早期<br>対応に向けた、日常の連携・交流 | ○ネットワーク構成団体中心に<br>・子育てのつどい、フリーマーケット<br>・各種講座(例:虐待をやめたい親への回復プログラム)<br>等<br>○母親たちのボランティアグループ中心に<br>・子育てに関するホームページの運営<br>・ミニコミ誌、子育て情報誌発行<br>・保育ボランティア 等 |

# 地域の課題と地域福祉ネットワークの形成



## 2010年度 地域福祉推進リーダー養成塾

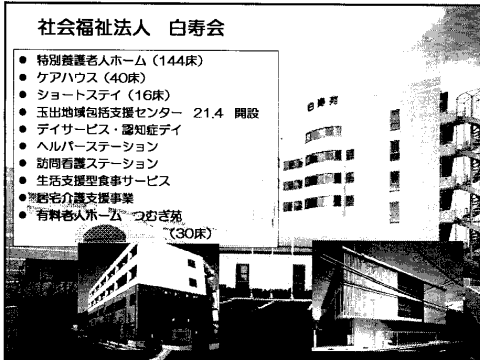
社会福祉法人 白寿会  
玉出地域包括支援センター  
種 継 敦

### 1. はじめに

- 1) 法人紹介
- 2) 西成区の現状
- 3) 玉出地域包括支援センターについて
- 4) みなさんの地域では、何が問題ですか？

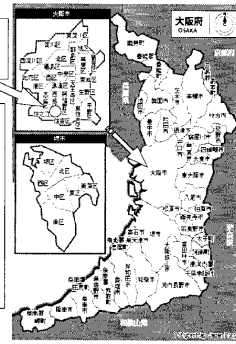
#### 社会福祉法人 白寿会

- 特別養護老人ホーム (144床)
- ケアハウス (40床)
- ショートステイ (16床)
- 玉出地域包括支援センター 21.4 開設
- デイサービス・認知症デイ
- ヘルパーステーション
- 訪問看護ステーション
- 生活支援型食事サービス
- 認知症介護支援事業
- 有料老人ホーム「つむぎ苑」 (30床)



#### 西成区の現状

- ・人口12万8千人  
(65歳以上3万8千人)
- ・高齢化率33.8%  
(大阪市 22.5% 大阪府で1番)
- ・介護保険認定者数 9300人  
(要支援者 3210人)
- ・家族人員 1.68人  
(1人暮らしが多いまち)
- ・区内の地域包括支援センター3カ所
- ・総合相談窓口 6ヶ所



#### 玉出地域包括支援センター(担当圏域)

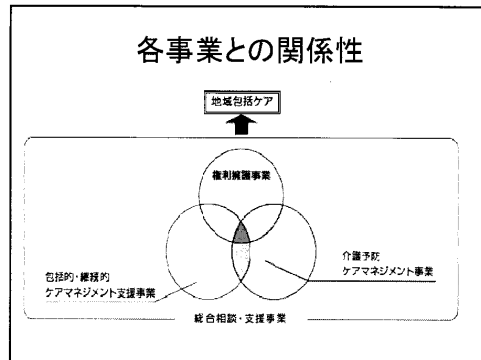
- ・玉出地域包括支援センターの担当圏域  
西成区：16地区 玉出圏域：3地区  
玉出圏域：玉出、千本、南津守小学校区
- ・圏域の高齢者人口  
8191人 (H22年推計)
- ・総合相談窓口 2ヶ所 介護老人福祉・保健施設 3ヶ所
- ・密集住宅地、工業地区が混在
- ・比較的地下鉄、南海電鉄、市バスと比較的交通の便もよい地域
- ・地域独自の交流の場(げんき祭り、こども祭り)なども盛んにおこなわれている。

#### 玉出地域包括支援センター(目的)

○介護保険法では  
地域住民の心身の健康の保持および生活の安定のために必要な援助をおこなうことにより、その保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設

→高齢者が住みなれた地域で安心して過ごすことができるように、**包括的および継続的な支援**をおこなう**地域包括ケア**を実現するための中心的役割を果たすことが求められている

- ### 玉出地域包括支援センター(機能)
- ①総合相談・支援事業 (ワンストップ窓口)
  - ②権利擁護事業 (高齢者虐待の防止および対応、消費者被害の防止および対応、成年後見制度利用の支援など)
  - ③包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 (個々の介護支援専門員へのサポート、包括的・継続的ケアマネジメント環境整備)
  - ④介護予防ケアマネジメント事業



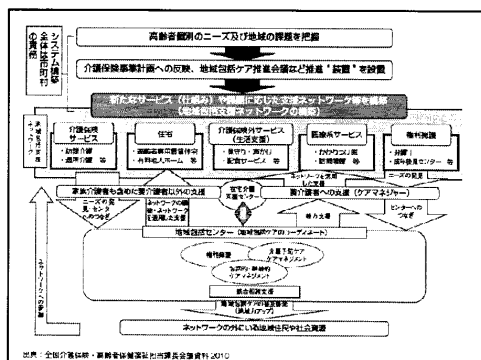
- 皆さんの地域で今課題になっていることは何ですか？
- ・ 少子高齢化
  - ・ 近隣との交流が薄くなる
  - ・ 家族機能の低下
  - ・ ニーズの多様化 …… など
- ↓
- 行政だけ、地域だけ、関係者だけでは解決できない。点ではなく面の対応が必要な時代

- ## 2. 地域包括ケア
- 地域全体で取り組む地域づくり—
- 1) 地域包括ケアとは？
  - 2) 地域全体で取り組まないといけない現状
  - 3) 地域福祉を推進するリーダーの必要性

### 地域包括ケアとは

- ・ 地域住民が住みなれた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することが出来るように、介護保険制度による公的サービスのみならず、その他のフォーマルやインフォーマルな多様な社会資源を本人が活用できるように、包括的および継続的に支援すること。

(地域包括支援センターマニュアルより)





## 2) 地域全体で取り組まないといけない現状

- ① 少子高齢化
- ② 要介護<支援>認定者の増加
- ③ 単独および高齢者夫婦世帯の増加
- ④ 認知症高齢者数の増加
- ⑤ 家族機能の低下
- ⑥ 地域の相互扶助の弱体化
- ⑦ ニーズの多様化
- ⑧ ニーズの変化

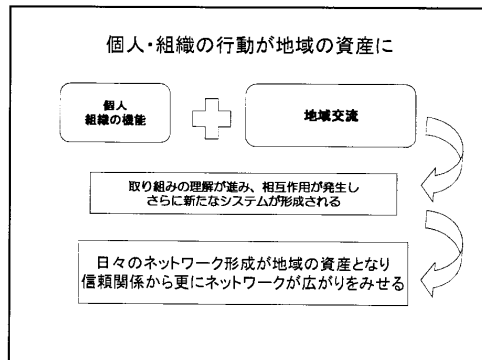
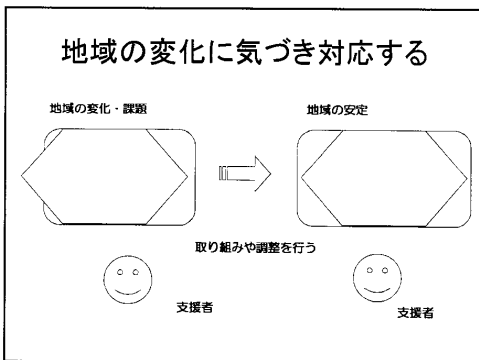
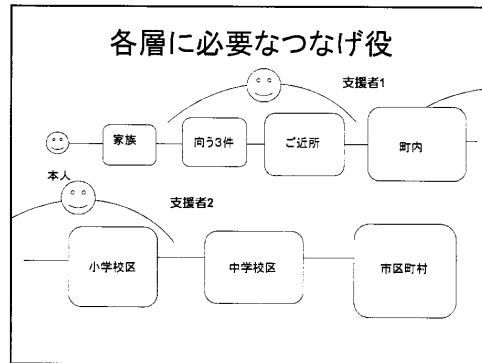
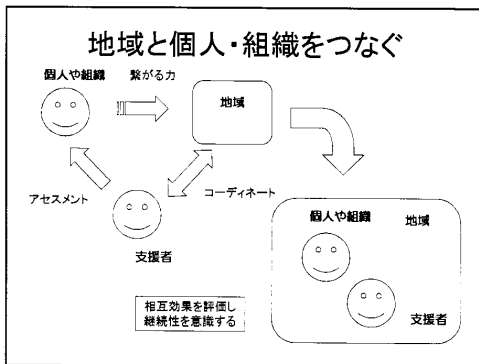
→ 地域の各世代で共通した課題もあり高齢者だけではなく、地域の課題として取り組む必要がでてきている。

## 3) 地域福祉を推進するリーダーの必要性

### ○地域包括ケアを実現するための4つの視点

- ① <統合性>  
地域の情報が集まり、生活を継続するために必要な支援につなぐ
- ② <包括性>  
組織と関係するサービスや事業だけではなく、多様な社会資源を結びつける
- ③ <継続性>  
地域の変化に応じて、適切なサービスを継続的に提供をおこなう。
- ④ <予防性>  
地域住民の声の把握などをもとに、地域における将来の課題を見据えた対応。

広い視野を持った地域のことを理解した拠点がなければ機能しない  
→ 地域をまとめるリーダーが必要 能取りがないとばらばらに



### 3. 玉出地域包括支援センター 実践のプロセス

- 自分たちには何が出来るのか？  
(自己分析)
- 地域の方に知っていただく(広報)
- 地域の方の声を聞く(実態把握)
- とともに考える(計画)
- とともに行動する(実践・評価)  
例)健康づくりサークル

### センターの実践 ①自己分析

- まずは、自分たちに何が出来るのか？
  - ・自分たちの使命(理念)
  - ・社会資源  
(人脈、制度、環境、職員、事業など)
  - ・組織の役割
  - ・事業計画

### センターの実践②広報

- 機能があっても知らない、活用できなければ  
ないのと同じ  
↓  
地域の行事に参加、広報誌、地域の役員の方へ説明、学習会の企画、回覧板の協力、インターネットの活用など

### 地域活動中の感想(地域の方)

- 白寿苑は知っているけれども、玉出包括支援センターはどこ？
- 場所が遠くなったわ。
- 玉出包括支援センターって何してくれるの？  
介護相談、地域づくりの窓口としては
- 特定高齢者って何？どうしたらいいの
- こまったら、玉出包括にいったらいいのね
- 圏域が増えて忙しくなってしまうのは心配

### 地域の方の声を聞く(実態把握)

- 地域交流学習会
- 地域ケア会議
- 地域行事に参加したときにコミュニケーション
- ネットワーク推進委員会の方にインタビュー
- ケースを通して住民の方とのコミュニケーション
- 安心マップ作り

### 地域の方の声を聞く(実態把握)

#### 地域を知ることで得られたこと

- 地域の方、当事者の方が思っていることを聞かせていただくことで、自分たちの考えていること、思いも修正ができる。
- 地域の優先順位が見えてくる。
- 地域の方に話を聞かせていただくことで、地域の力を発見。

→ 地域にあった実践へ計画を修正

### ともに考える(計画作り)

- それぞれの力を活かせるように、話し合う場作り話を聞かせていただいた方にも参加していただく。ただし、無理はしない。
  - つながった関係を離さないことの大切さ
  - 当事者や参加者の方の意見も反映
- 顔の見える関係と作り上げる過程を共有することでさらにネットワークは強いものに

### ともに行動する(実践・評価)

- 計画したことに対する役割分担
- 継続できるように小さな取り組みから
- 実践後、参加者や地域の方に評価、感想を話してもらって次回に反映

### 事例1)健康作りサークル

≪目的≫  
身近な地域で、健康をテーマにつながり作りを行い、介護予防を目的とする。

≪現状≫  
介護予防の取り組みがあっても参加が少なかった。なぜ？

#### ①まずは、振り返り反省(自己覚知)

事業に参加してもらうことに一生懸命になり、ニーズにあってなかった。  
話を聞いていると、健康には興味がある。  
環境的に事業実施場所が遠い。  
自分たちには、医療機関や人材の資源があるから、工夫次第では地域で開催できるのでは？

### 事例1)健康作りサークル

#### ②地域の方の声を聞かせていただく。(実態把握)

- 特定高齢者の事業はあってもややこしい
- 地域の人と関わりたいけどどうしたらいいの
- もっと気軽に参加したい

### 事例1)健康作りサークル

#### ③ 関係者の方に参加を呼びかけ (計画作りの準備)

- 参加者
  - 地域ネットワーク委員
  - 医師
  - 老人会の方
  - 町会の方
- 協力者が増えて会議の場を持つことに

### 事例1)健康作りサークル

- 企画会議:3回の開催(計画作り)  
健康について思いを語っていただく  
最初は少人数がいいな。  
自分たちの質問に答えてもらえる時間がほしい  
地域の方に地域の実情を教えていただいたり、新たな提案も頂く場面も。

### 事例1)健康作りサークル

#### ④いよいよ実践

みんなで作り上げたサークル、参加者も意欲的に参加していただき、楽しかった、また来たいとの声。

#### ⑤振り返り(評価)

参加者中心に振り返り。次回に反映。

### 4. 地域全体で課題を考える体制作り

#### ① 地域の方の声を聞く機会を作る工夫

→企画の時点で地域の方の声を反映  
自分たちが行おうとしていることへの目標や目的が明確になる。

#### ② 自分たちの組織だけでがんばらない。

→地域、行政、業界の力を活かしあう  
つながりを得るために、関係者に事情を聞かせてもらうことも。  
→いろいろな意見も聞けて発想が豊かに

### 4. 地域全体で課題を考える体制作り

#### ③ 楽しく動き出し、手ごたえを共に

- 役割を意識してもらいながら、人とのつながりの中で自分の存在の価値を確認して意欲を高めていただくことも。
- 楽しく明るくアイデアを出し合う。

### 5. まとめ

- 1) 地域福祉推進リーダーの方に求められる期待
    - 地域の課題は多領域にまたがり、長期化する課題ばかり。計画的、継続的な視点で対応できる人が求められています。
    - 地域活動が活性化している地域には、情熱を持って取り組んでいる、中心的な存在の方(キーパーソン)がいて、出すぎず下がりがりすぎず調整。
- 地域を思う気持ちが人とのつながりを生み、行動へと発展していきます。過程を大切に。

### 2)今後の課題

- ・**地域福祉の推進役が相談できる場の充実**  
研修の充実、中核機関の相談窓口の整備
- ・**行政のアプローチと地域の実情とのバランス**  
行政側が縦割りで事業を地域に持ってくるのがまだまだ多い。  
地域の実情と行政側の柔軟性

### 参考文献・資料

- ・ 地域包括支援センター マニュアル  
財団法人 長寿社会開発センター
- ・ 認知症のひとと家族を支える地域づくりの手引書  
東京都福祉保険局
- ・ 認知症の人の地域包括ケア  
他職種で取り組むステージアプローチ  
永田久美子 著
- ・ 「地域包括ケア研究会報告」  
地域包括ケア研究会
- ・ 圏域の重層化で地域福祉はどう変わる？  
住民流福祉総合研究所

編集・発行 大阪市社会福祉研修・情報センター  
〒557-0024 大阪市西成区出城 2-5-20  
電話 06-4392-8201 FAX 06-4392-8206